平成27年

双葉町議会会議録

第1回定例会

3月9日開会～3月17日閉会

双葉町議会

平成27年第1回双葉町議会定例会会議録目次

招集告示	1
応招・不応招議員	2

第 1 日 (3月9日)

議事日程	3
出席議員	5
欠席議員	5
地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	5
職務のため議場に出席した者の職氏名	5
開 会	6
開 議	6
議事日程の報告	6
会議録署名議員の指名	6
会期の決定	6
諸般の報告	6
行政報告	6
議案第3号から議案第43号までの一括上程	10
議案第3号から議案第43号までの提案理由の説明	10
町長施政方針	17
散 会	20

第 2 日 (3月10日)

議事日程	21
出席議員	22
欠席議員	22
地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	22
職務のため議場に出席した者の職氏名	22
開 議	23
議事日程の報告	23
一般質問	23

羽山君子君	23
菅野博紀君	28
谷津田光治君	42
白岩寿夫君	52
散会	56

第 8 日 (3月16日)

議事日程	57
出席議員	59
欠席議員	59
地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	59
職務のため議場に参加した者の職氏名	59
開 議	60
議事日程の報告	60
議案第3号の質疑、討論、採決	60
議案第4号の質疑、討論、採決	60
議案第5号の質疑、討論、採決	61
議案第6号の質疑、討論、採決	62
議案第7号の質疑、討論、採決	62
議案第8号の質疑、討論、採決	67
議案第9号の質疑、討論、採決	68
議案第10号の質疑、討論、採決	69
議案第11号の質疑、討論、採決	69
日程の追加	71
議案第11号の取り下げの件	71
議案第12号の質疑、討論、採決	71
議案第13号の質疑、討論、採決	74
議案第14号の質疑、討論、採決	75
議案第15号の質疑、討論、採決	76
議案第16号の質疑、討論、採決	76
議案第17号の質疑、討論、採決	77
議案第18号の質疑、討論、採決	77
議案第19号の質疑、討論、採決	78

議案第 2 0 号の質疑、討論、採決	7 9
議案第 2 1 号の質疑、討論、採決	7 9
議案第 2 2 号の質疑、討論、採決	8 0
議案第 2 3 号の質疑、討論、採決	8 0
議案第 2 4 号の質疑、討論、採決	8 1
議案第 2 5 号の質疑、討論、採決	8 2
議案第 2 6 号の質疑、討論、採決	8 3
議案第 2 7 号の質疑、討論、採決	8 3
議案第 2 8 号の質疑、討論、採決	8 4
議案第 2 9 号の質疑、討論、採決	8 4
議案第 3 0 号の質疑、討論、採決	8 5
議案第 3 1 号の質疑、討論、採決	8 6
議案第 3 2 号の質疑、討論、採決	8 6
議案第 3 3 号の質疑、討論、採決	8 7
発言の取り消し	9 7
議案第 3 4 号の質疑、討論、採決	1 0 0
議案第 3 5 号の質疑、討論、採決	1 0 1
議案第 3 6 号の質疑、討論、採決	1 0 2
散 会	1 0 3

第 9 日 (3月17日)

議事日程	1 0 5
出席議員	1 0 6
欠席議員	1 0 6
地方自治法第 1 2 1 条により説明のため出席した者の職氏名	1 0 6
職務のため議場に参加した者の職氏名	1 0 6
開 議	1 0 7
議事日程の報告	1 0 7
発言の訂正	1 0 7
議案第 3 7 号の質疑、討論、採決	1 0 7
発言の訂正	1 1 5
議案第 3 8 号の質疑、討論、採決	1 2 9
議案第 3 9 号の質疑、討論、採決	1 3 1

議案第40号の質疑、討論、採決	132
議案第41号の質疑、討論、採決	133
議案第42号の質疑、討論、採決	135
議案第43号の質疑、討論、採決	137
議案第44号の上程、説明、質疑、討論、採決	138
発議第1号の上程、説明、質疑、討論、採決	139
議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査について	140
議員派遣の件	140
閉 会	140

3 月 定 例 町 議 会

(第 1 号)

27 双葉町告示第2号

平成27年第1回双葉町議会定例会を、次のとおり招集する。

平成27年2月17日

双葉町長 伊 澤 史 朗

1. 期 日 平成27年3月9日（月）
午前10時

2. 場 所 双葉町役場いわき事務所 2階大会議室

○応招・不応招議員

○応招議員（8名）

1番 羽山君子君
3番 高萩文孝君
5番 清川泰弘君
7番 岩本久人君

2番 白岩寿夫君
4番 菅野博紀君
6番 谷津田光治君
8番 佐々木清一君

○不応招議員（なし）

平成27年第1回双葉町議会定例会議事日程（第1号）

平成27年3月9日（月曜日）午前10時開会

開 会

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 諸般の報告 監査・検査結果報告
双葉地方広域市町村圏組合議会報告
双葉地方水道企業団議会報告
- 日程第4 行政報告
- 日程第5 議案第 3号 教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例の制定について
- 日程第6 議案第 4号 教育長の勤務時間その他勤務条件に関する条例の制定について
- 日程第7 議案第 5号 職員の配偶者同行休業に関する条例の制定について
- 日程第8 議案第 6号 平成27年度東日本大震災等による被災者に対する町税の減免に関する条例の制定について
- 日程第9 議案第 7号 双葉町中間貯蔵施設整備等影響緩和交付金基金条例の制定について
- 日程第10 議案第 8号 双葉町特定原子力施設地域振興事業公共用施設維持補修基金条例の制定について
- 日程第11 議案第 9号 双葉町特定原子力施設地域振興事業公共用施設事業運営基金条例の制定について
- 日程第12 議案第10号 双葉町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定について
- 日程第13 議案第11号 双葉町行政手続条例の一部改正について
- 日程第14 議案第12号 双葉町職員定数条例の一部改正について
- 日程第15 議案第13号 双葉町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部改正について
- 日程第16 議案第14号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について
- 日程第17 議案第15号 双葉町特別職報酬等審議会条例の一部改正について
- 日程第18 議案第16号 町長等の給与及び旅費に関する条例の一部改正について
- 日程第19 議案第17号 職員の給与に関する条例の一部改正について
- 日程第20 議案第18号 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の一部改正について
- 日程第21 議案第19号 職員等の旅費に関する条例の一部改正について
- 日程第22 議案第20号 双葉町税条例の一部改正について

- 日程第23 議案第21号 双葉町教育委員会の委員の定数に関する条例の一部改正について
- 日程第24 議案第22号 双葉町教育委員会事務局の指導主事の給与に関する条例の一部改正について
- 日程第25 議案第23号 双葉町介護保険条例の一部改正について
- 日程第26 議案第24号 東日本大震災による被災者に対する介護保険料の減免に関する条例の一部改正について
- 日程第27 議案第25号 双葉町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正について
- 日程第28 議案第26号 双葉町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について
- 日程第29 議案第27号 双葉町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正について
- 日程第30 議案第28号 双葉町下水道条例の一部改正について
- 日程第31 議案第29号 教育長の給与、勤務時間その他勤務条件に関する条例の廃止について
- 日程第32 議案第30号 双葉町固定資産評価審査委員会委員の選任について
- 日程第33 議案第31号 双葉町固定資産評価審査委員会委員の選任について
- 日程第34 議案第32号 双葉町固定資産評価審査委員会委員の選任について
- 日程第35 議案第33号 平成26年度双葉町一般会計補正予算（第7号）
- 日程第36 議案第34号 平成26年度双葉町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）
- 日程第37 議案第35号 平成26年度双葉町公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）
- 日程第38 議案第36号 平成26年度双葉町介護保険特別会計補正予算（第3号）
- 日程第39 議案第37号 平成27年度双葉町一般会計予算
- 日程第40 議案第38号 平成27年度双葉町国民健康保険特別会計予算
- 日程第41 議案第39号 平成27年度双葉町公有林整備事業特別会計予算
- 日程第42 議案第40号 平成27年度双葉町公共下水道事業特別会計予算
- 日程第43 議案第41号 平成27年度双葉町工業団地造成事業特別会計予算
- 日程第44 議案第42号 平成27年度双葉町介護保険特別会計予算
- 日程第45 議案第43号 平成27年度双葉町後期高齢者医療特別会計予算
- 日程第46 平成27年度町長施政方針

散 会

○出席議員（8名）

1番	羽山君子君	2番	白岩寿夫君
3番	高萩文孝君	4番	菅野博紀君
5番	清川泰弘君	6番	谷津田光治君
7番	岩本久人君	8番	佐々木清一君

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町長	伊澤史朗君
副町長	半澤浩司君
教育長	半谷淳君
総括参事	武内裕美君
秘書広報課長	平岩邦弘君
総務課長	舶来丈夫君
参事兼 復興推進課長	駒田義誌君
税務課長	山本一弥君
産業建設課長兼 農業委員会兼 農事局長兼 コミュニティ センター所長	猪狩浩君
住民生活課長	松本信英君
参事兼 健康福祉課長兼 青年婦人会館長	大住宗重君
生活支援課長兼 埼玉支所長	志賀睦君
教育総務課長	今泉祐一君
会計管理者	半谷安子君
代表監査委員	五十嵐一雄君

○職務のため議場に出席した者の職氏名

事務局長	山下正夫
書記	大浦寿子

◎開会の宣告

○議長（佐々木清一君） おはようございます。ただいまの出席議員は8名です。定足数に達しておりますので、ただいまから平成27年第1回双葉町議会定例会を開会します。

（午前10時00分）

◎開議の宣告

○議長（佐々木清一君） これから本日の会議を開きます。

◎議事日程の報告

○議長（佐々木清一君） 本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりです。

◎会議録署名議員の指名

○議長（佐々木清一君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第120条の規定により、議長において、4番、菅野博紀君、5番、清川泰弘君を指名します。

◎会期の決定

○議長（佐々木清一君） 日程第2、会期の決定を議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、3月4日開催の議会運営委員会でご審議をいただき、本日から3月17日までの9日間とすることにご報告をいただきました。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 異議なしと認めます。

よって、会期は本日から17日までの9日間に決定しました。

◎諸般の報告

○議長（佐々木清一君） 日程第3、諸般の報告を行います。

監査・検査結果の報告、双葉地方広域市町村圏組合議会の報告、双葉地方水道企業団議会の報告をします。

お手元に配付した報告書、議決書の写しをもって報告にかえさせていただきます。ご了承願います。

これで諸般の報告を終わります。

◎行政報告

○議長（佐々木清一君） 日程第4、行政報告を行います。

町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） おはようございます。平成27年第1回双葉町議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、大変お忙しい中ご出席を賜り、まことにありがとうございます。

12月定例会以降の行政経過についてご報告いたします。

昨年4月1日に再開しました双葉町立幼稚園、小学校、中学校につきましては、3月で1年が経過いたします。昨年の2学期からは、学習環境が整った仮設校舎におきまして、幼小中合わせて16名の子供たちが毎日元気に勉強と運動に励んでいるところであり、ICT教育など少人数を活かした特色ある教育、学校づくりを行っております。

1月3日は、いわき市内のホテルにおきまして、平成27年双葉町成人式を挙行いたしました。東日本大震災と原子力発電所の事故で全国に避難されている中、79名の新成人の皆様が出席されました。多数の来賓の方々を前にして、「はたちの夢・希望」と題した新成人の意見発表では、ふるさと双葉町の復興に向けた貴重な意見が出されましたことに心を打たれたところであります。

町民同士のコミュニティーの維持、確保を図ることを目的として福島県郡山市と埼玉県加須市に開設した町民交流施設は、多くの町民の方に利用いただいているところです。郡山市のせんだん広場では民謡教室、編み物教室等が行われ、平成27年1月末現在で延べ2,475人の利用がありました。また、加須市のふたば交流広場ではパソコン教室、踊りの練習、児童のための勉強会等が行われ、延べ703人の利用がありました。今後とも復興支援員等と連携しながら、また町民の皆様の協力を得ながら、町民交流施設の利活用を進めてまいります。

1月10日、11日、「夢ふたば人」の主催で、新春恒例のダルマ市がいわき市南台応急仮設住宅イベント広場を会場に開催されました。両日とも好天に恵まれ、会場には双葉町商工会青年部、女性部を初め多くの団体等の出店をいただき、県内外の避難先から訪れた町民や、縁起物のダルマを買い求める地元の人々など、大勢のご来場者でにぎわいを見せておりました。

2月28日20時から国道288号線の一部と県道いわき・浪江線の一部が24時間の通行が可能となり、また3月1日には常磐自動車道が全線開通となったことにより、中通り、会津地区はもとより、全国の地域と相双、いわき地区の人、物の交流が活性化し、町民相互のコミュニティーやきずなの維持、被災地域の復興に資するものと期待しております。

一方、通過車両の増加に伴い、双葉町内の防犯、防災対策を十分図る必要があります。これまでも町内への入域者が増加していることを考慮し、1月6日より町内の防犯対策及び監視強化のため、24時間体制による町内パトロールを警備会社に委託し、実施しているところであります。

また、震災後、当面の消防水利を確保する目的で、双葉地方広域市町村圏組合消防本部の仮設防火水槽が役場敷地内と双葉駅南側駐車場の2カ所設置されておりましたが、町の取り組みとして、2月

に新山、長塚地内の7カ所に仮設防火水槽を新たに設置いたしました。

3月8日には、震災から4年を前に、いわき市内において東日本大震災双葉町追悼式を行いました。遺族や関係者103人が参列し、亡くなられた方々のご冥福を祈るとともに、一日も早い双葉町の復興を誓ったところです。

町の復興に向けた取り組みにつきましては、2月24日に双葉町復興推進委員会から、双葉町復興まちづくり長期ビジョンの最終報告をいただきました。私としては、この報告を尊重しつつ、議会の皆様のご意見をお伺いした上で、町の復興まちづくり長期ビジョンを決定し、このビジョンに基づき、町の復興に向けた具体的な取り組みを進めてまいりたいと考えておりますので、議会の皆様のご理解をお願いいたします。双葉町の復興を進めるためには、避難指示解除準備区域から段階的に町の復興を進めていくことが重要と考えております。そのため、双葉町の復興のさきがけとなる両竹、浜野地区の復旧、復興を進めるため、地区住民の皆様の意向調査や説明会を経て提言された津波被災地域復興小委員会の報告を踏まえ、双葉町津波被災地域復旧・復興事業計画（両竹・浜野地区復興計画）を策定し、具体的な復興事業の実施に向けた調整を進めてまいります。

町民の皆様の生活再建に向けた取り組みは、町の復興に向けた取り組みとの両輪で引き続き進めてまいります。2月24日に双葉町復興推進委員会からいただいた最終報告において、生活再建に向けた当面の取り組みに関して、改善すべき点などについても提言を受けました。この報告を踏まえて、昨年3月に策定をしました双葉町復興まちづくり計画（第一次）に基づく事業計画（実施計画）について改訂を行い、町民のニーズに沿った取り組みを進めてまいります。

復興公営住宅の整備がいわき市、郡山市、南相馬市、白河市などにおいて進められています。入居募集は順次行われており、郡山市八山田団地で昨年11月に入居が始まったほか、いわき市下神白団地が本年3月末までに入居できることとなっております。今後、白河市鬼越団地、南相馬市上町団地、郡山市東原団地、鶴見坦団地で募集が始まる予定です。

一方、190世帯の入居が予定されているいわき市勿来酒井地区の復興公営住宅については、県から平成29年度後期まで完成が遅れる旨の説明がありました。多くの町民が住宅の完成を待ち望んでいる中でこの遅れは大変遺憾であり、県には整備スケジュールの短縮や段階的な整備、入居ができるよう強く求めたところです。

今後も引き続き、できる限り早期に入居できるよう、国、県、受け入れ自治体と協議を進めてまいります。

原子力損害賠償につきましては、平成26年12月に国及び東京電力が営業損害に係る賠償の終期の素案を関係団体に示しましたが、その内容は到底納得できるものではないことから、町としても被害者の実態に応じた賠償の延長を国及び東京電力に対して要求したところです。町としては、引き続き、被害者に寄り添った賠償がなされるよう、国及び東京電力へ要求してまいります。

一方、平成27年1月末現在において、仮払金から本賠償請求を行っていない方が137名おり、徐々

に減ってきているものの、依然として未請求の方がおりますので、引き続き、未請求者の皆さんに対する賠償請求について周知を進めてまいります。

東京電力福島第一原子力発電所においては、平成25年11月18日から開始された4号機使用済み燃料プールからの燃料取り出し作業が平成26年12月22日に全てが完了したところであり、廃炉に向けた取り組みが進められている一方、年度内を目標にしていた汚染水全量処理の遅れや凍土遮水壁の運用の遅れのほか、瓦れき一時保管エリアにおけるテントの屋根の一部破損や港湾内への放射性物質の流出といったトラブルが発生するなど、依然として町民に多くの不安を与えているところです。町としては、引き続き、国及び東京電力に対して、廃炉作業を安全かつ着実に行うよう求めてまいります。

また、これまでの東京電力株式会社福島第一原子力発電所周辺地域の安全確保に関する協定書を廃止し、廃炉等の実施に係る周辺地域住民の安全確保を目的とした内容に拡充、強化した新たな協定として、東京電力株式会社福島第一原子力発電所の廃炉等の実施に係る周辺地域の安全確保に関する協定書を、1月7日に福島県、大熊町とともに東京電力と締結いたしました。今後は、新たな協定に基づき、東京電力には廃炉作業の適切な措置を求めるとともに、福島県と連携して安全監視を着実に行ってまいります。

中間貯蔵施設についてであります。昨年11月から12月にかけて開催した町政懇談会での意見を踏まえ、1月8日に行政区長会を開催し、区長の皆様からもご意見をいただきました。さらに、1月13日には議会全員協議会で、町として施設建設の受け入れを判断したい旨を申し上げ、議会の了解をいただいたことから、翌14日には町民の皆様へ周知したところです。

建設受け入れ判断の際には、昨年9月、福島県が建設受け入れを容認した際に設定した「県外最終処分の法案の成立」や「県及び双葉町・大熊町との安全協定案の合意」などの5項目のうち、町も名を連ねる安全協定については町も内容を精査、確認していくこととし、残りの4項目は県がしっかり確認して対応いただきたいと申し上げてきたところであります。

その後、2月4日の議会全員協議会において環境省より安全協定案の説明があり、また2月8日には環境省から福島県に対して5項目の回答がなされたところであります。

議会からは2月13日に町に対して安全協定案への修正要望が出され、大熊町議会から、大熊町に出された要望とあわせて、国、県に対して協定案の修正に応じるよう求めてきました。

2月24日には県知事と両町長及び議長の協議が行われ、引き続き県と双葉8町村との協議が行われました。県と2町の協議の中で、安全協定については県としても両町及び議会の修正要望を国に応じるよう求めること、残り4項目については県が内容を精査し、おおむね県と2町の意向を踏まえた対応がなされているとの説明を受けました。その際、県知事からは、県として搬入受け入れを容認したいとの意向を伺いましたが、私は、町及び議会からの協定案への修正要望が反映されたことを確認してから判断したいと申し上げました。

翌25日には国、県、2町との協議が行われ、安全協定に対する修正要望が反映されたことを確認し、

協定を締結することをもって、県の搬入受け入れ容認の判断を了解したものであります。

なお、その場の協議において、私からは、中間貯蔵施設は地権者の理解なくして進められないことを肝に銘じることと、地元の感情を逆なでするような強引な進め方をしないよう強く求めたところがあります。

一方、地権者に対する町の取り組みとしましては、2月の臨時議会で承認いただきました中間貯蔵施設に係る地権者の相談窓口を開設し、2月25日に初回の弁護士による相談対応を行いました。今月は11日に郡山支所で、25日にはいわき事務所で相談窓口を開設し、地権者の皆様の不安や疑問に対応してまいる考えであります。

最後に、本定例会に提案いたしました案件について申し上げます。条例の制定が8件、条例の一部改正が18件、条例の廃止が1件、委員の選任が3件、平成26年度補正予算が4件、平成27年度当初予算が7件、合わせて41件となりますので、慎重なるご審議をいただき、議決賜りますようお願い申し上げます。

○議長（佐々木清一君） これで行政報告を終わります。

◎議案第3号から議案第43号までの一括上程

○議長（佐々木清一君） 日程第5、議案第3号から日程第45、議案第43号までを一括上程したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 異議なしと認めます。

よって、議案第3号から議案第43号までを一括上程いたします。

◎議案第3号から議案第43号までの提案理由の説明

○議長（佐々木清一君） 議案第3号から議案第43号までの提案理由の説明を求めます。

町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） 議案第3号 教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例の制定についてであります。地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴い、法律の改正後に任命される教育長は常勤の特別職となり、地方公務員法の職務専念義務が適用されなくなることから、新たに教育長に係る職務専念義務の免除についての条例を制定するものであります。また、現在の教育長が在職する間は、従前の規定が適用されることとしております。

議案第4号 教育長の勤務時間その他勤務条件に関する条例の制定についてであります。地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴い、法律の改正後に任命される教育長は常勤の特別職となることから、新たに教育長に係る勤務時間等についての条例を制定するものであります。ま

た、現在の教育長が在職する間は、従前の規定が適用されることとしております。

議案第5号 職員の配偶者同行休業に関する条例の制定についてであります。地方公務員法の一部改正に伴い、新たに職員の配偶者同行休業制度が創設されたことから、条例を制定するものであります。

議案第6号 平成27年度東日本大震災等による被災者に対する町税の減免に関する条例の制定についてであります。これは東日本大震災及び原子力災害の被害を受けている納税義務者の税負担の軽減を図るため条例を制定するものです。

議案第7号 双葉町中間貯蔵施設整備等影響緩和交付金基金条例の制定についてであります。中間貯蔵施設の整備や同施設への県内除去土壌の収集及び運搬に伴う影響を緩和するために必要な生活再建及び町の地域振興等を図るために行う事業の財源として中間貯蔵施設整備等影響緩和交付金が交付されることとなり、この交付金を後年度の事業財源として積み立てるものです。

議案第8号 双葉町特定原子力施設地域振興事業公共用施設維持補修基金条例の制定についてであります。これは福島県市町村特定原子力施設地域振興事業補助金交付要綱に基づく基金条例の制定であります。

条例の目的は、町が整備した公共用施設の修繕その他の維持補修に要する資金を、福島県市町村特定原子力施設地域振興事業補助金交付要綱に基づき交付される交付金のうち、基金造成費に係るものをもって積み立てるものです。

議案第9号 双葉町特定原子力施設地域振興事業公共用施設事業運営基金条例の制定についてであります。これは福島県市町村特定原子力施設地域振興事業補助金交付要綱に基づく基金条例の制定であります。

条例の目的は、町が整備した公共用施設の事業運営並びに東日本大震災に対応するための災害復旧及び復興を目的とする生活環境の整備を図る事業に要する資金を、福島県市町村特定原子力施設地域振興事業補助金交付要綱に基づき交付される補助金のうち、基金造成費に係るものをもって積み立てるものです。

議案第10号 双葉町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定についてであります。子ども・子育て支援法の制定により、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を町で定める必要があることから、条例を制定するものであります。

議案第11号 双葉町行政手続条例の一部改正についてであります。行政手続法の一部が改正され、行政指導の中止等の求め及び処分等の求めに関する規定が設けられたこと等に伴い、町の条例において同様の規定を設ける必要があることから、改正するものです。

議案第12号 双葉町職員定数条例の一部改正についてであります。現状の業務に合わせた職員数を確保して業務執行するために、教育委員会事務局を5名減らし、町長の事務局を5名ふやすために改正するものであります。

議案第13号 双葉町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部改正についてであります。地方公務員法の一部改正に伴い、任命権者の報告事項に職員の休業の状況を加えるため改正するものであります。

議案第14号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正についてであります。地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴い、教育委員会委員長の報酬を削除するものであります。また、その他の非常勤特別職の報酬については、東日本大震災及び原子力発電所の事故以降、行政区長の報酬を4分の1に減額しておりましたが、これを2分の1の減額とすること、また期日前投票管理者、期日前投票立会人及び投票立会人の報酬を、6時間以内の勤務時間の場合2分の1の額を支給するよう改正するものであります。

議案第15号 双葉町特別職報酬等審議会条例の一部改正についてであります。地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴い、法律の改正後に任命される教育長は常勤の特別職となることから、改正するものであります。また、現在の教育長が在職する間は、従前の規定が適用されることとしております。

議案第16号 町長等の給与及び旅費に関する条例の一部改正についてであります。地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴い、法律の改正後に任命される教育長は常勤の特別職となることから、改正するものであります。また、現在の教育長が在職する間は、従前の規定が適用されることとしております。

議案第17号 職員の給与に関する条例の一部改正についてであります。国の人事院勧告及び福島県人事委員会勧告に伴い、給料月額を若年層で引き上げ、中高年齢層では引き下げを行い、平均で約1%を引き下げる改正をするものであります。

各種手当については、福島県人事委員会勧告に伴い、通勤手当及び単身赴任手当の支給額を増額し、管理職員特別勤務手当はこれまで週休日や祝日の勤務のみが支給要件でありましたが、平日の深夜に緊急を要する勤務をした場合にも支給することができることとし、勤勉手当は、年間の支給月数は変わりませんが、6月と12月の支給率を同率にするように改正するものであります。また、再任用職員についても、福島県人事委員会勧告に伴い、新たに住居手当及び単身赴任手当を支給できるものとするよう改正するものであります。

議案第18号 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の一部改正についてであります。国の人事院勧告及び福島県人事委員会勧告に伴い、職員の給与に関する条例に新たな附則を規定することにより、これまで適用してきた平成18年条例第14号の規定を廃止するため改正するものであります。

議案第19号 職員等の旅費に関する条例の一部改正についてであります。地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴い、旅費の支給対象者として、新たに大綱を策定するために総合教育会議へ参加する意見聴取者を明記する必要があることから、改正するものであります。

議案第20号 双葉町税条例の一部改正についてであります。行政手続法の一部を改正する法律が

公布されたことによる双葉町行政手続条例の一部改正に伴い、引用条項を改正するものであります。

議案第21号 双葉町教育委員会の委員の定数に関する条例の一部改正についてであります。地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴い、双葉町教育委員会の委員の定数を6人から5人に改正するものであります。また、現在の教育長が在職する間は、従前の規定が適用されることとしております。

議案第22号 双葉町教育委員会事務局の指導主事の給与に関する条例の一部改正についてであります。地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴い、引用条項を改正するものであります。

議案第23号 双葉町介護保険条例の一部改正についてであります。介護保険法の改正により、第1号被保険者の区分及び介護予防・日常生活支援総合事業等に関する経過措置について定めるものであります。また、第6期介護保険事業計画に反映させるため、介護保険料の額の改正を行うものであります。

議案第24号 東日本大震災による被災者に対する介護保険料の減免に関する条例の一部改正についてであります。東日本大震災及び原子力災害の被害を受けた介護保険法第9条第1項に規定する第1号被保険者が納付すべき介護保険料の減免期間を平成28年3月分まで延長することにより、被保険者の負担軽減を図るため改正するものであります。

議案第25号 双葉町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正についてであります。介護保険法等の改正に伴い、指定介護予防支援事業者の資格を新たに加え、また事業者が遵守すべき基準として厚生労働省令を引用しているものを福島県条例の規定に置きかえるため改正するものであります。

議案第26号 双葉町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正についてであります。介護保険法等の改正に伴い、事業者が遵守すべき基準として厚生労働省令を引用しているものを福島県条例の規定に置きかえるため改正するものであります。

議案第27号 双葉町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正についてであります。介護保険法等の改正に伴い、事業者が遵守すべき基準として厚生労働省令を引用しているものを町条例の規定に置きかえるために改正するものであります。

議案第28号 双葉町下水道条例の一部改正についてであります。この条例は下水道法施行令の一部改正に伴い、公共下水道へ排除されるカドミウムに係る基準を改正するものであります。

議案第29号 教育長の給与、勤務時間その他勤務条件に関する条例の廃止についてであります。地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴い、法律の改正後に任命される教育長は常勤の特別職となるため、条例を廃止するものであります。また、現在の教育長が在職する間は、従前

の規定が適用されることとしております。

議案第30号 双葉町固定資産評価審査委員会委員の選任についてであります。本年3月31日で任期満了となるため、新たに石田翼氏を選任するに当たり、議会の同意をお願いするものであります。

議案第31号 双葉町固定資産評価審査委員会委員の選任についてであります。本年3月31日で任期満了となるため、新たに高野利彦氏を選任するに当たり、議会の同意をお願いするものであります。

議案第32号 双葉町固定資産評価審査委員会委員の選任についてであります。本年3月31日で任期満了となるため、引き続き横山壽氏を選任するに当たり、議会の同意をお願いするものであります。

議案第33号 平成26年度双葉町一般会計補正予算（第7号）についてであります。歳入歳出それぞれ395億6,114万9,000円を追加し、歳入歳出予算の総額は480億5,464万2,000円となります。

歳入の主なものについて申し上げます。町税は、町民税の個人分、法人分を合わせて3,327万7,000円、固定資産税940万9,000円を追加いたしました。地方交付税は、普通交付税、特別交付税合わせて4億5,303万7,000円を追加いたしました。国庫支出金は、中間貯蔵施設整備等影響緩和交付金の追加及び福島原子力災害避難区域等帰還・再生加速事業委託金の減額などにより、388億2,219万8,000円を追加いたしました。県支出金は、核燃料税交付金など2億7,341万8,000円を追加いたしました。繰入金は、東日本大震災復興基金や復興まちづくり基金3,836万2,000円を減額いたしました。

次に、歳出についてであります。事務事業の確定等により、多くの科目で減額補正となりました。総務費及び衛生費の双葉地方広域市町村圏組合への負担金として3億4,035万円を追加いたしました。東日本大震災復興基金や中間貯蔵施設整備等影響緩和交付金基金などへの積立金として395億4,370万1,000円を追加いたしました。また、債務負担行為補正、繰越明許費を計上いたしました。

議案第34号 平成26年度双葉町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）についてであります。歳入歳出それぞれ307万3,000円を減額し、歳入歳出予算の総額は16億5,246万円となります。

議案第35号 平成26年度双葉町公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）についてであります。歳入歳出それぞれ342万6,000円を減額し、歳入歳出予算の総額は3億1,254万5,000円となります。

議案第36号 平成26年度双葉町介護保険特別会計補正予算（第3号）についてであります。歳入歳出それぞれ1,925万円を減額し、歳入歳出予算の総額を10億3,125万2,000円とするものであります。

議案第37号 平成27年度双葉町一般会計予算についてであります。歳入歳出予算の総額は87億6,000万円で、前年度比21億6,000万円、32.7%の増となります。

歳入について申し上げます。

町税は、11億4,573万6,000円で、前年度比3,633万6,000円の減を見込んでおります。町民税の個人分が951万6,000円の増、固定資産税が5,001万5,000円の減となっております。

地方交付税は、6億9,632万円で、うち震災復興分を含む特別交付税は4億3,932万円となっております。

国庫支出金は、8億6,343万1,000円で、教育費国庫補助金や民生費国庫委託金の減などにより、前

年度比19億6,666万2,000円の減。

県支出金は、30億1,932万7,000円で、県補助金の増などにより、前年度比26億617万5,000円の増を見込んでおります。

繰入金は、公共用施設事業運営基金や中間貯蔵施設立地町地域振興交付金基金、東日本大震災復興基金などからの繰入金25億8,183万8,000円を計上し、各種事務事業に充当してまいります。

町債は、臨時財政対策債1億8,900万円を見込んでおります。

続いて、歳出について申し上げます。

議会費は、前年度比270万円増の6,537万1,000円となります。

総務費は、前年度比3,798万円増の10億2,181万9,000円となります。番号法導入に伴う経費や戸籍電算化システム更新に伴う機器購入費、いわき事務所、郡山支所、埼玉支所の管理運営経費、福島県議会議員一般選挙や農業委員会委員一般選挙の執行経費などを計上しております。

民生費は、前年度比6億8,237万9,000円減の16億6,513万4,000円となります。臨時福祉給付金事業、子育て世帯臨時特例給付金事業、ICTきずな支援システム運用支援業務委託料、双葉町内防犯・防災パトロール事業業務委託料、町民交流施設事業に係る経費などを計上しております。

衛生費は、前年度比17億607万4,000円増の19億2,427万3,000円で、総合健康診査業務委託料や尿による内部被曝検査業務委託料、また中間貯蔵施設に関する地権者支援事業給付金などを計上しております。

労働費は、前年度比255万9,000円減の6,876万円となります。平成27年度も緊急雇用創出基金事業を実施してまいります。

農林水産業費は、前年度比1,005万9,000円減の4,919万4,000円となります。避難農業者一時就農等支援事業補助金などを計上しております。

商工費は、前年度比89万円減の5,961万2,000円となります。双葉町商工会振興補助金や双葉町観光協会事務局運営費補助金、双葉町観光復興再生事業補助金などを計上しております。

土木費は、前年度比2,263万4,000円増の3億8,490万4,000円となります。町道等環境整備業務委託料などを計上してしております。

消防費は、前年度比2,249万3,000円減の1億6,209万7,000円となります。双葉地方広域市町村圏組合への負担金などを計上しております。

教育費は、前年度比5億2,488万5,000円減の2億8,590万6,000円となります。幼稚園就園奨励費補助金や要保護及び準要保護児童生徒就学援助費、仮設校舎等運営管理費、地域スポーツ振興事業業務委託料などを計上しております。

災害復旧費は、前年度比3,186万5,000円増の4,416万5,000円となります。公共土木施設災害復旧測量設計業務委託料などを計上しております。

公債費は、前年度比1,296万3,000円減の2億2,933万6,000円となります。

諸支出金は、前年度比16億879万6,000円増の27億4,095万4,000円で、中間貯蔵施設立地町地域振興交付金基金や特定原子力施設地域振興事業共用施設事業運営基金、特定原子力施設地域振興事業共用施設維持補修基金などへの積み立てを行ってまいります。

予備費は、前年度比617万9,000円増の5,847万5,000円となります。

議案第38号 平成27年度双葉町国民健康保険特別会計予算についてであります。歳入歳出予算の総額は16億4,295万7,000円で、前年度比1億9,894万3,000円、13.8%の増となります。

歳入は、国庫支出金8億4,090万2,000円、前期高齢者交付金1億6,975万5,000円、共同事業交付金4億1,583万7,000円が主なものであります。

歳出の主なものは、保険給付費10億8,373万8,000円、後期高齢者支援金等1億4,107万9,000円、共同事業拠出金3億67万円であります。

議案第39号 平成27年度双葉町公有林整備事業特別会計予算についてであります。歳入歳出予算の総額はそれぞれ521万9,000円で、前年度比55万3,000円、9.5%の減となります。

歳入は、一般会計からの繰入金であります。

歳出は、農林水産業費に森林保険料70万9,000円、公債費に公有林整備事業債の償還元金と利子合わせて451万円を計上いたしました。

議案第40号 平成27年度双葉町公共下水道事業特別会計予算についてであります。歳入歳出予算の総額は3億572万8,000円で、前年度比865万6,000円、2.8%の減となります。

歳入は、一般会計からの繰入金3億562万3,000円が主なものであります。

次に、歳出の主なものであります。下水道総務費に職員の人件費等999万5,000円を計上し、下水道建設費に下水管路被災箇所調査業務委託料500万円を計上いたしました。

公債費には、公共下水道事業債の償還元金と利子合わせて2億9,063万3,000円を計上いたしました。

議案第41号 平成27年度双葉町工業団地造成事業特別会計予算についてであります。歳入歳出予算の総額は216万4,000円で、前年同額となります。

歳入は、土地使用料203万3,000円、前年度繰越金13万1,000円を計上いたしました。

歳出は、一般会計繰出金203万4,000円、予備費13万円を計上いたしました。

議案第42号 平成27年度双葉町介護保険特別会計予算についてであります。歳入歳出予算総額9億5,492万6,000円で、前年度比1億328万9,000円、12.1%の増となります。国民の共同連帯の理念に基づき、給付と負担の関係が明確な社会保険方式により保健、医療、福祉にわたる介護サービスが総合的に利用できるよう、円滑な運営を図ってまいります。

議案第43号 平成27年度双葉町後期高齢者医療特別会計予算についてであります。歳入歳出予算の総額は6,705万8,000円、前年度比528万9,000円、8.6%の増となります。

歳入は、被保険者からの保険料と一般会計からの繰入金が主なものとなっております。

歳出の主なものは、後期高齢者医療広域連合への納付金であります。

以上、提案いたしました議案について、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（佐々木清一君） 提案理由の説明を終わります。

◎町長施政方針

○議長（佐々木清一君） 日程第46、平成27年度町長施政方針を行います。

町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） 第1回双葉町議会定例会が開催されるに当たり、平成27年度の町政運営に対する私の所信を申し上げ、議員各位を初め、広く町民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

冒頭、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の発生から、今日11日で丸4年となります。改めて犠牲となられた皆様のご冥福をお祈りしますとともに、今なお厳しい避難生活を強いられ、不自由な生活を送られている町民の皆様に対し、心よりお見舞いを申し上げます。

今なお双葉町民は、全国39都道府県300以上の市区町村等に分散避難を続けておりますが、双葉町の復興を少しでも前に進めるため、昨年1年間を双葉町の本当の意味での「復興元年」と位置づけ、町立学校の再開、双葉町復興まちづくり長期ビジョンの策定に向けた取り組みや、復興公営住宅と双葉町外拠点の早期整備に向けた取り組み、中間貯蔵施設への対応など、さまざまな課題に取り組んでまいりました。

町民の皆様は避難生活も長期化し困難な状況にありますが、全町避難から5年目を迎える平成27年度も、引き続き双葉町の復興まちづくりの理念である、町民一人一人の復興と町の復興を目指し、双葉町が抱える諸課題の一つ一つに確実に取り組み、町民の皆様は双葉町の復興を実感していただけるよう、初心を忘れず誠心誠意取り組んでいく考えであります。

ここで、平成27年度に重点的に取り組むべき施策について申し上げます。

第1に、復興公営住宅を中心とした双葉町外拠点の早期整備についてであります。

双葉町民が集まって居住できる県営の復興公営住宅が、いわき市、郡山市、南相馬市、白河市に整備されることが決まりました。しかしながら、先日、福島県から、双葉町外拠点の中心となるいわき市勿来酒井地区の整備が平成29年度後期まで遅れるとの発表がありました。町としては、段階的な整備・入居を含めて、早期入居が可能となる措置を県に対して強く要請するとともに、双葉町地方町村会としても県への緊急要望を行いました。希望される町民の皆様が、一日でも早く復興公営住宅に入居できるよう、取り組んでまいります。

第2に、町の復興に向けた取り組みについてであります。

まず、町の将来像を明らかとした「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」についてであります。この最終報告を2月24日に双葉町復興推進委員会からいただきました。私としては、この報告を尊重しつつ、議会の皆様のご意見をお伺いした上で、町の「復興まちづくり長期ビジョン」を決定し、こ

のビジョンに基づき、町の復興に向けた具体的な取り組みを進めてまいりたいと考えておりますので、議会の皆様のご理解をお願いいたします。

双葉町の復興のさきがけとして、避難指示解除準備区域である両竹・浜野地区の復興を進めていきたいと考えております。両竹・浜野地区については、平成27年度中に除染が終了する見込みであり、その後、津波防御のための施設である、福島県による海岸堤防の整備が平成30年度、海岸防災林の整備が平成32年度を目標として進められます。こうしたことを勘案し、両竹・浜野地区については、おおむね5年から10年後までに、町の産業・復興拠点として発展を遂げていることを目標として、復興に向けた取り組みを進めていきたいと考えております。

具体的には、中野地区に、産業・業務機能の早期立地を軸とした「復興産業拠点」の整備を進め、ここに廃炉・除染・インフラ復旧等に従事する事業所の先行立地を図るほか、廃炉にかかわる研究機関などを誘致し、町の産業再生の先駆けとなる拠点としていく考えであります。また、復興祈念公園の設置を県に強く求めてまいります。さらに、両竹地区における再生可能エネルギー拠点の形成及び再生可能エネルギーを活かした植物工場等の農業再生モデル事業の構想の具体化に取り組んでいきたいと考えており、このような取り組みを通じて、双葉町の復興の兆しを町民の目に見える形で発信したいと考えております。

第3に、町内の除染、復旧、荒廃を防ぐ取り組みについてであります。

まず、除染については、避難指示解除準備区域内の両竹・浜野地区での本格除染のほか、帰還困難区域内における国による拠点除染として、双葉中学校、双葉高等学校、駅コミュニティセンター、双葉駐在所、国道288号線、県道4路線の実施計画がまとまり、一部除染が開始されたところであります。今後は、水道管が埋設されている町道なども実施される見込みです。

昨年8月に国の「大熊・双葉ふるさと復興構想」において、「町の復興拠点として重要な地区や施設等については、現時点において帰還困難区域であっても、町の復興に資する観点から優先的に除染を行うことを地元とともに検討する」とされていることから、引き続き帰還困難区域内の除染に向けて、国との協議を行ってまいります。

さらに、避難指示解除準備区域内において、現在国による津波瓦れきの処理が実施されているほか、平成27年度当初予算に、町道等の被害箇所測量設計や、町道環境整備のための費用を計上しました。特に、町道路肩の除草及び除草剤の散布を行うほか、倒壊家屋が町道をふさぎ、車両の通行に支障となっている箇所については、家屋の所有者の了解を得た上で、支障部分を取り除き、通行箇所の安全を確保していく考えであります。

また、町内の防犯対策や一時帰宅者の支援として、24時間体制での防犯防災パトロールも引き続き実施してまいります。

第4に、町民のきずなの維持・発展についてであります。全国各地に避難している町民の皆様のきずなをつなぎとめていくため、各種事業を実施いたします。主なものとして、今年度導入したタブレ

ット端末を活用した円滑な情報提供と利用促進を図るため、利用者への運用サポートと交流会を実施するほか、大字総会への参加費の一部助成、地域スポーツ振興事業の実施、復興支援員によるコミュニティづくりへの支援など、町民同士のきずなの維持と交流機会の拡大を図ってまいります。

このほか、町民の皆様の被害実態に沿った迅速、確実、十分な損害賠償を、引き続き国、東京電力へ要求していくことや、昨年度再開した町立学校での特色ある教育の推進と教育環境の充実、町民の皆様の内部被曝検査、甲状腺検査など健康管理対策、及び高齢者福祉対策などの喫緊の課題にも取り組んでまいります。

これらの平成27年度に行う町民の生活再建と町の復興に向けた取り組みについては、双葉町復興推進委員会の最終報告を踏まえて改訂する、双葉町復興まちづくり計画(第一次)に基づく事業計画にのっとり、各種施策を着実に実施してまいります。

次に、中間貯蔵施設について申し上げます。

この中間貯蔵施設は、福島県全体の復興を進める上で必要不可欠な施設である一方で、本施設の設置により、本町の復興に多大な影響を与える施設であることから、国、県に対しては、町の復興に特段の措置を講じるよう強く求めているところであります。

さらに、町への帰還の判断にも影響を及ぼす可能性が高いことから、施設及び輸送の安全確保はもちろん、国に対して、地権者、町民の皆様の生活再建の取り組みについても、今後ともしっかりと進めるよう強く要望しているところであります。

特に、国においては、本事業は地権者の理解なくしては進められないことを肝に銘じ、今後の対応として、地元の感情を逆なでするような強引な進め方をしないよう、虚心坦懐に地権者の声を聞き、丁寧に進めていくことを改めて強く要求するものであります。

町としましても、中間貯蔵施設に係る相談窓口における専門家の対応や地権者支援事業などに取り組んでまいります。

さて、去る3月1日には、念願であった常磐自動車道が全線開通し、双葉町を初めとする被災地の復興に弾みがつくものと考えており、その意味においても双葉町の復旧、復興に向けて、本年は、大変重要な年となると考えています。

しかし、その一方で福島第一原子力発電所での廃炉作業においては、作業中の重大事故や、汚染水の流出などの深刻なトラブルが相次いで発生しております。国と東京電力に対しては、安全確保の徹底と、廃炉措置の確実な実施を改めて強く要求するものであります。

さらに、ふるさと双葉町への帰還と町の再興、町民の皆様の生活再建策の充実、避難者支援の継続などについて、今後も国への要望を行ってまいります。

また、復興集中期間が平成27年度までとされていることから、他の地域に比べて特別に厳しい双葉町の現状を踏まえ、復興集中期間後においても、復興に関する財源の確実な確保を国に強く要望していく考えであります。

今後の町政運営に当たりましては、議会及び町民の皆様との対話を重視し、双葉町の復旧、復興のために邁進していきたいと考えておりますので、引き続きご協力とご支援をお願いいたします。

以上申し述べて、平成27年度における施策の方針といたします。

○議長（佐々木清一君） これで平成27年度町長施政方針を終わります。

◎散会の宣告

○議長（佐々木清一君） 以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

ご苦労さまでした。

(午前10時56分)

3 月 定 例 町 議 会

(第 2 号)

平成27年第1回双葉町議会定例会議事日程（第2号）

平成27年3月10日（火曜日）午前9時開議

開 議

日程第1 一般質問

1番 羽山君子君

4番 菅野博紀君

6番 谷津田光治君

2番 白岩寿夫君

散 会

○出席議員（8名）

1番	羽山君子君	2番	白岩寿夫君
3番	高萩文孝君	4番	菅野博紀君
5番	清川泰弘君	6番	谷津田光治君
7番	岩本久人君	8番	佐々木清一君

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町長	伊澤史朗君
副町長	半澤浩司君
教育長	半谷淳君
総括参事	武内裕美君
秘書広報課長	平岩邦弘君
総務課長	舶来丈夫君
参事兼 復興推進課長	駒田義誌君
税務課長	山本一弥君
産業建設課長兼 農業委員会 事務局局長兼 コミュニティ センター所長	猪狩浩君
住民生活課長	松本信英君
参事兼 健康福祉課長兼 青年婦人会館長	大住宗重君
生活支援課長兼 埼玉支所長	志賀睦君
教育総務課長	今泉祐一君
会計管理者	半谷安子君
代表監査委員	五十嵐一雄君

○職務のため議場に出席した者の職氏名

事務局長	山下正夫
書記	大浦寿子

◎開議の宣告

○議長（佐々木清一君） おはようございます。ただいまの出席議員は8名です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

（午前 9時00分）

◎議事日程の報告

○議長（佐々木清一君） 本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりです。

◎一般質問

○議長（佐々木清一君） 日程第1、一般質問を行います。

通告順位に従って行いたいと思います。

通告順位1番、議席番号1番、羽山君子君の一般質問を許可いたします。

1番、羽山君子君。

（1番 羽山君子君登壇）

○1番（羽山君子君） おはようございます。通告番号1番、議席番号1番、ただいま議長から一般質問の許可を得ましたので、質問をさせていただきます。

1番、高齢化対策について。避難から4年が経過した。この間、厳しい避難生活を送る高齢者のニーズに町は目に見える形で対応できなかったと考える。県内外に避難する高齢者対応は優先すべき課題であり、具体的な対策について町長に伺いたい。

2番、いわき市勿来酒井に整備される高齢者用サポートセンターの機能、またサービス内容及び設備についてを伺いたい。以上。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） おはようございます。1番、羽山君子議員の一般質問の通告書にお答えいたします。

1番、高齢化対策について。（1）、県内外に避難する高齢者対応は優先すべき課題であり、具体的な対応についてのおただしであります。全国39都道府県に町民の方が避難している現状から、高齢者の健康状態については大変危惧しているところであります。

具体的な対策としては、介護予防対策として、応急仮設住宅、借上げ住宅などの訪問活動、健康相談、栄養サロン、介護予防訪問介護などの予防対策に引き続き取り組んでまいります。さらに、毎年、要支援、要介護の認定を受けていない高齢者を対象に、介護予防を目的とした健康度評価基本チェックリストを実施し、原発避難者特例法に基づき、避難先自治体に介護予防事業への参加誘導、訪問等

の依頼を行っているところであります。平成26年度においても183自治体、842名の方々について、健康支援等の依頼を申し上げている状況であります。今後も避難先での高齢者の健康支援のため、避難先自治体との連携を図りながら取り組んでまいりたいと考えております。

双葉町社会福祉協議会への事業委託については、高齢者等サポート拠点を設置し、サロンの開催など地域交流を図るとともに、応急仮設住宅、借上げ住宅などの訪問活動、見守りなどを継続し、高齢者の健康支援に努めてまいります。

また、社会福祉法人が事業主体であります特別養護老人ホームの事業再開を加速化させることが喫緊の課題であります。前例のない原子力災害での対応は複雑多岐にわたる諸手続課題がありますが、町として可能な限りの支援に努めてまいりたいと考えております。さらに、避難先自治体における民間事業者の活用も視野に入れながら介護施設の検討を進め、スピード感を持った高齢者の対策に取り組んでまいりたいと考えております。

(2)、次に、いわき市勿来酒井地区に整備される高齢者用サポートセンターの機能、またサービスの内容及び設備についてのおただしであります。復興公営住宅の入居者は高齢者が多くなることが想定されることから、高齢者に対する支援を充実させるため、町から福島県に対して、いわき市勿来酒井地区に整備される復興公営住宅敷地内に、社会福祉協議会が運営する高齢者等サポート拠点を併設するよう要望してきたところです。その結果、本年1月30日に、復興庁から福島県に対して、いわき市勿来酒井地区における高齢者等サポート拠点の設置に係る経費にコミュニティ復活交付金を充てること認められたところです。これを受けて、今後、整備主体である県と、運営主体となる社会福祉協議会とともに、高齢者等サポート拠点の機能、設備、サービス内容等について具体的な協議を加速させていくこととしておりますが、現在のところ町としては、少なくとも現在の南台応急仮設住宅におけるサポートセンターひだまりにおいて提供しているサービスと同程度の以上のものが提供できる機能、設備とすることを考えております。今後社会福祉協議会の意向も確認しながら、具体的な検討を進めてまいります。

○議長（佐々木清一君） 1番、羽山君子君。

○1番（羽山君子君） 町長は訪問介護を主体としているような、訪問介護という、そういう関係のものだと思うのですが、訪問だけでは、やっぱり高齢者というのは、入院して、行き先もなくなるということも考えなくてはならないのではないかと、あとやっぱり施設の利用者も今は被災ということで受け入れてもらっていることが多いと思うのですが、でもやっぱりこれからどこでも、どこの市町村、37市町村ですか、受け入れてもらっている。その町村でも、だんだん高齢者が多くなって、受け入れが困難になってきているのではないかと、たまたまちょっと新聞で見ましたら、隣町でもやっぱり震災前と比べて2倍に、施設も利用したいという方がふえているということなのですね。利用者がふえている中で、何か手を打ってほしいと思っているのですが、町でも復興まちづくり長期ビジョンというのがありますよね。やっぱり高齢者だっても、施設の利用

者にもやっぱり短期的、中期的、長期的という、まちづくりなのですから、やはり双葉町を離れていてもまちづくりはできると思うのですよね。そんな中で、やはりそういうビジョンがあってもいいのではないかなと思っているのですけれども。

また、現在拠点がいわき市勿来酒井にできて、いわき市に住んでいる人にとっては大変心強い。やっぱりこれからいわき市に住むという方は大変心強いと思われておりますが、このような拠点もやっぱり中通りにも設けることが必要ではないかと。やはり37と、いわき市一市町村、わけではないわけですから、やはり中通りのほうにもこういう施設をつくることを検討していただきたいと思っております。

また、もう一つ、平成27年の、きのう第1回双葉町議会定例会の中で町長施政方針の中に、高齢者に対してこれからの対応がない。これからの対応を一つも書かれていなかったということで、私はやっぱりとても残念、本当に残念だと思っています。やはり町長としてそういうことを一カ所だけでも入れてもらえたら、ああ、町長も考えているのだなと思って、私はほっと安心したのですけれども、その施政方針の中には一個も入っていないということで、私はとても残念で残念でなりません。

では、次に移りたいと思っております。2番、中間貯蔵施設について。町は中間貯蔵施設の建設、搬入を受け入れましたが、地権者への対応をどのように進めるのか、町長の考えを伺いたい。また、搬入の受け入れ容認をいつ決断されましたか、伺いたい。

2番、中間貯蔵施設の建設が予定されている区域外の土地及び建物の所有者に対する補償等についてどのように考えておられるのか、考えを伺いたい。

3番、中間貯蔵施設の設置期間は30年とされているが、仮に30年を過ぎても移動されなかった場合どのように対応されるのか、町長の考えを伺いたい。

4番、中間貯蔵施設の建設搬入に伴い、自由度の高い交付金が交付されることになっているが、どのような使い方が可能か、具体的な用途を伺いたい。

5番、中間貯蔵施設の整備により、建物が解体されると思いますが、その際、仏壇はどのように扱われるか。また、墓地の移転先及び移転方法について伺いたい。

以上、お願いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 2番、中間貯蔵施設について。（1）、地権者への対応をどのように進めるのか、また搬入受け入れ容認をいつ決断したのかとおただしであります。まず地権者への対応については、これまでの議会でも答弁しているとおり、町としての判断が個人の財産権を侵害するものではありませんので、国に対しては中間貯蔵施設は地権者の理解なくしては進められないことを肝に銘じて、虚心坦懐に地権者の声を聞くよう強く申し入れたところであります。

一方、町としては、さきの臨時議会で承認いただいた、弁護士による相談窓口を先月から設置しましたので、契約や地上権、相続等の疑問について弁護士等が助言等を行うことで、地権者の皆様の不

安等の解消に努めてまいり考えであります。

また、搬入受け入れ容認の決断については、昨年9月1日の建設受け入れ容認の際に、県が確認することとした5項目のうち、県外最終処分の方案の成立などの4項目については、県がしっかり内容を精査し、確認してほしいと申し上げてきたことに対して、2月24日の県と双葉町、大熊町の協議の場で、県が精査をして、おおむね県及び町の意向を踏まえた内容であることを同席した議長とともに確認し、双葉町も協定に名を連ねる中間貯蔵施設の周辺地域の安全確保等に関する協定、いわゆる安全協定については、町議会からの要望を2月13日に受け、大熊町議会からの要望もあわせて、両町で国、県に対し修正を求め、2月25日の国との協議において、両町及び議会からの修正要望がおおむね協定に反映されたことを確認し、協定を確認したことをもって、県の搬入受け入れの容認の判断を了解したものであります。

(2)、次に、中間貯蔵施設の建設が予定されている区域外の土地及び建物の所有者に対する補償等についてどのように考えておられるのかとおたがしであります。中間貯蔵施設の予定地については、国が土地、建物の権利の取得を行うことから、それに対する補償が行われることとなりますが、予定地外については国が土地、建物の権利の取得を行わないことから、国から補償金の支払いはなされないところです。そのため、中間貯蔵施設の予定地外については、土地の回復を図るためにも、除染やインフラ復旧などの復興に向けた取り組みを進めていくことが必要と考えております。

町の復興の進め方として、町内復興拠点を段階的に整備することを考えており、町内復興拠点の整備を進めていくとなれば、道路の新規整備を初め、産業団地や住宅団地の造成、公共施設の整備などさまざまな公共事業を行っていく必要が生じてまいります。こうした公共事業の執行に当たっては、当該事業用地となる方々に土地のご提供などのご協力をお願いすることも考えられます。こうした町の復興を進めることで、中間貯蔵施設の予定地外の地域が魅力ある地域に再生できるよう取り組んでまいりたいと考えています。

一方、町の復興には長い時間かからざるを得ないことから、その間の町民の生活再建のためにも、中間貯蔵施設整備等影響緩和交付金を活用して取り組んでまいり所存です。

(3)、次に、仮に30年を過ぎても移動されなかった場合の対応についてのおたがしであります。町としては、中間貯蔵開始後30年以内の県外最終処分は国に確実に実現させるべきものであり、中間貯蔵施設の周辺地域の安全確保等に関する協定第14条第3項として、最終処分を完了するために必要な措置の具体的内容、開始時期を明記した工程表を作成し、その取り組みの進捗状況について毎年両町と県への報告義務が明記されており、町では取り組みを促すことができるものになっております。仮に中間貯蔵開始後一定期間が経過しても目に見える進展がない場合は、この規定に基づき国に取り組みを要求してまいります。

なお、両町と県への報告だけでなく、衆参両院の附帯決議により、国会へも毎年報告の義務が課せられており、国会の取り組みも注視してまいります。それでも進捗が進まず、万が一30年を経過して

も福島県外で最終処分を完了するために必要な措置を講じなかった場合は、協定第18条第1項の規定により、国に措置を求めてまいります。

(4)、次に、中間貯蔵施設に係る自由度の高い交付金の使途についてのおたただしであります、この交付金は双葉町、大熊町合わせて850億円が国から直接交付される中間貯蔵施設整備等影響緩和交付金を指しているものと思います。使途といたしましては、ふるさとの結びつきを維持するための事業や、生活空間の維持向上のための事業、風評被害の緩和や人材育成、就業支援、公共施設に係る整備、維持補修、維持運営事業、企業導入・産業活性化事業、福祉対策、地域活性化策など幅広く活用できる交付金となっております。しかしながら、個人や法人に対する迷惑料などの現金給付は国の交付金制度上できないこととなっておりますので、ご理解願います。

実際に交付金事業を実施する際には、議会の皆様にも相談し、大熊町とも連携しながら、区域内、区域外を問わず、全ての町民に対する生活再建支援や町の復興に活用してまいる考えでありますので、ご理解くださるようお願いいたします。

(5)、次に中間貯蔵施設の整備により建物が解体されることに伴い、仏壇はどのように扱われるのか。また、墓地の移転先及び移転方法についてのおたただしであります、仏壇につきましては動産として補償されますので、基本的には所有者が移転先へ移転するための費用が補償されることとなりますが、中間貯蔵施設予定地内の動産移転補償に関しましては、避難指示解除後に移転先を確保することを前提に補償することとなりますので、通常の移転費用に加え、避難指示解除まで倉庫に保管するための費用を補償することとなっております。

墓地の移転先及び移転方法については、町内における墓地の移転ニーズが、中間貯蔵施設予定地内の墓地だけでなく、津波被災地域や高線量地域の墓地などにおいても想定されることから、町内全域にわたっての配慮、検討が必要であるものと考えております。このため、早期に町内で共同墓地の整備を進めたいと考えており、整備可能な箇所を庁内で検討し、議会の皆様ともご相談させていただきたいと考えております。こうした具体的な検討を進め、中間貯蔵施設予定地を初めとする町民の皆様に対して、移転先の選択肢の一つとして提示していきたいと考えております。また、墓地の移転方法でございますが、墳墓ごとに改葬の許可が必要になります。

○議長（佐々木清一君） 1番、羽山君子君。

○1番（羽山君子君） (1) についてであります、町長は常日ごろ、町民に丁寧な説明をしてほしいと環境省に話しておられますが、搬入には町民の一部の賛成だけで賛成したのか、反対する人の意見や話を聞けなかった人、地権者グループの話などは聞いての搬入の決断でしょうか。町長は、建設と搬入は別だと言ったことを私は聞いております。搬入を受け入れたということは、町民は搬入に同意したということになりますが、何日もたたないうちに搬入を容認されたその真意はどこにあるのでしょうか。3月13日から搬入すると新聞などには報道されておりますが、道路使用許可は町長が出されるのでしょうか。売買もしないうちから通るわけですから、町はせめて行政区長さんの同意や挨拶

拶などはされていますよね。皆様の一時帰宅、こちら郡山地区なのですけれども、一時帰宅に支障は出ないのですか。この1番の中で聞きたいと思っております。

2番については、国の対応に強く働きかけてほしいと思っております。

3番、30年という長い月日の中で、もし移動されなかった場合のことについては、後継者にきちっとした形で町として残しておいてほしいなと思っております。

4番、これは自由度の高いといいますが、町長はこれから何年先に使う交付金なのか。今避難している人にとっての自由度の高い交付金なのか。やはりこれから30年も40年もたったら私たちいなくなるわけですから、やはり自由度の高い交付金を活用できるような、今使えるような自由度の高い交付金であってほしいなと思っております。

5番、何代も続いてきた皆様が一番心配なさっていることです。やはり仏壇を、例えば中間貯蔵施設になるであろうところの人たちの仏壇を、何か倉庫を借りて置いておいてと言われても、セシウム、放射能いっぱい入っている仏壇を今さら持ってきて、そういう倉庫を借りて、また家をつくったらまた戻せということはできないと思うのですよね。やはりそういうところをどういうふうにするかということだと私は考えております。お墓に関しては、よいのではないかと考えています。

以上、もう一度1番の質問をお願いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 羽山議員の再質問にお答えいたします。

町民の皆さんが、地権者の中の皆さんが一時帰宅するのに支障を来さないのかというおただしでございますが、国が予定しているストックヤードへの搬入が3月13日を予定しているという報告を受けておりますが、そのものに関しまして、まず時間的なもの、そして回数、そういったものの説明におきましては、一時帰宅する町民の皆様には支障を来さないような、いわゆる搬入の台数というふう聞いております。また、道路使用許可について認めているのかということでございますが、今現在認めている状況ではありません。

○議長（佐々木清一君） 1番、羽山君子君。

○1番（羽山君子君） それでは、私の質問はこれで終わらせていただきます。

○議長（佐々木清一君） 通告順位2番、議席番号4番、菅野博紀君の一般質問を許可いたします。

4番、菅野博紀君。

（4番 菅野博紀君登壇）

○4番（菅野博紀君） おはようございます。通告番号2番、議席番号4番、菅野博紀、ただいま議長の一般質問の許可が出ましたので、一般質問させていただきたいと思っております。

1番の中間貯蔵について。これまで国が示している条件は一方的で、地権者、地域の住民の話など聞かずに進めているように思えますが、今年1月13日に建設の受け入れ、2月下旬に搬入の受け入れなど話が進んでいます。土地の売買契約や土地の賃貸等もほとんど進んでいない状況で搬入まで進ん

でありますが、町長のお考えをお聞かせください。

(1)、中間貯蔵施設の中に町有地はどのくらいあるのかお伺いたします。

(2)、町長が判断した搬入受け入れは皆さんに理解をもらえると思いますか。また、今後の交渉に支障が出た場合、どのように対処するのかお伺いたします。

(3)、中間貯蔵施設は町の重大事項と思いますが、国の一方的な進み方のように思います。双葉町全体を考えれば、搬入判断する前にやらなくてはいけないことがあったと思いますが、町長のお考えをお伺いたします。

○議長(佐々木清一君) 町長、伊澤史朗君。

(町長 伊澤史朗君登壇)

○町長(伊澤史朗君) 4番、菅野博紀議員の一般質問の通告書にお答えいたします。

1、中間貯蔵施設について。(1)、中間貯蔵施設の中に町有地はどのくらいあるのかとのおたただしありますが、以前の議会の中で同様の質問がありまして、その時は、地番がある土地の面積を75.7ヘクタールと答弁させていただきましたが、その後調査した結果、公衆用道路や水路等の無地番の土地を含めると約125.8ヘクタールを確認しております。

(2)、次に、搬入受け入れの判断に地権者、町民の理解が得られるのかとのおたただしありますが、県の搬入受け入れ判断を了解した経緯は、先ほどの羽山議員の答弁のとおりであります。

2月25日の国との協議において、県が設定した5項目について、内堀知事より改めて環境、復興両大臣に対して、国がしっかり対応するよう申し入れており、私からは、この事業は地権者の理解なくしては進められないことと、地元の感情を逆なでするような強引な進め方をしないよう、虚心坦懐に地権者の声を聞き、丁寧に進めていくことを強く要請いたしました。今後は、国から直接交付される中間貯蔵施設整備等影響緩和交付金を活用し、地権者だけでなく全ての町民に対して、高齢者の福祉対策や健康対策も含めた生活再建支援や町の復興の取り組みを進め、より一層皆様の理解を得ながら進めてまいる考えであります。

また、今後の交渉に支障が出た場合の対処についてであります。建設や搬入受け入れの判断をしたからといって、今後の国と地権者の皆さんとの交渉に支障が出るようなことはあってはならないものと考えます。仮に支障が出た場合、弁護士による相談窓口で寄せられた疑問や不安な点を整理して、国に対応させるよう求めていくことも必要であると考えております。

(3)、次に、双葉町全体を考えれば、搬入判断する前にやらなくてはならないことがあったのではないのかとのおたただしありますが、中間貯蔵施設が今後の町の復興にも多大な影響を与える施設であることは間違いありません。

一方で、町政懇談会等において、町が判断すべき、地権者に判断を委ねないでほしいといった意見が強かったことを初め、建設受け入れを判断する際の理由として、県内の多くの市町村に町民がお世話になっている中、避難先市町村では、早く仮置き場から搬出してほしいとの声が大きくなっており、

避難している町民が生活しづらくなっていることを危惧していることなどを申し上げ、議会の皆様の了解を得て建設受け入れを判断したわけであります。

搬入判断をする前にやらなくてはならなかったことは、まずもって安全協定の内容の調整だと考えており、これは町としても調整を行ってきたところでありますが、2月4日の議会全員協議会時に議員の皆様から出された意見や、その後の2月13日に議会から町に出された安全協定についての修正要望について、その修正内容を了解するか否かの判断は佐々木議長、岩本副議長に一任されたことと伺ったことから、大熊町議会からの要望もあわせて両町より国、県に対して修正を求め、2月25日の国との協議で、町及び議会の意見がおおむね協定に反映されたことを確認し、協定を締結したものであり、施設や輸送、管理運営に関する安全確保の担保が図られたものと認識しております。

なお、国との協議の際、私から両大臣に対して、中間貯蔵施設が終わりではない。町の復興はこれからが本番である。中間貯蔵施設の受け入れという非常に重い判断をしたことに鑑み、町の復興を果たすことができるまで、将来にわたって国が主体的に町民の生活再建と町の復興にしっかりと取り組むよう強く守れたところであります。

また、国の進め方が一方的のご指摘ではありますが、町の建設受け入れ判断後に環境大臣から、震災から5年目を迎えるまでにはパイロット輸送による搬入を開始したいとの表明がありましたが、3月11日が地元にとって鎮魂の日という特別な日であることから、12日以降の搬入と、お彼岸の時期への配慮も、国との協議の当日、環境大臣に対して私と大熊町長より申し入れし、搬入時期についての対応を求めたところであり、後日大臣より、我々の言葉を重く受けとめ、搬入開始日の延期と、お彼岸の時期の工事、搬入の停止をするとの発表がありました。

このように町民や地権者の感情に配慮するような取り組みを求めてきたところであり、今後もその点については引き続き国に強く求めてまいります。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 済みません。議長、申しわけありませんが、聞いていないことまで時間を使うというのはちょっと、すごく遺憾だと思います。

では、町長、お聞きします、中間貯蔵施設の中に町有地はどのくらいあるか。町で過去に買収等を中途半端に終わらせた、お金だけ払った場所もありますよね。その他いろいろな場所があります。そうすると、これだけではないではないですか。受け入れする前にそれをやらなくてはならないです。町には契約書ならず、お金を払った実績とか、そういうものがあるはずですよ。それはありませんか。昭和、何年前、もう2代も3代も過ぎていような場所がありますよね。ないですか。

それと、搬入受け入れをされた皆様の理解を得られるかということで、町長、私たちに何て説明しましたか。建設と搬入は別だと。建設を受け入れることによって、地権者の方々の交渉等を進めて、ある一定、ある程度の方々が納得していただいた時点での搬入受け入れだと私は町長の口から聞きました。多くの議員も聞いています。そういう理解、いいのですけれども、町長、いつから、国は迷惑

料は交付金では払えないとか何とかと行ってやっていますけれども、今回の今回の三百八十……要は、中間貯蔵で850億円の内訳のもらえる基金とありますけれども、迷惑料を払えないのではなくて、国がやらなくてはならない事業を、これをもらって町がやる必要性がないと思うのです。役場職員の仕事をいっぱいふやしているのかなど。国ができないから町でどうにかしろというようなことを、はい、そうですかと受けてきているのではないですかというお話です。

あと、搬入受け入れについては、これは町長、いろいろと地権者の方、内外からいろいろ言われています。それで、今125.8ヘクタール、町有地あります。これ以上あると思いますが、これは町民全体の土地です。町有地は町民の土地です。であれば、地権者は、きのうの答弁でも、地権者なのです。よ、双葉町の町民は、皆さん。住所がある限り、町有地は。そういう交渉を今まで町長は怠ってきているということです。搬入受け入れが最終的なキャスティングボードを握るようなものなのに、何でこんな、やってしまったのという批判的な声が多い。これで弁護士とか何とかというものを、これは搬入を受け入れする前の話で私たちはさせていただきました。搬入受け入れしてから弁護士に相談しても何しても、何にもならないではないですか。撤回してきてくださいよ、町長。3月13日という話と搬入の話は議会は一切何も聞いていません。

今、私は搬入受け入れの件で質問しているのですけれども、建設の受け入れでは聞いていないのです。議会のご理解を得ましたと答弁でおっしゃいました。おっしゃいましたけれども、これは、建設受け入れに関しては、私たちも、中身がそういう話だったので、ではそうするしかないでしょうという話はしました。搬入受け入れでは全協等一切やっていません。私も聞いていません。きょう同僚議員が3月13日という話も聞きました。それで町長、私は個人的に電話で話したときに、搬入って、入れるのという話をしたら、新聞で書いてあるでしょう。今後は新聞の情報が一番正しいということで私は認識していますけれども、それに対して町長、1つはお答えください。

あと、町長が判断した搬入については、これは町の重大事項に関してはちゃんと話ししていないです。重大事項というのは議決が必要ではないですか。双葉町は過去に原子力発電所の関係で議決をして、ちゃんとやっています。今この中間貯蔵施設に関しては、町の重大事項にもかかわらず、議決等が実際ありません。これは行政としての勝手な判断だと私は思います。

あと、先ほどちょっと搬入のことに、さっき話ししていましたが、議長、うちの副議長は知っていたのと。一任はしました。だけれども、知っていたのと言うと、うちの副議長知らなかったと言うのですよ。これ、議会軽視ですよ。ないことを言うというのは議会軽視ではないですか。あくまでも僕は搬入受け入れについて聞いているのに、建設のことを言って。あれありますよね、安全協定。安全協定に関してもわかりますよ。協定は結ぶべきだと思います。搬入の話は全然していないまま町が進めたのです。それに関してお答えください。

あともう一つは、町の重大事項は、町民の方は、例えば試算したものに対して誤差は町で払わなくてはならないのではないですか。386億円ぐらいのお金をもらっても、それでは間に合わないのでは

ないですか。850億円、双葉がいただく分の金額は386億円。386億円では足りないと思います。それで、地権者は全町民だと思いますが、町長のお考えをお伺いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再質問にお答えいたします。

まず、町有地の件であります。前に土地を取得して、その土地についての部分が含まれていないのではないかというおたがしでありましたが、今回の約125.8ヘクタールの中に含まれています。

あとは迷惑料についてであります。そういったことに関しましては先ほどの答弁でお答えをさせていただいております。

搬入判断につきましては、このことにつきまして何回も公でも話しさせていただいております。昨年9月1日の、前の知事が建設受け入れと搬入受け入れは別ですということで、県が主体的に5項目を国のほうに要求をしたわけであり。そういった中で、その5項目の中で、福島県、双葉町、大熊町が安全協定にかかわる当該の町村でありますから、安全協定については、当然町が県、大熊町、国との協議でその安全協定を確かなものにしないといけないということで、その取り組みをさせていただきました。

一方、5項目のうち4項目につきましては、県が主体的にきちっと国と向き合って、その中身について対応をしていただきたいということを申し上げてきております。

また、中間貯蔵施設は町の重大事項であるとの認識でございますが、議会の議決事件につきましては、基本的な権限としまして、地方自治法第96条第1項第1号から第15号及び第2項に規定されております。この議決事項は地方公共団体に関する一切のことに及ぶものではなく、重要な事項に限定されております。この重要な事項とは、第1項の第1号から第15号に規定されているものであります。したがって、法が議会の議決事項としての定めがない事項は、議会の議決権限には属さないものと考えております。

地権者の理解が得られるまで搬入判断はしないようにと言ったときに了解したはずであるという話でありましたが、地権者の理解が何より重要であることはこれまでの答弁でも常々申し上げてきたところであります。一方で、町が国と地権者との交渉の間に入って調整することは、個々の財産権行使の判断に町が介入することになり、それはできないことも申し上げてきたつもりであります。

なお、国から説明を受けていない地権者もまだ多くいることから、国が丁寧に説明し、その上で地権者団体や行政区単位で国との協議の場を設定してほしいというような要望があれば、町としても国に対し協議に応じるよう求めてまいりたいと思っております。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） はい、わかりました。重大事項でも1から5項目、これはある程度わかりました。ということは、行政から中間貯蔵等に関するものに関しては、一切議会は説明は要らないということですか。私個人はそういうふうに思えます。自分で町長ご自身がご判断ください。そのかわり、

逆に言えば、議決に対してのそれは紳士協定ですから、議員であれ、町長であれ、紳士協定の中でやるものをこういうふうを持ってくるのであれば、今まで議会が受けてきた説明は無駄だったということと私は認識させてもらいます。

また、今後この中間貯蔵において、町長は全町民、地権者の意見は聞いていませんよね。求められても、来てくださいと言われても、行っていないところがあるではないですか。反対の方でも何でも、話を聞きたいと言えば、執行者として行かなくてはならないわけです。それを、こっちに来なくてはならない、あっちに行かなくてはならない、そういう理由づけをして行きもしないで、いかにも、今の答弁で、お話を聞いているような言い方をしています。これは今後私の議会活動で非常に重要なことだと思いますので、頭を下げるのではなく、自分のやってきたことが正しいという判断のもとでやっていらっしゃるということなので、今後の対応は私もそういうふうを考えさせていただきたいと思っています。

では、2番に移ります。東京電力賠償補償について。12月定例会でも質問しましたが、東京電力賠償について行政としての動きがないようなので、今議会で質問させていただきます。

東京電力賠償、補償は行政として適正に行われると思うかお伺いいたします。

(2)番、震災から4年が経過しようとしています、原子力発電所の収束は先が見えないように思えますが、今後6年以降の賠償、補償の議論をしていかななくてはならない時期と思えますが、町長のお考えをお伺いいたします。

○議長(佐々木清一君) 町長、伊澤史朗君。

○町長(伊澤史朗君) 2番、東京電力賠償、補償について。(1)、東京電力賠償、補償について行政として適正に行われていると思うかとのおたただしですが、町として東京電力に対しては、継続して、被災者に寄り添った丁寧な賠償を要求してきているところです。

去る1月5日には私が東京電力の廣瀬社長に対して直接要求書を手渡し、その中で、加害者であるという認識を持ち、被災者との話し合いに誠実に対応し、迅速かつ確実な賠償、被災者に寄り添った賠償を行うこと、営業損害等について、いまだ被災者の生活再建の見通しが立っておらず、長期の避難生活を余儀なくされている実態を十分に認識し、早急に延長するよう求めたところです。さらに、1月9日に双葉町商工会長から営業損害の賠償について継続に関する要望書をいただいたことから、このことについて改めて経済産業省資源エネルギー庁、福島県、東京電力福島復興本社へ要望したところです。また、町に対しても、町民から個別にご相談をいただく場合もありますが、その際には、事実関係を確認の上、被災者である町民が一方的な不利益をこうむるような対応があった場合は、適正な賠償を行うよう、そのたび求めているところです。引き続き、東京電力に対して、適正な賠償を行うことを求めていきますので、ご理解願います。

(2)、今後6年以降の賠償の議論に関する考えについておたただしですが、事故後6年以降の賠償については、平成25年6月22日の第32回原子力損害賠償紛争審査会において、町として事故後6年以

降の賠償の取り扱いを明らかとするよう要望いたしました。その結果、平成25年12月に公表された原子力損害賠償紛争審査会中間指針第四次追補において、双葉町全域について避難指示が事故後6年を大きく超えて長期化することが見込まれるため、長年住みなれた住居及び土地について長期間にわたり住むことができず、移住を余儀なくされた精神的損害等として、1人当たり700万円が追加賠償されることとなったところです。

一方で、中間指針はあくまで最低の基準を示したものと理解しておりますので、引き続き町民の被害実態に見合った賠償を行うよう国、東京電力に求めてまいります。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 行政としては、1番のほうでは何もしていません。確かに個人のやつはいろいろありましたが、東京電力にそれを仲介するだけで、それに対してこれをやるぞということは一切町長やっていません。やっていないのですよ。

それで、事故後、(2)番に関しては、6年以降、これは今の町長の答弁で移住と言いましたね。別の場所に移住。私たちは避難です。町長は、移住なされたのだったら、双葉町の町長できませんよ、町長、700万円もらったり何かしたら。もらったりしたらということでないですけども、移住という感覚であれば、それはおかしい話ではないですか。私たちはあくまでも避難ではないのですか。今の答弁に間違いあるのではないですか。

私はまだ700万円はもらっていませんが、東京電力さんに聞いたときには、この移住という言葉は一切出ませんでした。話の中では、事故後6年間、自分の家にも帰れないような状況下であるので、追加で700万円ということをお前は東電に言われています。

それで、町長、どういうふうにお考えかわかりませんが、私はある案件に入ったときに、町もこの案件には入りました。入ったときに、最後、東京電力の本社に呼ばれました。これは、相手側さんと返す、返さないという話でやりましたが、本社に呼ばれたときにすごい一言を東京電力の弁護士に言われました。それは、部長2人いました。これは町長には全然言っていないことですけども、部長2人がいて、それはボイスレコーダーも全部取りました。弁護士さんが言ったことは、要は、地域の相談員の言うことは当てにしないでくれ、中身は。賠償に関しては全部本社で決めているのだということをお言われました。東京電力に行くまでの交通費等全部出ました。私は後々あれかなと思ったので、私は要りませんと言いました。それもあります。

全協で東京電力が賠償のあれに来たときに、町長も立ち会った中で、議長も、皆さんいた中で、復興代表石崎さんが来ましたね。あの方が来たときに何て言いましたか。賠償もみんな私が責任持ってやっていますと。あなたたちは、僕は役不足でしょうという話をしましたよね。これは皆さん覚えていると思うんですけども、復興本社で全部やっているというのと、東京電力の弁護士は、東京電力本社内で、賠償に関しては本社が全部決めているのだ。これはもう完全にばかにされているのですよ、町長。廣瀬社長は就任以降、町民の皆さんのほうに行きましたか。町長のところにも、県知事のそこ

ろに行っているのではないですか。それだけばかにされているということではないですか。もう強い態度に出ているべきことだと思います。それが1番のあれです。

それと、(2)番は、今後6年後以降、土地1.43倍、そういう、建物に関してはそれ以降は住めないだろうというような賠償ということを私は聞いています。ということは、土地に関しては6年後以降、1年に1.43倍の賠償をいただけるのかな、今までどおり。そういうふうになれば、中間貯蔵の方々が別にこんな売ることないのです。固定資産税評価額の5割でなんて。まず、県で補助しますよと言っていますけれども、あれはまた別です、国のお金ではないので。固定資産税評価額の5割で売る土地なんて、売るのがだったら、これ東京電力さんの、6年で、一回1.43倍の交渉を町としてなさったらいかがですか。別に中間貯蔵をそんな、国とかほかの方々が言われるようにもらう必要性はないと思います。町政懇談会とか、町外の方に入れろと言われるかもしれないですけれども、今まで町外、県内の方々には電源交付金、はっきりライブだから言わせてもらいますけれども、電源交付金、県に全部返してもらったらいかがですか。今までの分を全部。町運営でも何でも、こんな、全然できますよ。県が主体として、福島県内全域にお金が出ていたわけではないですか。そういうことを、町長、強く県知事に言って、ちゃんとした交渉をしてもらったらいかがですか。中間貯蔵もみんな一緒になってくると思いますよ、これ。その点に関してお伺いします。この(2)番の6年後以降の交渉については、町が主体にならなかつたらできないですから、それを加味して話してください。

○議長(佐々木清一君) 町長、伊澤史朗君。

○町長(伊澤史朗君) 菅野議員の再質問にお答えいたします。

まず、(1)番の賠償についてであります。菅野議員が東京電力の本社に行きまして、その話がボイスでもとったということで、本社でその賠償の判断をするということですよ。そういったことにつきましては、私今初めてお伺いしましたけれども、そのことがもしそういうふうな本当のことであるならば、東京電力にただしていかななくてはならないと思っております。

また、2番目の電源交付金につきましては、今おっしゃったことに対して、県に対しての今までの取り組みが果たして、そういうふうな制度的なものもありますし、これはどのようにしたらいいかということは検討させていただきたいと思っておりますし、先ほど議員からこの移住に対してのお話がありましたが、これは第四次追補の指針の中で書いてあることをお話をさせていただきましたので、ご理解いただきたいと思います。

今後この6年以降の賠償につきましても、今までの中間指針はあくまでも最低基準だというふうな判断をしておりますので、引き続き町民の被害実態に沿った賠償を行うように取り組んでいきたい、そのように考えております。

○議長(佐々木清一君) 4番、菅野博紀君。

○4番(菅野博紀君) 先ほどちょっと言い忘れたことが、営業補償に関する延長というお話がありました。これ、延長を申し出したのですよね。申し出て当たり前なのですよ。もともとの中間指針で

は、帰れるようになるまでなのですから。営業再開するのも何にも、全然別地域と、そういうのとは全然違いますし、皆さんさっき、町長、延長は当たり前です。これは町で訴えでも何でもやってもらうのです。次の移住に関しては、この移住という言葉が出てきた時点で、町長、何で町として言わないのですか。私たちは避難ではないですか。移住というのは、意味は、要は引っ越しということですよ。引っ越しイコール住民票が動くということだと私は理解しますけれども、こういうものをちゃんと見てわかっているのであれば、これは抗議ではないですか。だから、中間指針をつくっている委員会の人たちが、地元の人がないからこんなふうになるのです。前町長が入れろと言うのは、私は間違いない、正しいことだと思います。

あと、そういうことが本当であればではなくて、本当だから言っているのです、賠償に関しては。すぐにでも、きょうにでも社長を呼んで、言ったらいいではないですか。普通、全協に東京電力で来てくださいよといったら、普通に復興代表の石崎さんが来て、うちは言いましたよね、僕。町長と議長が、町のトップと議会のトップが出ているのだ。東京電力はそんな復興代表とか、そういう会社を動かせるような人間ではない方が来られたら迷惑だ、あなたはここで答えられますかという質問をしました。賠償等に関しては、復興本社で全部やっていますので、答えられるようなことを言って、全然答えなくて、お持ち帰りしました。お持ち帰りした質問も、東京電力はほとんど持ってきていません。それで、賠償、補償もそうですけれども、ここに関して東京電力が持ってこなくてはならないのは、ではあそこが安全になる、人が住めるような時期まで普通にちゃんと町長は聞くべきだと思うのですけれども、どうでしょうか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再々質問にお答えいたします。

当然、先ほどから申し上げておりますように、6年以降の賠償についても、そういったいろいろな避難実態に見合った、被災者のその被災実態に見合った賠償をするべきだというふうに考えております。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 3番、復興推進委員会について。復興推進委員会から最終報告を受けたそうですが、帰還時期、商工業、農業、老人福祉等いろいろ問題があると思いますが、町長に何点かお伺いいたします。

原子力発電所の収束作業が大きくかわる帰還時期等を示さない内容の最終報告で本当に大丈夫なのか非常に不安に思いますが、町長のお考えをお伺いいたします。

(2)、復興推進委員会が出した計画で今後の双葉町の計画が進んでいくのか。いくとすれば、復興推進委員会の責任は重いと思います。なぜ町長として中身の検討をして、自分の責任において話ができないのかお伺いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 3番、復興推進委員会について。（1）、双葉町復興推進委員会の最終報告が帰還時期等を示さない内容となっていることについてのおたただしですが、町の将来像を明らかとした双葉町復興まちづくり長期ビジョンについては、双葉町復興推進委員会においてご議論をいただき、2月24日に最終報告をいただいたところでございます。私はほぼ全ての委員会を傍聴させていただき、委員の皆様の思いや考えも直接お伺いいたしました。そのため、委員会からの報告については、町民代表の方の思いが詰まったものとしてその内容に賛同できることから、委員会の報告を尊重させていただき、4日の議会全員協議会において、町執行部として双葉町復興まちづくり長期ビジョンの案を説明させていただいたところです。

このビジョンは、何年かかっても実現すべき、理想とする町の将来の姿を示すものとさせていただいたところです。双葉町は、町内の96%を占める帰還困難区域における除染を含めた復興の具体的な工程が示されていないため、委員会の最終報告にあるとおり、復興の目標時期を示すのが難しく、さらに帰還時期については、放射線量の減衰の見通し、除染の見通し、福島第一原子力発電所の廃炉の見通しなど町単独で見通しを検討する範囲を大きく超えていることから、具体的な時期を提示することはできないものと考えております。町としては、これまでも国に対して帰還時期の明示を求めてまいりましたが、国から具体的な時期を引き出していく上でも、町としての将来ビジョンを示し、このビジョンを実現するまでの期間を国、県に明示させていくよう取り組んでいくべきと考えております。

（2）、復興推進委員会が出した計画で今後の双葉町の計画が進んでいくのかとおたただしですが、私としましては、委員会からいただいた双葉町復興まちづくり長期ビジョンの最終報告については、町民代表の方の思いが詰まったものとしてその内容に賛同できることから、委員会の報告を尊重させていただき、4日の議会全員協議会において、町執行部として双葉町復興まちづくり長期ビジョンの案を説明させていただいたところです。

なぜ町長として中身を検討して自分の責任において話ができないかとおたただしですが、町の将来像の検討に当たっては、まず町民の皆さんで、理想とする町の将来像を議論していただくことが重要と考え、双葉町復興推進委員会に議論をお願いしたところです。

復興推進委員会においては、町民委員24名が中心となって座談会を行い、町の将来像と町の復興に向けた考えを委員同士が出し合いながら議論を重ね、昨年10月に中間報告が取りまとめられ、また意見公募によって町民から寄せられた意見や、町民委員6名から成る復興産業検討部会の提言、津波被災地区の代表の委員から成る津波被災地域復興小委員会の報告などを踏まえて、このたびの双葉町復興まちづくり長期ビジョンの最終報告がまとめられたものです。また、委員会からの最終報告を受けて、副町長や各課長等から構成される双葉町復興まちづくり計画推進会議において最終報告の内容が審議され、その内容は妥当なものとの報告も受けております。

こうした点も踏まえて、先ほど申し上げたとおり、私もほぼ全ての委員会を傍聴させていただき、委員会の最終報告の内容に賛同することから、その旨、4日の議会全員協議会において私からご説明

を申し上げたところであります。ご理解を賜りたくお願い申し上げます。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 4日の日、3日の日と、私もその説明を受けました。実際に、この帰還時期と毎回言っていますけれども、双葉町としてその帰還時期に関してはかなり重要なことで、では計画を立てました。それを5年後だったら僕たちもいます。ただ、10年後、10年後となったとき、僕たちはかかわれません、年代的に。帰還をしてから、ちゃんとした情報をやってから、やらなくてはならないと思います。最終報告、誰がやるのですか。誰がやるのですかということは決まっています。要は、太陽光パネルとか、いろいろ話が出ました。町がそういうふうに、国が補助するよ、何するよといったとき、三セクとかそういうのをつくったときに、つくらなくてはならないです。メリット、デメリットを、今補助金がもらえますよという甘い言葉を情報に入れてしまうと、自分たちの意見ではないです。それを今までこの復興委員会で約2億円前後のお金を使いながらやってきたのです。では、誰がやるのですかといったら、誰もやる人がいなかったらどうするのですか。個人の財産です。これ、行政として個人にお金をつぎ込んでやっていかななくてはならないものに対して、個人の財産にと町長さっきから言っていますけれども、町がそういうような、これをやるよとやったときに、その失敗したときの責任は本人なのです。ましてや、万が一やるという人がいたとしても、やるという人がいたとしますよね。町がやれと言ったからやった。やって失敗したら、町の責任だとなってしまいますよ。太陽光パネルにしても何してもそうです。民から、自分のあれから出てやるのであれば、それは、俺は後方支援とかそういうので、補助金とかこういうのがあるよ、こうこうだよというようなものだったらわかりますけれども、耳打ちしてやるような委員会ではおかしいと思います。

あと、逆に言えば、町長、町勢復興計画ってありますよね。町では出していないのです。ましてや、復興計画も町は出していないです。であれば、役場の課長とか、町長とか、副町長等が入って、町勢復興計画を一回とめて、復興計画が町としてのものが全然ないのです。これからどうするという。帰還時期と町勢復興計画が使えないのであれば、町の復興計画、それからこの委員会ではないのですか。ちょっと順番が違うように私は思います。それに対してお伺いいたします。お願いします。

それで、町長、今までもそうなのですけれども、さっきの答弁もいろいろ言っていますけれども、県が、県がとか、誰がではなくて、なぜ町長として、私の意見ですというあれが一つも出てこないのかなと非常に残念です。この復興委員会の方々に何人かにお話を聞いていると、結局こんなに責任が重いのであれば私はなるのではなかったと。尊重して、何してと言いますけれども、これこそこの最終報告をアンケート等で、支持しますか、しませんかというようなアンケートも逆に言えば必要ではないですか。それも含めてご答弁お願いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再質問にお答えいたします。

復興ビジョンに書かれたことは誰が実施するのかとのおただしであります。復興ビジョンの実現

に当たっては、まずインフラの復旧、整備が不可欠であります。インフラの復旧整備は、町が主体となりながら、国事業、県事業を含めて行政が主体となって取り組んでいくこととなります。

一方で、インフラの復旧整備を受けて、事業所の再開や、例えば委員会から提言されている植物工場などのモデル事業は、町民たる民が主体となって取り組んでいただくことが望ましいと考えておりますが、その担い手となる方々が安心して事業が実施できるよう支援していくことも行政の役割と考えております。

振興計画との関係はどうなっているかということでございますが、現在の振興計画である第4次双葉町総合計画は、10年の計画期間のうち、平成23年度から27年度を前期として、その後に見直すこととされております。双葉町への帰還が長い時間かからざるを得ないところから、当面町外において役場機能を置かざるを得ない時期が続くことから、総合計画についても見直していくべきと考えております。今後の町全体の除染、インフラ普及などの見通しも勘案しつつ、新たな復興計画と一体として策定することも視野に入れて、今後総合計画のあり方を検討してまいります。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 時間がなくて、駆け足になっていきますが、支援をするのだったら、今やっている人たちも支援しなくてはならないです。町として支援という、どういう意味かということ。どういう意味かということがかなり重大です。行政として個人事業に支援できますか。できないでしょう。今の答弁はちょっとおかしいと思います。支援できるのであれば、いいです。ぜひともやってもらわなくてはならないですけれども、それをやったら、先ほど言った、国は迷惑料は交付金では払えませんと言っているのと同じではないですか。町では個人の事業に対しては支援できるのですね。そしたら、今、本当、双葉町でやっている方たちには支援を行政としてしていただかなくてはならないと思います。

あと、(2)番のほうで言いましたけれども、言う前にちゃんとやってくださいよ、行政としてのやらなくてはならないことを。搬入の受け入れとか、そんなのは余計なことですよ。逆に言えば、こういうことをやらなくてはならないのです。これがあって、中間貯蔵とか、そういうものに対してどう対応していくかということが普通に見えることなのです。町ではない。町民につくらせる。町民につくらせて、町民の責任だではなくて、町長の責任をもってこれをやらなくてはならないです。中間貯蔵の搬入の件もそう。県が主体になって。県ではないのです。町の執行者としての自分の責任の重さということなのです。町民を思うか、要は県民を思うか、国民を思うか、県知事とのおつき合いを思うか。これ、出さなくてはならないですよ、本当、普通に考えれば。だから、もう一回聞きます。これ、町勢振興計画でなくてもいいです。町の復興計画、行政としての町民を交えた復興計画、これはいつできますか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再々質問にお答えいたします。

今議員のおただしであります。25年に策定しました復興まちづくり計画がそのものに該当すると判断しております。

○議長（佐々木清一君） ちょっと休議します。

休憩 午前10時13分

再開 午前10時19分

○議長（佐々木清一君） 会議に戻します。

答弁をお願いします。

町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 復興計画については、総合計画と同様の位置づけを持った計画とするとともに、含め、見直しをしていきたいと思っております。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 最後ぐらいはちゃんとした答弁をして、正しい答弁をしてください。

（4）番、老人福祉について。双葉町の老人福祉に関しては、非常に急務だと私は思いますが、行政としての手助けが足りないように思えます。職員の膨大な量の職務を考え、町長として動かなければならないと思えます。

（1）、今後の高齢者の対応について計画等あれば、お伺いいたします。

（2）、当町だけではなく、避難地域全体で国営の老人ホームなど対応を国にお願いできないかと質問しましたが、本当に頼んでいるのか。双葉町の高齢者を思えば早急にやらなければならないと思えますが、町長のお考えをお伺いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 4番、老人福祉について。（1）、今後の高齢者の対応について計画等があればのおただしであります。東日本大震災、原子力災害からあすで4年が経過しようとしております。高齢者の対応が急務であることは十分認識しております。

前例のない原子力災害により、町ごと町外避難を強いられ、町民の方が全国39都道府県に避難している状況であり、不自由な生活環境の変化などにより、要支援、要介護認定者が増加傾向となっている状況であります。町としては、社会福祉法人が事業主体であります特別養護老人ホームの事業再開に向けて、事業実施の諸手続の進捗など加速化を図るようさらに指導していくとともに、平成27年度においては具体的な事業内容をお示しできるものと考えております。

また、介護予防事業としては、健康、栄養を主体としたサロンなどの各種事業を展開するとともに、社会福祉協議会と連携した介護予防対策の強化を図ってまいります。さらに、介護予防事業においては、避難先自治体、地域資源にご協力をいただきながら、平成29年4月までに予防給付及び介護予防・日常生活支援総合事業への移行計画の準備を進めてまいりたいと考えております。

(2)、次に、避難地域全体で国営の老人ホームなどを国に頼んでいるのかとのことではありますが、先ほども申し上げましたように、まずは特別養護老人ホームの事業再開が喫緊の課題と捉えておりますので、東日本大震災に係る社会福祉施設等災害復旧費の国庫補助金の継続追加、グループホーム整備費の介護基盤緊急整備等臨時特例交付金の確保を要望している状況にあります。さらに、双葉地方町村会、議長会においても、避難先で必要な福祉、介護サービスが受けられるよう、国に対して必要な財政措置、具体的な人的支援、並びに介護、福祉施設を再開する際には再開及び運営に対して要望を行っているところでありますので、菅野議員がおっしゃることも十分踏まえて対応していきたいと考えております。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 済みません。今の答弁全部取り消していただいてよろしいでしょうか。私は行政に言っているのです。社協とか社会福祉法人というのは行政とは違いますから、行政として取り組むことを聞いているのです。もうこれは、ちょっと時間がないので次回もやらせてもらいますけれども、町長は、国営老人ホーム等の話では今後検討していく、話をするという話は前回でもいただいています。今できる部分で、この震災で、仮設でも老人ホームができるということを町長わかっていますか。要は、診療所等があれば、そこに老人ホームとか、グループホームとかという国の緩和措置があるそうです。これは富岡の議員さんも調べて、一生懸命やっている方がいらっしゃいます。そういうことを言っているのです。今入れない人がいっぱいいるのです。

それと、お年寄りのことを考えれば、避難生活で、いや、双葉に戻りたい。戻る前に、戻れないのだったら、逆に言えば、そういう人たちが集まる、あそこの地域の人、双葉だけではない、地域の人を広域等でどんどん議論をしなくてはならないのではないですか。今やっと診療所が広域で事業になりました。町単独ではなくても、広域として診療所があるのだったら、そういう施設等が今できるのですよね。今やらないとだめなのです。仮設等があいているようなところ、つぶされる前、今後の契約等を考えれば、今すぐに。今でも遅いぐらいです。それを言っているのに、何で動かなかったのかなと。

それで、同僚議員の一般質問もそうですけれども、社会福祉法人と町長は何かご関係がありますか。何かやっていますか。社協で何かやっていますか。ここは理事も何もやっていないのですよ。町、行政としては、ただ、今はほぼ関係ない状況ですね。お金を貸したり何かというのを、土地をもちろん提供したりはしていますけれども、これはあくまでも私が聞いているのは、町としての……町としてのと書いてありますね。双葉町の老人福祉に関してはと聞いていますよね。町としてそれはやるのかやらないのか。要は、もう本当にお年寄りの人たちは、かなり大変だと思います。それで、健康福祉課なんかも見ていると、毎日遅くまで仕事をしてやっているのです、ある程度の統合等を考えて、早急にやらなくてはならないものをやらなくてはならないのに、それをほったらかしにしているどころではないでしょうという話をしているのです。これは僕は町に聞いているのですから。さっきの答弁全

部取り消してください。町ではどういうふうにするのかということを知っています。

○議長（佐々木清一君） 答弁は時間をオーバーしても構いません。

町長、伊澤史朗君。

○4番（菅野博紀君） 菅野議員の再々質問にお答えいたします。

町として介護予防事業においては、避難先自治体、地域資源にご協力をいただきながら、平成29年4月までに予防給付費及び介護予防・日常生活支援総合事業への移行計画の準備を進めてまいりたいと考えているところでございます。

また、先ほど、広域圏の中でいろいろそういうふうな議論がされているのかという話でございしますが、まず現在避難をしている自治体、町、村に戻っている自治体、そういったところの施設に関してお互い協力し合うというふうな話がようやく出てきているところでございます。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 私は非常に残念です。町として、また社協、町の施設ではありません。町の施設ではないです。だから、そういう面で、今町として、行政としてやらなくてはならないのは、民が手をつけられないところを行政としてやるというのは私は行政の仕事だと思います。

きょうの一般質問をやらせてもらって、逆に言えば私は残念だったと思います。全然老人福祉のことも何も考えていないように思いましたので、今後、本当に余命幾ばくもないとかと自分たちで言っている老人の方たちの気持ちを考えて、そんな中間貯蔵とか、そういう問題の前にやらなくてはならないことが私はいっぱいあったと思うので、それをちょっと考えてもらって、私の一般質問を終わりたいと思います。

（「休議」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 休議します。

休憩 午前10時30分

再開 午前10時45分

○議長（佐々木清一君） 会議に戻します。

通告順位3番、議席番号6番、谷津田光治君の一般質問を許可いたします。

6番、谷津田光治君。

（6番 谷津田光治君登壇）

○6番（谷津田光治君） 谷津田です。ただいま議長から一般質問の登壇の許可がありましたので、通告しておいた点につき質問させていただきたいと思っております。

まず、第1点、町長の町の政について、いわゆる町政についてであります。町民有権者にどんな公約をし、何を訴えて町長になったのか。ちょうど半分過ぎたところで、少し原点に戻って、考えを新たにさせていただきたいという希望もあって、このような質問をさせていただきます。

それから、23年3月11日、我々、大震災から原子力発電所の事故等で全町民が避難指示を受けて、12日から避難しました。この11日をどういう日だというように町長は思っているのかをお聞かせください。

それから、3番目は、先ほどからも質問にありました。町長の答弁も聞かせていただきましたけれども、町長、公務の決裁、それから決定、これは何に基づいて町長はその仕事をしているのか。先ほど答弁にもありましたので、それで十分かと言われれば、そうではないので、少し詳しく。96条だけではなくて、もっと詳しくお聞かせください。お願いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） 6番、谷津田光治議員の一般質問の通告書にお答えいたします。

1、町長の政治について。（1）、町民有権者にどんな公約をし、何を訴えて町長になったのかのおただしであります。私は本町の復興が遅々として進んでいない現状を何とか打破し、双葉町の復旧、復興を前に進めたいとの強い思いから、次の6項目を公約に掲げて町長選挙に立候補し、おかげさまをもちまして多くの町民の皆様のご支持をいただき、当選の栄を賜ることができました。

町長選挙の際の公約としては、1、避難先自治体との信頼関係の修復に努めること、2、避難指示区域の再編を実現すること、3、原発立地町、周辺自治体との協調を図ること、4、補償、賠償問題に全力を傾注すること、5、県との信頼関係を構築し、関係自治体と話し合いを進めて、中間貯蔵施設に対応していくこと、6、仮の町（町外コミュニティ）と町立幼稚園、小中学校を立ち上げていくことの6項目であります。町民の皆様から町政運営の負託を受けたことを厳粛に受けとめ、町の復旧、復興に向けて、これまで2年間精いっぱい町政運営を行ってきたところであります。

（2）、平成23年3月11日を町ではどんな日と決めているかのおただしであります。平成23年3月11日は、東北地方太平洋沖地震及び東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故が発生した日であり、津波の発生により、多くの町民のとうとい命が奪われた日であります。3月11日を町条例で定める双葉町民にとっての特別の日と定めておりません。

（3）、公務の決裁や決定は何に基づくのかのおただしであります。地方自治法に基づき、事務を管理し執行するものとなっております。町の決裁については、双葉町処務規程に基づき決裁を行っております。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 復興を進めたいという思いが強いようですので、これは休みなし、どんどんやってください。でも、先ほどの質問の答弁、後で予算のところでも話そうと思ったのですが、それほど復興に強い気持ちを持っているのであれば、副町長にアドバイスを受けないで、復興推進課長にアドバイスを受けてくださいよ、町長。町の総合計画とか振興計画とか言っていますけれども、これは全部あそこの復興推進課の担当事務ですから、そこに計画がなかったということをお先ほど言って

いましたけれども、ないのはおかしいのですから。ちょっと時間をもらって駒田課長に話を聞いてもよろしいのですけれども、話をしたら、多分自分の仕事としてやっていないということが証明されるので、多分やらないほうが私はいいと思うのですけれども、担当事務、これは課設置条例によって町長がつくっている規則の中にありますね。これは、復興推進課では何をしなさい、担当事務というのが書かれて、そこに書かれている。それを、その仕事をやらないで、こっちのやつと、振興計画とこれは一緒ですなんていう話はないのですから。だから副町長が、あなたは町長に任せられた仕事だけやっていればいい。余り余計なことをやるとぼろが出る。町長から条例で与えられている仕事があるのだから、それを踏まえていれば余りぼろは出ないのだから。復興推進課長の出る幕ないでしょう、あんなことやっていて。あの人の仕事なのです。町長があの人にやらせている仕事なのだ。ということです。

3月11日なのですけれども、我々はこの日、大地震が起こって、花を手向け、線香を手向けて、犠牲になった人たちのみたまにお祈りしています。町でもこの前、日曜日にやりましたけれども、これは、11日はやっぱり何か大切な日というような位置づけで取り組んでいただきたいと、そういうふうに思います。それは、あとは町長の考えですので、これ以上は申しません。

それから、公務の決裁。これは自治法、処務規程ということですが、中間貯蔵施設についても、これも自分で決定しているわけですから、町長の法的権限というのはかなり強力なものがあって、やれることもいっぱいありますけれども、やれないこともあるのだわな。余り人の権限の領域には入られない。ですから、その辺、自治法というのであれば法の範囲内。それから逸脱するようであれば、やはり法的な考えの人が何か法的にというようなことにもなるであります。この件については、また次の2番目で質問させていただきたいと思います。

話したことで一番聞きたいのは、2番目、これだけ出してください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再質問にお答えいたします。

3月11日を双葉町民にとって特別の日とはしておりませんが、双葉町民にとって東日本大震災の犠牲者に対する追悼の意を表する日であり、一日でも早い双葉町の復興を誓う日でもあると考えております。また、今国会において、東日本大震災の日と定めるという動きもあるようですが、その結果を踏まえ、3月11日をどのような日に定めるかを検討していきたいと考えております。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 次に、中間貯蔵施設の質問といたします。

先ほども質問がありました。受け入れと搬入は別です。議会全員協議会の時も議長が確認していることを私もまだ覚えております。それは違うのですねと確認していました。それは町長は、違えますと。建設と搬入の受け入れは別ですと、こういうようなことを話されておりましたが、なぜか搬入は日程まで決まっているようですね。最初は3月11日とか言っていました。それから、その後の報道で

は13日というようなことになったというようなこともありましたけれども、全く議会で説明したとこととかけ離れて、余りにもかけ離れているように思われるのですが、まずこの件を聞いておきたいと思ひます。

それから、中間貯蔵施設開始後30年以内という、県外最終処分を完了するというようなことが言われております。これ、安全協定にあるのでという話もあったようですけども、この30年以内、どこに持っていくと、これ法律でつくったのか、町長、知っていたら教えていただきたいと思ひます。ただ、県外最終処分といっても、前の環境大臣であった石原さんは、30年たった放射能減衰するであろうから、公共事業に使うというような話もされておりました。そこで全部使ってしまうのならば運び出す必要はないのですけれども、30年以内でそれを全部公共事業に使われるとは、どうなるかはわかりませんが、今の時点でそんなことはあり得ないなという思ひをしておりますので、その点、町長、どのくらいわかっていてこの安全協定に調印したのかをお聞きしたいと思ひます。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 2番、中間貯蔵施設について。（1）、中間貯蔵施設に関し、建設受け入れと搬入は別発言について、搬入は何日かのおたただしであります。これは昨年9月1日における環境及び復興両大臣への建設受け入れの回答の際に県知事が、建設受け入れ容認と搬入受け入れの判断は別として、5項目の確認事項の国の対応いかんにより搬入は判断する旨の要請を行ったものであります。これを受け、国ではこの確認事項についての対応をこれまで行ってきたものと認識しております。この結果、去る2月4日には議会全員協議会において、中間貯蔵施設の周辺地域の安全確保等に関する協定案について環境省から説明を受け、議会の皆さんからもご意見等をいただき、その後の議会要望等を踏まえ、町及び議会からの修正要望が協定に反映されることの確認ができたこと、またそのほかの4項目についても県が精査をして、おおむね県及び町の意向を踏まえた内容が確認できたため、搬入受け入れ容認の県の判断を了解したものであります。

県としては、改めて、確認事項の5点について国はしっかり対応するよう申し入れしており、私からも、建設及び搬入停止条項が適用することにならないよう安全確保に取り組む、本事業は地権者が第一、地権者の理解なしでは進められないことを肝に銘じること、今後とも強引な進め方をしないよう、地権者の声を聞き、丁寧に進めること、町が復興を果たすことができるまで、主体的に生活再建と町の復興に取り組むことなどを要請するとともに、大熊町長とともに、日程にかかわることなく、両町町民及び地権者の心情を酌み取ってもらいたい旨の要請も行ってあります。

国からは、搬入開始は3月13日とし、お彼岸期間中の3月18日から24日までの7日間は搬入と保管場の整備工事を一時停止するとの報告を受けており、両町の意向を受け入れてもらったものと考えております。

（2）、次に、中間貯蔵施設開始後30年以内に県外最終処分を完了を明記した法律の内容と、安全協定についてのおたただしであります。日本環境安全事業株式会社法の一部を改正する法律が昨年

11月19日に成立し、12月24日に施行され、中間貯蔵施設の整備、運営管理等は国が責任を持って行うこととなりました。本法律の第3条第2項には、国の責務として、「中間貯蔵開始後30年以内に、福島県外で最終処分をするために必要な措置を講ずる」と明記されております。

また、中間貯蔵施設の周辺地域の安全確保等に関する協定書については、本年2月25日付で両町及び県並びに環境省との間で締結しておりますが、協定書第14条に、環境省は「中間貯蔵・環境安全事業株式会社法第3条第2項の規定に基づき、中間貯蔵開始後30年以内に、福島県外で最終処分を完了するために必要な措置を講ずる」と規定されております。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 町長の答弁を聞いても、これはむなしい答弁なのです。何を町長が答弁しても、もう中間貯蔵施設というこの問題は走り出して、受け入れもオーケー、13日からやります。安全協定も締結しました。締結しておいて、11日は鎮魂の日だとか、お彼岸の期間は作業をやめてくださいとか、そんな申し入れするのなら、なぜ安全協定、お彼岸過ぎてからしなかったのですか。そんな、いいと言っておいて、この日はだめだとか、ここは仕事をやらないでくださいなんて。だったら、やらないでください。過ぎてからこの安全協定を締結すれば、運び込みはできなかったはず。あのよな、自分でいいと言っておいて、この日はと注文をつける。それをここで答弁してもらっても、私は余りぴんとこないのだよな。なぜ、では協定は。お彼岸過ぎてからやればよかったとしか思えないのです。なぜそんなに安全協定を急いだのか。

安全協定の最初説明があって、議会でも何かこれについて検討して申し入れることがあるか、申し入れました。しましたけれども、その申し入れの内容がわからないうち、我々は全然わからないうちに調印は終わりました。では、我々のところに、議会に検討してみなさいと行ってよこしたのは、何のためによこしたのか。全く議会は責任ないですから。議長は町長と会議に出席したから、できるのであればそれは議長だけで、我々何の説明も受けていませんから、ですから安全協定の締結は全く我々には責任ないと私は思っていますから。

輸送計画は、町長は運び入れ13日というふうに言われた。大臣が、一方的なのかどうかわかりませんが、そういうふうに言っていますけれども、輸送計画って、町長は何て我々に説明していたのだけ。受け入れが、まだ了解していないので、輸送計画の会議には出ていないと言っていましたよね。会議は出ていなくても、副町長はなぜか1年前にそのルートのことわかっていた。何回も議会で私言っていますけれども、つくばの町政懇談会か何かに行ったときに話したということで、何か叱られたとかいって、謝罪したという話もあったようですけれども、これは勝手にと私は思っているのですけれども、町には条例があるのだよな、双葉町地域安全条例って。これは、町長、この条例を何と考える。13日から運び込みが始まると、双葉町の中、町内、車は走って歩くでしょう。人は住んでいませんし、一時帰宅ぐらいの人しかいない。でも、6号国道、高速道路は通行する人はいるわな。これは、幾ら町長は会議に出ていない、国は国の責任で輸送基本計画の策定など行ってきたが、町は建設

受け入れを判断していないため、そうした協議に参加しておらず、町として安全確認等の関係からしっかりと国、県に意見していくと、こういう答弁だったのですけれども、廃棄物輸送連絡調整会議というやつを県でやっていたよな。今度は副町長わかるでしょう、これね。そこには環境省と福島県と県内関係市町村、担当者約100人だそうです。それから、県警本部、この人たちで連絡調整会議というのはやっていたのだな。そこには町長は出席しないのでということ。町長、これ本当に俺不思議なのだよ。前の町長、町村会、自分が主催する町村会だったのだけれども、県知事に集められて言われた。行ったらば、あの時は候補予定地にされたのが3町ありましたよね。双葉、大熊、楡葉。町村会は8人メンバーがいて、5人は自分の町から黒い袋を運び出してもらうのだから、これは反対はしないわな。だから、候補地の調査、あれに行って会議にまぎってしまうとやられるから俺は行きたくないといって、行かなかった、前の町長。今の町長は、受け入れしていないから、俺も会議に行かない。何が違うのだ。何かこれ、県で主催したのだから、国で主催して環境省でやったのかわかりませんが、こういう廃棄物輸送連絡調整会議とかというやつがあったのですが、そこに行かないから、私はそのこともわかりませんから、その会議に行かなかったのと、前の町長が町村会の会議に行かなかったのと何が違うのだ。結局、行けば輸送ルートだの何だのの話になるから行かないということなのだろうけれども、でもいずれこれ、町長が幾ら何と答弁しようと、これはもう走り出したのだ、この中間貯蔵施設というのは。この事業は走り出したのだな。

国の交付金から県の補助金から、予算としてもうこれは位置付けしてあるのだよな、割り振り。そうしたら、これはどういうことなのだろう。交付金もらったり、県から補助金もらったり。その補助金が予算書の中には入ってきている。そうしたらば、これは町長が何と答弁しようと、やめますとか、やれませんか、言えないでしょう、もう。それから、町長、地権者の人、何人町長はお話して、いや、おまえ協力しろよ、してくれるのか、それはありがたいなと、そういう感情を持ったとき、何人とありますか。これは私らも質問するのもおかしいのだよな。もう半分以上決まって走り出している事業ですから、質問するのもおかしい話なのだけれども、やっぱり町長、勝手に一人でやっているみたいにしか私ら思えないのでしゃべっているのだけれども、本当は町長、これ、復興とか町民が大切だと言うのであれば、あの中間貯蔵施設、予定地に住んでいたいわけの地権者と言われる皆さん方と町長はやっぱり親しく話をして、町長の立場としても協力を要請するぐらいの仕事なのではないですか、この中間貯蔵施設という仕事は。これは少し聞かせてください、考え方、町長。これはもう走り出した事業であって、今さらとまれないと私も、多分みんなも思っているながら、これ質問しているのだと思うのだけれども、これは町長として、執行者として最終的に腹をくくらなければならない時期になっているはずなのに、答弁がずらずら、ずらずら、あっちへ行ったりこっちへ行ったり。もうちょっと覚悟を決めるような少し答弁をいただきたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再質問にお答えいたします。

まず、搬入判断につきましては、従前から各議員の皆さんの質問にお答えしているとおりであります。

なお、そのことにつきまして何度も申し上げておりますが、個人の財産権に関して、官が民に対してどうこう言うことは非常に難しいだろうということは前々から申し上げているとおりでございます。そして、今回の搬入にかかわるストックヤードにつきましては、地権者の同意が得られたということで、認めたということでございます。それ以外の土地そのものについては、まだ地権者との交渉に入っている状況にありませんので、搬入ということにはならないと思っていますので、地権者にまず国は丁寧な説明をし、理解をもらうような努力をすることが大事だと思っています。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 全然、自分で決めて、これは走り出している仕事に責任がないように聞こえるのだけれども。ストックヤードはストックヤードで、あんなの、誰がどこで、どの時期でつくるなんて話は一切ありませんでした。おまえらに聞かせなくたっていいというのであれば、それはそれで、知らなくてもいいのですけれども、先ほど聞いた3月11日、どんなに日だと言いましたけれども、3月11日は12日から避難の日です。町民がいなくなりました。今度の13日からは、ごみが運ばれてくるのです。人間とごみの入れかえです。もう少し町長は腹をくくってこの仕事に取り組みなかつたら、これはもらった公金など補助金は返すのか。当然この事業がうまくいかなかったら返さなければならぬだろうから、使わなかつたら返せの話ではないわけですから、もともとできないわけですから。

それから、金はもらいたい、仕事を進めるためには地権者の同意が必要であれば、建設オーケー、運び込みオーケー、協定オーケーと言った町長は、もう少し、これは仕事がうまくいくように頑張ったらいいたろう。何か、こっちの仕事はあれだけれども、地権者は、地権者は、地権者は。当然地権者の権利までは町長、介入できないというのはわかっていて言っているわけだから、だけれども、協力要請は別に構わないのだろう、協力の。だって、これは自分で決められるわけだから、建設いいですよ、運び込みもいいですよ、安全協定もちゃんと締結しましたよ。そしたら、安全協定に基づいて仕事が走り出しているわけだから、だから町長、地権者はいいと言う人も、だめと言う人もいろいろいるでありましょうけれども、だから、人の権利だからと町長は言っていますけれども、本当に何でも、安全協定も何でも、建設も運び込みもいいですよと決めた町長は、少し前に進めるようにできないですか。私は人間とごみの入れかえの、町にごみだけ残ってというのはよいとは思いたくないのですけれども、だけれども、町長、自分の権限で進めているのであれば、何か最終的に地権者に責任を押しつけるみたいなことは。やっぱり言ったらば、あの人たちがかわいそうですよ。町で決めてくれというのは、町長、いいほうに解釈しているかもわからないけれども、1つは、町長、やれるのなら勝手にやってみたらいいだろうという人たちもいるはずですから、そういう人はいますから、だから我々に責任を持たせないで、町で何とか決めてきたらいいだろうと言う人は、町長がこれを勝手に進めているのだから、町長が決めたらいいだろうと思っている人がいるとは思いませんか。こういう

ことも含めて、ちょっと聞かせてください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再々質問にお答えいたします。

先ほど、まず地権者の皆さんの権利については説明をさせていただきました。

一方、地権者の皆さんだけでその判断をするということは非常に厳しい状況であるということも踏まえて、町として国につなぐということは当然やらなくてはならないでしょうし、地権者の皆さんの補償に対する考え方は我々も発信していきたい、そういうふうに思っております。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 最後に、新年度歳入歳出予算。予算書ができました。これをつくった基本。何を基本にして27年度の当初予算ができたのかお伺いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 3番目の27年度予算について。(1)、新年度歳入歳出予算案の基本についてのおただしであります。平成27年度当初予算案につきましては、施政方針及び提案理由でも述べさせていただきましたが、全国に避難されている方々の生活支援、町の荒廃防止と防犯対策、町の復興に向けた取り組み等に重点を置き、予算編成に努めたところであります。

また、全国に避難されている町民の皆様からのさまざまな要望につきましては、法令、財源や人的面などの制約もあることから、優先順位等を考慮しながら予算化を図っております。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 先ほどの質問についての町長の答弁、総合計画とか振興計画とか、何か言っていましたけれども、まず双葉町基本構想ってありますか。長期総合計画、ありますか。それから、国土利用計画及び土地利用基本計画、これは今大事なのだな、中間貯蔵施設4平方キロ。中間貯蔵施設の予定面積、これだけなるわけだから。これは、駒田課長のところへ総合開発行政についてという担当事務もあって、地域活性化対策、まちづくり、これはやっているようですけども、復興計画、東日本大震災に係る復興計画もやっているようですけども、事業として予算承認されてやったものについて、全員協議会で説明、当然これは継続するような内容の事業を持っているとすれば、3月議会で報告して、新しい予算を承認してもらう、そういう手続は必要なはずなのです。ただ議会の全員協議会で説明しました。これは案です。案、議会で承認もしないのに、この案、いつとれるのですか。3月、年度末です。だから、こういうことが私には理解できないことなのだが、これは、国、県との復興施策の調整、これは駒田課長、やっているのだろう、こういうことをね。町外拠点はやっているようですね。

原発周辺地域の安全対策。いつの間にか安全協定を結んでしまった。議会で何度も質問しているのに、行政報告であるとき突然、協定を締結しましたと町長の報告を聞いて、唖然としました。何の話も聞かせられないまま、質問は何とか続けてやりました。そういうことが、町長、多いのだな。

賠償の問題も復興推進課の担当事務なのです。これ、私はこの前の議会で質問しました。町財産について賠償はどうか、やっていますか。井戸川前町長が1回請求しました。聞きました。けれども、今度の予算で一銭もこれは予算に入っていない。広域圏組合議会だって存目1,000円予算をとっているのだ。なぜ賠償を進められないのかと聞かれているのに、やる気があれば存目する。1,000円だってこれは計上できるはずなのだ。復興推進課長、こういうことなのだ。だから、何を根拠に、何を基本にして予算を組んでいるのですかと聞きたい。町長の答弁したことはわかる。けれども、本当の上辺だけの話で、中身がないのかわ。予算って、1年、これで町長、仕事をさせて、町民皆さんの福祉向上のためって、これ1年の仕事の予算。これが何だかわけわからないというような感じなのね。もう少し、だから町長、今度は課長に説明させてもいいですから、担当事務、どれだけしっかりやっているのか教えてください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 担当事務につきまして、復興推進課長に説明させます。

○議長（佐々木清一君） 駒田復興推進課長。

○復興推進課長（駒田義誌君） では、ただいま谷津田議員のご質問に対してご説明を申し上げます。

復興推進課におきましては、行政組織規則に基づきまして事務を担当しております。今谷津田議員のほうからご質問にありました基本構想、長期総合計画についてのご質問でございますが、こちらにつきましては23年3月の第4次双葉町総合計画の中におきまして基本構想、基本計画が定められておるところでございます。

また、先ほど復興計画、また復興施策に関する調整についてのご質問もございましたけれども、復興施策に関する調整につきましては、国、県などと日々協議をさせていただいているところでございます。

また、復興まちづくり長期ビジョンにつきましては、3月4日に町長のほうから議会のほうに町としての案をご説明させていただいたところでございます。

また、安全協定につきましては、1月7日の締結に先立ちまして、文書にて町、町長のほうから議長宛てに報告をさせていただいたところでございます。

以上でございます。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） これ、課長、担当事務って幾つあるのだ。今あなたが言ったのは1つだ。3つ。23年の双葉町基本構想、長期総合計画。今何年だ。23年って逃げてきたときだろう。避難したとき。4年たっていて、同じものを、避難してからでも双葉町にいるときと同じものをどういう感覚で使えるのか。国との施策の調整。あなたは国から来ているのだから、できるであろう。先ほど言った、先ほどの質問であった、双葉町復興計画審議会、これは町長の諮問機関なの。町長は、施政方針をつくるのだっつらば、これ、ちょっとこの審議会を立ち上げて、諮問機関だから、こういうふうな年間

計画はどうだろうと、そのぐらいのやっぱり町長としての意欲があっても、私は全然変ではないと思う。もっと一生懸命、やる姿勢というのはそういうところから見えてくるような気がするのですけれども、せっかく町条例をつくっているのにもかかわらず、こういうものを使わない。利用しない。審議会、町長の諮問に応じて双葉町振興計画に関する事項とって調査及び審議して、町長にちゃんと、こういうふうにやりました。そういうふうな、せっかくつくって、条例で定められているこういうものを利用しない。23年につくった基本構想を後生大事に今も使っているというのは、全くおかしな話です。

これ、よく総務課も、予算編成するとき大変だったろうと思うのだよな。ただ去年計上したものと同じものですか、同じぐらいの金額ですとか言われるだけの話で、全く大変。予算編成、課長査定も大変だと思う。本当に復興と考えているのなら、町長、もう少しこれはしっかりした予算をとれないのでしょうか。これが別途な予算だと多分言うのだと思うのですけれども、本当に町長、予算編成って、何を基本にして、ことしやったの。もう一回答弁してください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再々質問にお答えいたします。

まず、平成27年度双葉町当初予算編成方針につきましては、全般的事項として、職員一人一人が厳しい財政状況を十分認識し、全庁挙げて所要財源の確保を図るとともに、限られた財源の中で町民のニーズに即した選択と集中による効果的、効率的な事業を推進するため、前例や慣例にとらわれることなく全ての事業の見直しを行い、事業の優先順位を踏まえた、メリ張りのある予算編成に努める。

1 番目に、被災者支援に係る事業を最優先とする。

2 番目に、新たな視点で既存事業の全てをゼロベースから見直し、検証すること。(1)、国、県等の方針、制度に合致しているか。関係法令等に抵触しないか。(2)、予算編成方針など町の方針に合致しているか。(3)、緊急性の度合いはどうか。(4)、住民の要望、期待度はどうか。(5)、成果はいつ、どのようにあらわれるか。(6)、経済効率、費用対効果はどうか。(7)、復興まちづくり（1次事業計画）の施策事業との整合性はどうか。

3 番目としまして、新規事業及び歳出の増加を伴う施策の再構築については、真に必要な不可欠なものに限ること。

4 番目に、国、県の予算制度にかかわる施策については、平成27年度においても東日本大震災の復旧、復興対応や原子力災害対策などを加え、現行制度の大幅な見直しなどが予想されることから、制度の創設、改廃等のもとより、地方負担の動向には特に細心の注意を払わなければならない。また、国は平成27年度末で5年間の東日本大震災にかかわる集中復興期間を終了するとしており、今後復興関連予算に関する大幅な制度改正、事務事業の見直しが見込まれるため、十分に情報収集を行い、関係機関、関係課等と連携をとり、適切に対応することです。

○議長（佐々木清一君） 6 番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 予算、そんなに窮屈なのですか。歳入歳出幾らあるとこの前説明を受けたっけね。提案ね。これは双葉にいる時の10倍もあるのではないですか。ちまちまと使うのであれば、幾らあったって、ちまちまな予算になってしまうのでしょうかけれども、だけれども、余りにもひど過ぎるのではないですか。もう少し、一生懸命やっているというところを見せてください。この前の臨時会からも困っている。基金条例と予算、私反対したものだから。町長は、それにもかかわらず全く同じ予算を組んできている。どうそれに対応しようか、私は今かなり悩んでいますけれども。

それから、本当に町長、町としての賠償はしないのですか。町長は、検討する、この前答弁しました。検討、弁護士と相談して。だけれども、予算書には一銭も反映されていない。さっき言ったように、広域圏議会だって存目1,000円とちゃんと計上しているのだ。やる気がないから、私は計上されていないのだとは思いますが、それでは議会答弁と全く反していると思います。

それから、やる、検討する、前向きな議会答弁はしてもらわないと困るのですから。前向きだから。後ろに戻るのならば、それはいいのですけれども、ひとつ、予算はあとは補正でも組めますので、それはそれでまたいずれ予算の話は質問しますけれども、言ったことに責任をとれるのかどうかだけお答えください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員のご質問にお答えいたします。

まず、賠償につきましては、今存目に上げてごさいませんが、弁護士と詰めているところでございします。今回の当初予算につきましては、今一生懸命その取り組みをして、達成できるように考えているところであります。

○議長（佐々木清一君） 休議します。

休憩 午前11時44分

再開 午後 1時00分

○議長（佐々木清一君） 会議に戻します。

通告順位4番、議席番号2番、白岩寿夫君の一般質問を許可いたします。

2番、白岩寿夫君。

（2番 白岩寿夫君登壇）

○2番（白岩寿夫君） 議席番号2番、通告番号4番、白岩寿夫、一般質問を行います。

1番、一時帰宅時の道路の安全対策について。1年を通し草木が道路を遮り、見通しも悪く、行き交うことも困難な状況であり、事故につながりかねません。そのための安全対策として除草、道路の点検のパトロールをどのように考えていますか、町長にお伺いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） 2番、白岩寿夫議員の一般質問の通告書にお答えいたします。

1、一時帰宅時の道路の安全対策について。一時帰宅時の道路の安全対策についてのおたがしであります。除草につきましては、平成26年度では、幹線道路、生活道路を中心とした道路延長87キロメートルの機械除草、除草剤散布などの作業を実施しております。これは町が管理する町道の自動車通行が可能な道路延長120.9キロメートルの72%に当たりますが、山間部や細かい部分での除草や、繁茂する木々の枝などの伐採には対応できていない箇所もあるのが実情であります。平成27年度では予算枠を拡大して要求しております、より広範囲での除草作業を実施していきたいと考えております。

パトロールにつきましては、民間警備会社、双葉町臨時職員による防犯、防災パトロール実施時に通行に支障となるような道路状況を確認した場合は、速やかに産業建設課に連絡をいただき、対応しております。また、産業建設課においても定期的に巡回し、道路の補修、支障木等の除去作業を行っております。

震災から4年が経過しようとする中、ますます道路等の荒廃が進んでおり、今後も一時帰宅者の安全確保のためにも定期的なパトロールを強化していきたいと考えております。

○議長（佐々木清一君） 2番、白岩寿夫君。

○2番（白岩寿夫君） 季節が変わり始め、やはり春から夏にかけて草木がどんどんこれから茂ろうとしております。去年の春から夏にかけても双葉町町内での交通事故、住民同士の交通事故を目撃しました。その中で、やはり草木が茂り、それから木が枯れて落ちたり、そして急に動物が出てきたりしての事故もかなりあると思います。その中で、誰も双葉地区内には住んでいないためか、やはり動物もかなり、何度か私もそれに接触しそうなこともあります。地元に戻っての交通事故、とても悲しいです。そういう中で、何かもっと事故のないような対応を町として考えていかなければならないと思います。どう町長は考えていますか、お答えください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 白岩寿夫議員の再質問にお答えいたします。

動物等の急な飛び出しによる事故、町民同士の事故があったと、今白岩議員の一般質問の中でお話ありましたが、そういったものに対して、先ほど答弁で申し上げましたとおり、まず道路の整備、いわゆる路肩とかそういったものに対する除草の徹底、また倒木等の道路をふさいだりすることに対する対応、防災のパトロールや臨時職員によるパトロールによって産業建設課のほうに早く連絡をしていただいて、そういったものに未然に対応していきたい、そのように考えております。

○議長（佐々木清一君） 2番、白岩寿夫君。

○2番（白岩寿夫君） 今双葉町に入ると、ほとんど車の影も見えないように感じています。その中で、やはりかなりのスピードを出してくる車も見かけられます。その中で、やはり事故を起こせば大変なことになる。まして、誰も住んでいない。この中で、やはり町としても事故の発生率とか、こう

いうぐあい、こういうところが危ないとか、そういう情報を町民に流す。今までも道路の中での事故もあったと思います。それをいろいろ出して町民に知らせることも大切ではないかなと思いますけれども、町長、いかがでしょうか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 白岩議員の再々質問にお答えいたします。

議員ご指摘のように、そういったような事故等の情報についても、なるべく対応を早く町民の皆さんにお知らせするというのと、そういった事故のあった場所というのは当然そういうふうな状況になりやすい、陥りやすいということであろうかと思っておりますので、そういうふうなことにしても周知をできるようにしていきたいと思っております。

○議長（佐々木清一君） 2番、白岩寿夫君。

○2番（白岩寿夫君） 次に入ります。盗難防止の対策について。避難生活が4年を迎えようとしている中で、いまだに盗難の声が聞かれます。これからも長い年月ふるさとは戻れず、自分の財産を守ることは不可能です。個人の財産は町が守らなければならないと考えられ、今以上に盗難対策強化が求められます。具体的な対策をお聞かせください。町長にお伺いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 2番、盗難防止の対策について。町民の皆様の財産を守るため盗難対策の強化について具体的な対策をとのおただしであります。町では国道6号の通行再開や避難指示解除準備区域での瓦れき撤去、除染作業など復興関連の事業が進むことで、これまでよりも多くの作業従事者が町内に入域していることに鑑み、平成25年8月より警備事業者に委託し、午前8時から午後6時まで実施しておりました双葉町内防犯・防災パトロール事業業務委託の実施時間を見直しし、平成27年1月6日より24時間体制へと監視を強化したところであります。

なお、町内立ち入り者がふえる住民一時帰宅実施日には町臨時職員による巡回活動もあわせて実施しており、防犯活動と立ち入りされている町民の皆様の安全確保に努めているところであります。

また、平成26年度事業において実施中の双葉町防犯・防災総合システム整備事業により、国道6号の町境と国道6号から町内帰還困難区域に入域する主要交差点に合わせて8カ所、14台の車番認証装置を設置し、間もなく稼働を開始することから、盗難などの防犯に対する抑止効果を期待するとともに、警察機関より求めがあった際には事務手続を経て情報を開示し、捜査等に協力してまいりたいと考えております。さらに、双葉警察署においては、本年2月より巡回パトカー台数をふやした警ら活動の強化、パトカー警ら時に建物の現況を巡回し、確認したパトロールカードを配り、町民の皆様が一時帰宅した際に警察が巡回していることをご認識いただけるような活動も行われております。

○議長（佐々木清一君） 2番、白岩寿夫君。

○2番（白岩寿夫君） 今高速道路が開通し、そして6号線でも多くの車が走っています。その中で、今仮設住宅や借上げ住宅で多くの人が住んでいますが、荷物を仮設住宅から双葉町の自宅に運ぼうと

している人がたくさんおります。それは、たくさん荷物がふえたせいか、やはり置く場所がないということで、今双葉町のほうの自宅に運んでいる姿は何度か見えます。でも、一番は、双葉町に行っても、運んだ荷物も、あの大きな地震で家が曲がったりして、鍵をかけることができません。その中で、その双葉町で避難所から双葉に運んだ荷物を守り、管理することなどはほとんどできないですよ。それで、住民の方が家に入ると物がなくなっているという話がかかり聞こえてきております。その対策も、せっかく買って、借上げ住宅や仮設に住んでいる人がせっかく家に運んで、物が入らないために運んでいるものが、今度高速や6号線の車の激しく通るようになった中での盗難防止、それを考えると、とても心配だという住民からの声も聞こえてきます。その対応をどうするかということは大変難しいと思います。住んでいない中での対応、それをどのように。せっかくの財物であるし、その住民が困っている話もよく聞きますので、その対応を町としてどう考えていったらよいか質問します。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 白岩寿夫議員の再質問にお答えいたします。

先ほど答弁の中で申し上げました、まず町としての臨時職員による巡回の徹底、そして事業者による24時間体制のパトロール等をやっております。それだけでも不足をしているということで、町内の主要交差点に合わせて8カ所、14台の車番認証装置を設置したことによる抑止力効果、あとは双葉警察署にさらに警ら巡回を強化していただくようにしていただくこと等々を考えていきたいと思っておりますし、また盗難防止のための対応等考えられるものがあれば、いろいろそれなり検討をしていきたいと思っております。

○議長（佐々木清一君） 2番、白岩寿夫君。

○2番（白岩寿夫君） せっかくの小さな財産であると思っております。これからも大切な町民の財産、しっかりと町も守って行ってください。

次に、中間貯蔵候補地以外の土地の利用と補償について。中間貯蔵施設候補地以外の土地の利用はどのように考えていますか。その土地に対しての補償は考えていますか、お聞かせください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 3番、中間貯蔵施設候補地以外の土地の利用と補償について。中間貯蔵施設候補地以外の土地の利用についてのおただしではありますが、中間貯蔵施設の予定地外については、土地の回復を図るためにも除染やインフラ復旧などの復興に向けた取り組みを進めていくことが必要と考えております。町の復興の進め方として、まずは双葉町の復興のさきがけとなる両竹、浜野地区から、その後町の中心部へ向けて段階的に町の復興を進めていく考えであります。

続いて、中間貯蔵施設候補地以外の土地に対する補償についてのおただしではありますが、羽山議員の質問にも答弁いたしましたとおり、中間貯蔵施設の予定地については、国が土地、建物の権利の取得を行うことから、それに対する補償が行われることとなりますが、予定地外については国が土地、

建物の権利の取得を行わないことから、国から補償金の支払いはされないところです。

一方で、町内復興拠点の整備を進めていくにつれて、道路の新規整備を初め、産業団地や住宅団地の造成、公共施設の整備など、さまざまな公共事業を行っていく必要が生じてまいります。こうした公共事業の執行に当たっては、当該事業用地となる方に土地のご提供などのご協力をお願いすることも考えられます。町の復興には長い時間かからざるを得ないことから、その間の町民の生活再建のためにも、中間貯蔵施設整備等影響緩和交付金を活用して取り組んでまいり所存です。

○2番（白岩寿夫君） 以上で終わります。

○議長（佐々木清一君） これで一般質問を終わります。

◎散会の宣告

○議長（佐々木清一君） 以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

ご苦労さまでした。

（午後 1時17分）

3 月 定 例 町 議 会

(第 3 号)

平成27年第1回双葉町議会定例会議事日程（第3号）

平成27年3月16日（月曜日）午前9時開議

開 議

- 日程第1 議案第 3号 教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例の制定について
- 日程第2 議案第 4号 教育長の勤務時間その他勤務条件に関する条例の制定について
- 日程第3 議案第 5号 職員の配偶者同行休業に関する条例の制定について
- 日程第4 議案第 6号 平成27年度東日本大震災等による被災者に対する町税の減免に関する条例の制定について
- 日程第5 議案第 7号 双葉町中間貯蔵施設整備等影響緩和交付金基金条例の制定について
- 日程第6 議案第 8号 双葉町特定原子力施設地域振興事業公共用施設維持補修基金条例の制定について
- 日程第7 議案第 9号 双葉町特定原子力施設地域振興事業公共用施設事業運営基金条例の制定について
- 日程第8 議案第10号 双葉町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定について
- 日程第9 議案第11号 双葉町行政手続条例の一部改正について
- 追加日程第1 議案第11号の取り下げの件
- 日程第10 議案第12号 双葉町職員定数条例の一部改正について
- 日程第11 議案第13号 双葉町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部改正について
- 日程第12 議案第14号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について
- 日程第13 議案第15号 双葉町特別職報酬等審議会条例の一部改正について
- 日程第14 議案第16号 町長等の給与及び旅費に関する条例の一部改正について
- 日程第15 議案第17号 職員の給与に関する条例の一部改正について
- 日程第16 議案第18号 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の一部改正について
- 日程第17 議案第19号 職員等の旅費に関する条例の一部改正について
- 日程第18 議案第20号 双葉町税条例の一部改正について
- 日程第19 議案第21号 双葉町教育委員会の委員の定数に関する条例の一部改正について
- 日程第20 議案第22号 双葉町教育委員会事務局の指導主事の給与に関する条例の一部改正について
- 日程第21 議案第23号 双葉町介護保険条例の一部改正について
- 日程第22 議案第24号 東日本大震災による被災者に対する介護保険料の減免に関する条例の一部

改正について

- 日程第23 議案第25号 双葉町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正について
- 日程第24 議案第26号 双葉町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について
- 日程第25 議案第27号 双葉町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正について
- 日程第26 議案第28号 双葉町下水道条例の一部改正について
- 日程第27 議案第29号 教育長の給与、勤務時間その他勤務条件に関する条例の廃止について
- 日程第28 議案第30号 双葉町固定資産評価審査委員会委員の選任について
- 日程第29 議案第31号 双葉町固定資産評価審査委員会委員の選任について
- 日程第30 議案第32号 双葉町固定資産評価審査委員会委員の選任について
- 日程第31 議案第33号 平成26年度双葉町一般会計補正予算（第7号）
- 日程第32 議案第34号 平成26年度双葉町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）
- 日程第33 議案第35号 平成26年度双葉町公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）
- 日程第34 議案第36号 平成26年度双葉町介護保険特別会計補正予算（第3号）

○出席議員（8名）

1番	羽山君子君	2番	白岩寿夫君
3番	高萩文孝君	4番	菅野博紀君
5番	清川泰弘君	6番	谷津田光治君
7番	岩本久人君	8番	佐々木清一君

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町長	伊澤史朗君
副町長	半澤浩司君
教育長	半谷淳君
総括参事	武内裕美君
秘書広報課長	平岩邦弘君
総務課長	舶来丈夫君
参事兼 復興推進課長	駒田義誌君
税務課長	山本一弥君
産業建設課長兼 農業委員会兼 農事局長兼 コミュニティ センター所長	猪狩浩君
住民生活課長	松本信英君
参事兼 健康福祉課長兼 青年婦人会館長	大住宗重君
生活支援課長兼 埼玉支所長	志賀睦君
教育総務課長	今泉祐一君
会計管理者	半谷安子君
代表監査委員	五十嵐一雄君

○職務のため議場に出席した者の職氏名

事務局長	山下正夫
書記	大浦寿子

◎開議の宣告

○議長（佐々木清一君） おはようございます。ただいまの出席議員は8名です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

（午前 9時00分）

◎議事日程の報告

○議長（佐々木清一君） 本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりです。

◎議案第3号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第1、議案第3号 教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例の制定についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第3号 教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例の制定についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第3号は原案のとおり可決されました。

◎議案第4号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第2、議案第4号 教育長の勤務時間その他勤務条件に関する条例の制定についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第4号 教育長の勤務時間その他勤務条件に関する条例の制定についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第4号は原案のとおり可決されました。

◎議案第5号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第3、議案第5号 職員の配偶者同行休業に関する条例の制定についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第5号 職員の配偶者同行休業に関する条例の制定についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第5号は原案のとおり可決されました。

◎議案第6号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第4、議案第6号 平成27年度東日本大震災等による被災者に対する町税の減免に関する条例の制定についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第6号 平成27年度東日本大震災等による被災者に対する町税の減免に関する条例の制定についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第6号は原案のとおり可決されました。

◎議案第7号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第5、議案第7号 双葉町中間貯蔵施設整備等影響緩和交付金基金条例の制定についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） これは中間貯蔵施設がもうできることを前提として交付されるものだと思うのですが、いつできるのかをとりあえず聞きたいと思ひますし、この「整備等影響緩和」という言葉は何を意味するのか、どんなことなのかをまず聞かせてください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員のご質問にお答えいたします。

中間貯蔵施設整備等影響緩和交付金についてであります。これは先般、建設受け入れの判断をした折に、国として交付の決定がされたということでもあります。また、中間貯蔵施設の建設の時期云々によって影響されるものではないと思っております。

○議長（佐々木清一君） 影響緩和について、町長。

○町長（伊澤史朗君） 影響緩和についてでございますが、施設の全ての影響を緩和させるためのものというふうに判断しております。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 余りにも町長、抽象過ぎて、「全ての」ってどういうことなの。全ての。この施設は町長言っているように迷惑施設だと言われているのですね、町長は自分から言っているから。だから、この迷惑施設が我々町民に迷惑にならないような方法を考えるときに使えるお金なのでしょう、これ。これは何さでも使っているの、そういうことではないのだべ。それで、いつできるのか、まずそれをはっきり、町長、教えてください。この金は中間貯蔵施設つくるからもらえるのだ。これ、きのうおととい、ストックヤードに大きいの搬入始まりますよと言ったと思ったら、またきのうの新聞だと、何か町の都合で調整がつかないとか何とかという、何かそんなこと言っていた人がいましたけれども、では、どんなことでそれは延期になったのかも、それは後で聞きますけれども、とりあえずこの中間施設整備等影響緩和交付金というこのお金は何ゆえにももらえるのかだよ。だって、これつくるからもらえるのでしょう、町長。つくるから。だから、いつつくるのかだ。あの工業団地に運び込んで置くだけだったならば、それは施設って、これ中間貯蔵施設とは私は言わないと思うのだよ。ちゃんと置くところも処理するところも処分するところもできて、初めて私は「施設」というような呼び方ができると思うのだ。前の彌榮精機のところのあの敷地に、きれいにしてあそこに黒い袋どんどん運び込んで置きますのが「中間貯蔵施設」なのかどうか。ただ金もらえるからどんどんごみ持ってきていいっていうわけにはいかないのだよ、町長これ。人間は町民はみんな避難している、黒い袋は人間のかわり町民のかわりにどんどん運び込まれる、それでお金もらえる。これ何するのだと、この金。何に使うのだって、大体この影響緩和って。それで、もっと教えて。くれるって国が言ったとして、もらう、はい、では、いただきますというのは誰が言って、どんな配分の方法。これ389億円とかもらえるとかもらえないとか言っているのだけれども、誰がこれ数えたの。どんな配分の方法でこの389億円が双葉町にももらえるということで補正予算に計上されてきているのか。これ、だから、誰がどんな方法でこれ配分決めたのかも知りたい。とりあえずいつできるのかと、どんな影響があるのか、これちゃんと詳しく教えて。これ金もらえるって、町長が言う迷惑施設で、そのかわりに銭くれるというのであったら、その銭は何に使うのか。ただいいかげんにこれもらって、はいはいと言ったら、これ町売り渡すのと同じだべした。町は残すって町長言っているのだから、はっきり。残しましょう、町は。だから、この何に使う金なのかだよ。これ影響緩和って何に、どんな影響、悪影響があるから金はくれるのだべから。だから、どんなことするのだから、教えて。とりあえずお願いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再質問にお答えいたします。

いつできるかというおたがしでございますが、これは地権者の皆様のご理解が得られたその後と

いうふうに判断しております。

また、この交付金の影響緩和ということでございますが、中間貯蔵施設を建設するに当たって、それらのさまざまな影響が考えられると。その影響に対しての緩和をさせるための交付金というふうに捉えております。

（「配分方法」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 町長、配分方法を聞かれているので、質問されているので、答弁できるのなら答弁してください。

町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） この中間貯蔵施設影響緩和交付金についてであります。このもとになる850億円の配分方法についてであります。大熊町と双葉町との協議の結果、均等割、人口割、そして搬入割というふうな3つの判断によって、今回この数字の決定をされたということでございます。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 町長、この前の一般質問でも申し上げましたが、地権者の同意が得られたらと。だから、いつまでかかるの。町長は、金はもらうことに決めてきたのだから、つくるのでしょうか、この中間貯蔵施設というのは。強い意志がないと、これ簡単に、つくるの苦渋の選択とか言うけれども、何もそんなに悩むことはないと思うのだわな。もうやるかやらないかだけだから。だから、決めてきた町長が、この金をもらうということは、これいつできるのだからということ、もうちゃんと目鼻がついているからこの金をもらうのだべ。お金は、これ、何だか自由度の高い交付金とか何とかと書いていたようですけども。だから、つくるの賛成だから金もらうのか、金もらえるから賛成なのか、どちらだ。最後にこれだけ聞きます。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再々質問にお答えいたします。

建設判断をしたということによって、国としてこの交付金の決定がされたらと、そういうふう判断しております。

○議長（佐々木清一君） ほかにありませんか。

4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 何点か質問させていただきます。

自由度の高いということで、では、使えないものを全部挙げていただいてよろしいですか。自由度の高いということはいっぱいあるので、使えないほうが少ないと思うのですよ。少ない、使えないものは、もちろんこの議案に上がってきたときにはそのくらいはもう話し合っていてできていると思うので、はっきりとここはお答えください。お願いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の質問にお答えいたします。

自由度の高い交付金ということでございますが、当然交付金ですから全て自由ということではありません。ただ、なるべく今までの交付金の縛り等、そういったものをある程度緩和できると、そういうふうなことだというふうに判断しております。そういったことから、個人や法人に対する迷惑料など現金給付等は国の交付金制度上できないこととなっておりますので、ご理解を願いたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） では、それが、それ以外は全部使えるということかと思えます。

また、建設受け入れしました。では、万が一地権者の方がもうやっぱりだめだよとなって、では、返しなさいよと。建設ができなくなりましたと言って返さなくていいお金なのかどうなのか。そこもはっきりお答えください。

また、これを今審議するのであれば、町長の受け入れた搬入は、逆に言えばもうゼロにさせていただきたいという希望もあるのですか、どうでしょうか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再質問にお答えいたします。

交付金につきましては、建設受け入れ判断によって交付が決定されたものであり、契約に左右されるものではないということを確認してございます。

また、搬入判断につきましては、このことについては、撤回するというふうな考えは持ってございません。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） では、私ははっきりお答えくださいと言っているのですよ。万が一、搬入は別として、建設に対して返すお金なのか、そういうふうにならなくても、建設しなくても返すか返さないかということを、回りくどく言わないではっきり言ってください。

また、搬入に関しては、町長としては、町民の話を聞いていないので、今後の対応にさせていただきます。はっきりと教えてください。聞いていることは回りくどくではない、返さなくていいのか…人の話聞いているのか。私が質問しているときに、町長に質問しているのに、他の方と話しするというのはすごく失礼ではないですか。私は、言いましたよね、建設に関して万が一できない場合もこの交付金は返さなくていいのか、返さなくてはならないのかということを聞いているのですよ。そこを返さなくていいのか、返さなくてはならないのかということを聞いているのに、「と思われまます」ということではないのですよ。そのくらいのこと、議案に出してきているのですから、はっきり教えてください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再々質問にお答えいたします。

建設受け入れ判断によって交付決定がなされたというふうに判断しておりますので、その返還の必要はないと思っております。

○議長（佐々木清一君） 菅野議員に申し上げます。

言葉、言動に少し注意してください。議場ですので、お願いします。

（「はい」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） ほかに質疑ありませんか。

1番、羽山君子君。

○1番（羽山君子君） ここに第1条の中に「生活再建及び地域振興等」とありますけれども、この生活再建というのは誰の生活再建なのかということと、あと、地域振興とありますけれども、これはいただいてからすぐに使えるというものなのか、その辺も、あと何年くらい使えるものなのか。例えば、中間貯蔵施設30年なので、30年終わったらもう、これまだ残っていたら使えなくなってしまうのか、その辺もちょっとお聞きしたいと思っています。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 羽山議員の質問にお答えいたします。

まず、今回の中間貯蔵施設影響緩和交付金についてであります。必要な生活再建及び地域振興等に係る事業ということで判断をしたということでございますので、その中身については、そのような判断によって、この交付金の使用目的であるというふうに考えております。

また、いつまで使えるかというふうなご指摘ございましたが、当然、中間貯蔵施設の搬入から最終処分場への搬出までの30年間というふうに考えております。

○議長（佐々木清一君） 1番、羽山君子君。

○1番（羽山君子君） ただいまお答えありましたけれども、生活再建、だから、今ここに避難している人たちが生活再建をどういうふうにするかと、皆さん一生懸命考えているのにも使えるという「生活再建」の意味でしょうか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） これは、双葉町民全町民に対しての対応というふうに考えております。

○議長（佐々木清一君） 1番、羽山君子君。

○1番（羽山君子君） 全町民はわかりました。でも、その「生活再建」という、今避難している人たちに対しても使える生活再建なのかと私は今聞いているのです。全町民はわかります、それは当たり前のことです。でも、避難している皆さん、今使える生活再建のお金なのかと聞いているのです。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 羽山議員の再々質問にお答えいたします。

当然、生活再建ということでございますから、全町民対応、そして今というふうなご指摘ございましたが、今後その中身についてよく議論をして、中身の使い方等々も検討していかなくてはならないと思っております。

○議長（佐々木清一君） ほかに質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

6番、谷津田光治君。

○6番(谷津田光治君) 何を質問しても的を得た答えが返ってこない。今の質問だと中身の金の使い方はこれから検討する、これから検討する金をしっかり389億円も、見たこともないような金が、これから使い道検討するのにもうもらってしまうのだな。それで基金に積むという話なのですが、まず先ほどから言っているように、建設受け入れ決定で地権者抜きでやった仕事にもらえるお金を基金として積むというばかげた話、大体、私はないと思う。地権者抜きで町長の一存でやっているのと一緒だ。まず、これには反対。

○議長(佐々木清一君) 賛成討論ありませんか。

4番、菅野博紀君。

○4番(菅野博紀君) 建設受け入れで返さなくていいお金と、389億円。ただ、搬入に関しては別と考えて、今後町の財政等、今後あらゆるものが出てくると思います。緊縮財政ではありませんが、余裕を持ったことをするのであれば、この基金は受けざるを得ないと思います。ただ、今後この搬入受け入れに関したり何とかというのは、執行者の勝手な判断でやっている。地権者抜き、町民抜きということもありますが、今後、職員、町民を考えたときに、この基金は必要であるということで、今回に関しては私は賛成したいと思います。

○議長(佐々木清一君) このほかありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第7号 双葉町中間貯蔵施設整備等影響緩和交付金基金条例の制定についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立多数)

○議長(佐々木清一君) 起立多数です。

よって、議案第7号は原案のとおり可決されました。

◎議案第8号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第6、議案第8号 双葉町特定原子力施設地域振興事業公共用施設維

持補修基金条例の制定についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第8号 双葉町特定原子力施設地域振興事業公共用施設維持補修基金条例の制定についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第8号は原案のとおり可決されました。

◎議案第9号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第7、議案第9号 双葉町特定原子力施設地域振興事業公共用施設事業運営基金条例の制定についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第9号 双葉町特定原子力施設地域振興事業公共用施設事業運営基金条例の制定についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第9号は原案のとおり可決されました。

◎議案第10号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第8、議案第10号 双葉町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第10号 双葉町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第10号は原案のとおり可決されました。

◎議案第11号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第9、議案第11号 双葉町行政手続条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） この改正案、第3条第5号中「名あて人」を「名宛人」に改め、これ何ゆえにこれ変えるのか。何か「あて」の平仮名を漢字にしないとだめな理由があれば教えてください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の質問にお答えいたします。

総務課長に説明をさせます。

○議長（佐々木清一君） 舶来総務課長。

○総務課長（舶来丈夫君） 谷津田議員の質問に対しまして説明させていただきます。

今、第3条第5項中の「名あて人」をこちらを改正するということですが、これは法律の一部改正による文言の訂正であります。よろしくをお願いします。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） そうすると、これは3条は変えなければならない。2条は変えることないのか、2条は。これ、すると2条はこのまま使って、3条は漢字にすると。ないですか、「(5) 不利益処分、行政庁が条例等に基づき特定のものを「名あて人」として直接にこれを義務を課し」ということになっているのですが、これ、町の条例集は見ているのか。これは総務課長、どうなのだべ。3条は直さなければならないけれども、2条は直さなくてもいいということなのかどうか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再々質問にお答えいたします。

総務課長に第2条についての説明をさせます。

（「再質問だよ」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 「再々質問」ではなくて「再質問」に訂正させていただきます。

○議長（佐々木清一君） 舶来総務課長。

○総務課長（舶来丈夫君） 谷津田議員の再質問に対してお答えします。

この点については、うちのほうでももう一度精査しまして、直すべきものは直すと。そして、そのような形をとりたいと思いますので、よろしくご理解のほどお願いしたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） もう少し、これ奥歯に物が挟まったような言い方でなくて、町の条例にはそういうふうに書かれているか書かれていないかをはっきり言ってほしいのと、もしこれを直すのであれば、これは取り下げて、もう一度再提出ということになりませんか。これ、ここは直すけれども、こっちは直さねえで、このまま通させてください。後でこれ検討して直すべきだったら直しますなんていう議案は、双葉町議会では審議しないはずですから。明快にお答えください。

（「休議」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） はい、休議します。

休憩 午前 9時32分

再開 午前 9時54分

○議長（佐々木清一君） 再開します。

町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 先ほど谷津田議員からご指摘ありました第2条につきましては、再精査をし

たいと思いますので、今回、議案第11号 双葉町行政手続条例の一部改正について取り下げをさせていただきます。

○議長（佐々木清一君） 伊澤町長から今取り下げの申し入れがありましたので、休議して議運を開催していただきたいと思います。

休議します。

休憩 午前 9時55分

再開 午前10時14分

○議長（佐々木清一君） 再開します。

◎日程の追加

○議長（佐々木清一君） 申し上げます。3月9日町長から提出された議案第11号 双葉町行政手続条例の一部改正についてを取り下げしたいとの申し出があります。

議案第11号の取り下げの件についてを日程に追加し、追加日程第1として日程の順序を変更し、直ちに議題にしたいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 異議なしと認めます。

よって、議案第11号の取り下げの件を日程に追加し、追加日程第1とし、認定の順序を変更し、直ちに議題とすることに決定しました。

◎議案第11号の取り下げの件

○議長（佐々木清一君） 追加日程第1、議案第11号の取り下げの件を議題とします。

お諮りします。議案第11号の取り下げの件を許可することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 異議なしと認めます。

よって、議案第11号の取り下げの件を許可することに決定しました。

◎議案第12号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第10、議案第12号 双葉町職員定数条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑はありますか。

7番、岩本久人君。

○7番（岩本久人君） 職員定数を町長部局5名増員して教育委員会部局を5名減ということなので

すけれども、どうも教育委員会5名を減することに対して、ちょっと私も心配感があるわけです。学校教育並びに生涯学習教育と多岐に業務がある中で、生涯学習がそれぞれ県内、県外と、生活学級とか婦人学級とかそれぞれ活動しております。しかしながら、なかなかそういう教室もいろいろさまざまな問題課題なんかも、やはり運営していく上であるようであります。それに、これからいろいろスポーツ関係の事業なども再開されつつありますので、いろいろとそれぞれ職員の負担が出てくるのではないかなというふうに思っております、ぜひ15名の定数、現在11名という職員数なものですから、それぞれ避難先で活動しているそれぞれの団体に対して十分手が届くような体制で臨んでいただきたいと思うのですが、いかがなものでしょうか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 岩本議員の質問にお答えいたします。

現在の町長部局、そして教育委員会のほうのそれぞれの定数を5増5減ということで今回一部改正ということで上程させていただきましたが、現在その条例定数に達している状況ではないということもご理解いただきたいということと、詳しくは総務課長のほうに説明させます。

○議長（佐々木清一君） 船来総務課長。

○総務課長（船来丈夫君） 岩本議員のご質問に対しまして説明させていただきます。

今現在、町長部局ですけれども、今回改正されますと定数が84ですけれども、実際76と。あと教育委員会、今20を今度減らしまして15、現在11名という数字になっております。定数の管理なものですから、その点についてはいろいろとその他バランスを考えながら改正のほうをしておりますので、ご理解のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○議長（佐々木清一君） 7番、岩本久人君。

○7番（岩本久人君） それぞれ町長部局にしても、教育委員会事務局にしても、まだまだ災害業務はこれから長きにわたりますので、ぜひとも町民に支障が起きないように、また職員皆さんもそれぞれ負担にならないような人数、職員の配分をお願いしたいということです。よろしくお願ひします。

○議長（佐々木清一君） ほかにありませんか。

4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 町長の公約の中で、学校等のいろいろありましたよね。もう2年前で忘れたのかなと。結局職員定数も足りていないというのでは、今の膨大な仕事、双葉町は他町村と比べて、県外県内に分かれて避難している方が非常に多いと思ひます。その中でも子供のことというのは非常に大変であって、数字上のことだけではなく、15人にするなら15人にして、15人マンパワーでいけるような方向。本当に、町長部局84だったら84でマンパワーでいけるような方向性を僕はとらなくてはならないのかなと思ひます。教育委員会のほうで、数字とはいえ5減というのには、非常に言っていることとやっていることが違うと思うのですけれども、町長、本当に執行者として職員のこととも考え

なくてはならないと思いますが、教育部局が11人ということで足りていると思いますか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の質問にお答えいたします。

ただいまのご指摘の11名で足りているかということでございますが、非常にご存じのとおり通常業務、災害業務ということで、町長部局、教育委員会のほうの部局に関しましても、当然この人数で足りているというふうな判断はしていない状況でございますが、一方、職員採用につきましても、随時欠けている状況でございますが、なかなかそういうふうな補充がうまくいっていないということもご理解いただきたいと思います。議員ご指摘のように、今後適正な人数に配置できるように努力していきたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 町長、2年もう過ぎていますね、町長になってから。それで議員時代、副議長までやられて、この震災でもよく見ていると思いますが、実際には私は足りていないと思います。この定数に関しては、ある程度ものがありますけれども、この定数がないからやっているのではなくて、結果なのですよね、町長が搬入を受け入れしたという結果とか、結果だけなのですよ。これ逆に言えば、このマンパワーになっていない状況で、仕事が膨大で倒れました、入院しました、病気になりましたとなったときに、どんどん、どんどんあれになってしまうので、この定数に関してはちゃんと守らなくてはならないことではないですか。定数というのはこれ震災前からのものですからね。それに関して足りていないというのはちょっと非常におかしいと思うのですけれども、いつぐらいまでこれマンパワーにできるのか、お答えください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再質問にお答えいたします。

いつぐらいまでにということでございますが、毎年職員採用の募集をしている状況でございますし、そういったことでなるべく不足分を補充できるように努力しているところでございますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） これ努力では足りないのですよ。結果なのですよ、町長。結果をいつまで出せるかということをおちゃんとはっきり答えてもらわないと、例えばですよ、来年度までには何とかしますとかということも言えないようでは、執行者としては私は失格だと思います。逆に、ちゃんとしたそういう目標がなければ何もできないのではないですか。もう一回聞きます。いつぐらいまででできるようにしていただけるのですか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再々質問にお答えいたします。

いつぐらいまでにというご指摘でございますが、当然なるべく早くそういうふうな定数条例も含め

て補充をきちっと達成したいというふうな思いは強く持っていますし、なるべく早い時期に議員ご指摘のように不足分の補充ができるようにやっていきたいと思っています。

○議長（佐々木清一君） ほかにありませんか。

6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 私も、この前心配で、教育長にお考えを聞きましたらば、何とか頑張るということでしたが、町長、これ改正、避難してから24年にやっているのですね。だから、その後、学校再開をして……見直しして、学校が再開をされて、またそのときより職員を減らすというのは、かなりやっぱり負担がかかるのではないのかなというような心配があります。ですから、菅野議員の言うように、いつまで102名の定数を100人にしていくのかというのも、これは町長のやり方ですから、定数102であっても100でやりますと言えば100でもできるはずですけども、心配は、負担がかかり過ぎてはそれは町長の政策失敗になるわけですから、とりあえず失敗で、結果が失敗とならないような方法を、町長、とっていただく決意、お願いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の質問にお答えいたします。

今ご指摘のありましたような中身について、何とかご指摘あったことに報われるように努力していきたいと思っております。

○議長（佐々木清一君） ほかにありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第12号 双葉町職員定数条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第12号は原案のとおり可決されました。

◎議案第13号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第11、議案第13号 双葉町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第13号 双葉町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第13号は原案のとおり可決されました。

◎議案第14号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第12、議案第14号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第14号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第14号は原案のとおり可決されました。

◎議案第15号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第13、議案第15号 双葉町特別職報酬等審議会条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第15号 双葉町特別職報酬等審議会条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第15号は原案のとおり可決されました。

◎議案第16号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第14、議案第16号 町長等の給与及び旅費に関する条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第16号 町長等の給与及び旅費に関する条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第16号は原案のとおり可決されました。

◎議案第17号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第15、議案第17号 職員の給与に関する条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第17号 職員の給与に関する条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第17号は原案のとおり可決されました。

◎議案第18号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第16、議案第18号 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第18号 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第18号は原案のとおり可決されました。

◎議案第19号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第17、議案第19号 職員等の旅費に関する条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第19号 職員等の旅費に関する条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第19号は原案のとおり可決されました。

◎議案第20号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第18、議案第20号 双葉町税条例の一部改正についてを議題とします。
直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第20号 双葉町税条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第20号は原案のとおり可決されました。

◎議案第21号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第19、議案第21号 双葉町教育委員会の委員の定数に関する条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第21号 双葉町教育委員会の委員の定数に関する条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第21号は原案のとおり可決されました。

◎議案第22号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第20、議案第22号 双葉町教育委員会事務局の指導主事の給与に関する条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第22号 双葉町教育委員会事務局の指導主事の給与に関する条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第22号は原案のとおり可決されました。

◎議案第23号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第21、議案第23号 双葉町介護保険条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第23号 双葉町介護保険条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第23号は原案のとおり可決されました。

◎議案第24号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第22、議案第24号 東日本大震災による被災者に対する介護保険料の減免に関する条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

4番、菅野博紀君。

○4番(菅野博紀君) これ減免はわかるのですけれども、1年1年ですよ、毎回毎回時限立法みたいに行っているのですけれども、実際に私たちの町の高齢者の方々、介護にかかわっている方、認定を受けている方とかそういう方は、本当は双葉町にいれば自分ちの庭とかいろいろ自分たちでやって、そういう状況ではない人も非常に多かったと思います。その中で、この1年1年っていうのは精神的にも非常に不安を与えるようなあれなので、これ何年と、1年1年の更新とかそういうのではなくて何年というような、例えば5年とか3年とか、そういうちょっとでも安心させるような方向性の要望等できないのか。まあ今は要望ではないですね、被害者と加害者の面での話になれば、これは要請ですよ。要請しているのかしていないのか、お伺いいたします。

○議長(佐々木清一君) 町長、伊澤史朗君。

○町長(伊澤史朗君) 菅野議員の質問にお答えいたします。

単年度単年度ということで被災者にとって非常にいつも心配する状況であるというご指摘でございます。この要請要望に関しまして、やっているかないかということでございますが、やってございます。

○議長(佐々木清一君) 4番、菅野博紀君。

○4番(菅野博紀君) 中間貯蔵等のことを進めるのであれば、こういうことを進めるのが双葉町民のためだと思うので、ぜひとも結果を持ってきていただきたいと思います。

○議長(佐々木清一君) ほかにありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第24号 東日本大震災による被災者に対する介護保険料の減免に関する条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第24号は原案のとおり可決されました。

◎議案第25号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第23、議案第25号 双葉町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第25号 双葉町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第25号は原案のとおり可決されました。

◎議案第26号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第24、議案第26号 双葉町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第26号 双葉町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第26号は原案のとおり可決されました。

◎議案第27号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第25、議案第27号 双葉町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第27号 双葉町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第27号は原案のとおり可決されました。

ここで休議します。

休憩 午前10時44分

再開 午前11時00分

○議長(佐々木清一君) 会議に戻します。

◎議案第28号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第26、議案第28号 双葉町下水道条例の一部改正についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第28号 双葉町下水道条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第28号は原案のとおり可決されました。

◎議案第29号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第27、議案第29号 教育長の給与、勤務時間その他勤務条件に関する条例の廃止についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第29号 教育長の給与、勤務時間その他勤務条件に関する条例の廃止についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第29号は原案のとおり可決されました。

◎議案第30号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第28、議案第30号 双葉町固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第30号 双葉町固定資産評価審査委員会委員の選任についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第30号は原案のとおり同意することに決定しました。

◎議案第31号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第29、議案第31号 双葉町固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第31号 双葉町固定資産評価審査委員会委員の選任についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第31号は原案のとおり同意することに決定しました。

◎議案第32号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第30、議案第32号 双葉町固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第32号 双葉町固定資産評価審査委員会委員の選任についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第32号は原案のとおり同意することに決定しました。

◎議案第33号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第31、議案第33号 平成26年度双葉町一般会計補正予算(第7号)を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は説明書により歳入から行います。

第1款町税。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第9款地方交付税。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第10款交通安全対策特別交付金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第12款使用料及び手数料。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第13款国庫支出金。

6番、谷津田光治君。

○6番(谷津田光治君) 先ほども質問いたしました件について、交付を受けるということは、町長、どうしてもこれ施設ができるという前提なのではないでしょうか、素直に教えてください。いつまでつくるのですか、いつまで。先ほどの説明だと、地権者という、地権者の動きでというような発言ですけれども、だから町長は地権者を、では、どうしようと。つくるためには地権者の同意もらわなければならないから、同意もらうために町長は、ただこれ建設受け入れ、苦渋の決断しました、搬入いいですというだけなのか。そういう限りにはやっぱり責任持ってこれやらないと、この交付金は受けられないと私は思うのですけれども、そこをやるとかいつまでとかと言えないのは、何かどうもしっくりこないのですけれども。迷っていないではっきり胸の内を、私、多分これ、交付金を受けるということだからやるということだと思いますけれども、その辺ははっきり聞かせてください。もうここまで来たのだから、これだけのお金を交付金を受けるということ、やっぱりつくらなければもらわれないのだ

べ。この辺はつきりお願いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の質問にお答えいたします。

中間貯蔵設備環境緩和交付金につきましてでございますが、この交付決定というのは、先ほども答弁の中で申し上げておりますが、建設受け入れ判断について国は交付決定をしたというふうに判断をしておりますので、ご理解いただきたいと思えます。

また、時期につきまして、先ほど来から申し上げておりますが、地権者の皆さんに国が丁寧な説明をし、ご理解をいただくということが大前提だと思っておりますので、ご理解いただきたいと思えます。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） どうも町長の責任がそこ見えないのだよね。建設受け入れ、建設はいいですよ。いいですよという限りには、やっぱりそれなりの覚悟を持ってそれをオーケーしているのだと思うのですよね。はい、ごみの搬入いいですよというのであれば、それなりのちゃんと信念、覚悟を持ってオーケーしているわけですから、俺はオーケーしたけれども、あとは地権者の皆さんの考え方ひとつですよみたいなことでは。何かこの前、町政懇談会には町が何とか決めてほしいとかと言われてたとかというような答弁もしていましたけれども、そこがはっきりしないと、何かこの交付金、俺はもらうのにはちょっと心配なところもあるのですね。大体地権者の人たちはこの交付金どのぐらい使えるのかわからないのですけれども、町に入ってくる、これ影響緩和だと、影響緩和はどこまでどのような使い方になるのかもよく町長の説明では何かもう一つピンと来ないですけれども、何かこれはっきりしましょうよ、はっきり。どうも三百八十何億ももらって、389億円ももらって、影響緩和だ。避難民と役場から言われているのだから、私ら避難民だから、避難民のためにこれちゃんとこの施設をつくって我々が帰っていくときに、そう影響のないような双葉町にして、それで、どうぞ帰ってくださいということであるために使える金だと私は思うのですけれども、だから、どうなのだよ、町長、はっきりしてくれ、これ。もうここまで来て、いやあ、俺はいいって言ったけれども、あとは地権者任せだというのでは、余りにも俺、責任ないと思うのだけれども、どうだべ。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再質問にお答えいたします。

中間貯蔵施設環境影響緩和交付金につきましては、先ほど来から申し上げているとおり、中間貯蔵施設に対して影響があった場合に対してその対応をするというふうに考えておりますし、また、この交付金の中身につきましては、住民の皆さん、町民全体的な全町民に対する生活支援等、双葉町の復興に資するものだというふうに考えております。

○議長（佐々木清一君） ほかにありませんか。

4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 先ほど質問した後に同僚議員から……言葉の意味でお答えしていただきたいのです。生活再建と地域振興というようなものに対して、ちょっとおかしいところがある。生活再建というのは私は双葉町に帰ってからの生活再建だと思うのですよね。地域振興というのはどこを指しているのか。結局生活再建の意味というのは、実際に言えば、ちゃんとそこで生活していきますよということなのですよ。

それと、町長、先ほどの答弁で、個人及び法人のばらまきというか、そういう以外は全部使えるということで私は認識しましたが、それは間違いないですかというのと、あと、町長、これ私先ほど賛成してあれですけども、これ地権者の方々と話したときに、町長言いわけしていませんかということなのですよ。その人たちには言いましたよね、自分のお口で言いましたよね。皆さんの交渉がうまくいくように早く建設は受け入れしますと。ちゃんと皆さんのあれがしないうちは搬入は受け入れしませんというようなことをやっていますけれども、その場には私もいました。2団体の方々とね。いましたけれども、町長そこまで言うのであれば、搬入を受け入れたというのもその人たちをだましているのです、それもはっきり何で受け入れたのかまでちょっとお聞かせください。答弁はちゃんとしてください。聞いたことにはっきり答えていただきたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の質問にお答えいたします。

この交付金については、生活再建というふうな判断、生活支援ということで、これは帰ってからのということではなくて、帰る以前からの対応も検討をするべき交付金だというふうに考えております。また、この中身につきましては、ふるさとの結びつきを維持するための事業や生活空間の維持・向上のための事業、風評被害の緩和や人材育成、就業支援、公共施設に係る整備・維持補修・維持運営事業、企業導入・産業活性化事業、福祉対策、地域活性化対策など幅広く活用できる交付金となっております。

また、搬入受け入れ判断というご指摘でございましたが、これは従前から申し上げておりますが、昨年9月1日に県が中間貯蔵施設の受け入れの判断をした折に、前知事が9月1日に国に対して搬入の判断するに当たって5つの条件を出しております。その5つの条件というのは、中間貯蔵施設としていわゆる30年以内に県外最終処分場へ搬出するという法律をつくるということ、そして中間貯蔵施設に搬入するための安全の担保、そして施設の安全性を確実にするということと自由度の高い交付金、そして福島県、双葉町、大熊町の3者が入って協議をしておりました安全協定ということでございます。当然、そのときからずっと申し上げておりますが、5項目のうち4項目については県が前面に立って搬入受け入れの対応の話をしているわけですから、これは対応するべきだということを申し上げてきたとおりでございます。一方、安全協定につきましては、県と大熊、双葉両町がかかわっておりますので、このことについては、議会の皆さんとも議員全員協議会の中で説明をさせていただきましたし、その中から修正案ということで提出されたものについて、大熊、双葉両町、そして両議会から

のその修正案について2月24日県知事から説明を受けた結果、修正案の回答がまだその時点で来てご
ざいませんでした。翌2月25日にその修正案の対応が来たとおおむねその安全協定に関する修正の
理解をしたということで判断をさせていただきました。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） では、町長、今の答弁だと、地権者の方々と話したときは、町長うそをつい
たということですね。地権者の方々には、建設の受け入れをすればちゃんと交渉の土台をつくって、
それで搬入に関しては皆さんが納得いくようなあれがない限り絶対にしめせんと、これは昨年12月と
今年1月、そこでやっています。では、それは町長はうそついたと。私は、この交付金についてはい
ただくものだと思っています。いただけるものはいただかなくてはならないというのは、要はそうい
う町民の方に万が一町が訴えられたり何かしたときの基礎がないとね、お金が、払うものがない。そ
ういうところまで、ただいまの執行者としてだらしがないと。

あと、議長、申しわけありませんが、僕は先ほどの質問で、個人、企業以外、法人以外には、最初、
前の答弁のときに全部使えると、使えないものは何ですかっていう話をしたのですよ。そしたら使え
るものを言ったのですけれども、それ以外は使えると答弁したのに、まだ先ほど答弁したのとこれ答
弁変わってくるのですよね。それ以外は使えますかと、使えるのですよねということを行ったのです
よね。個人、要はばらまきみたいなのは使いますという答弁だったと思うのですよ。それを僕、
確認の意味で聞いているのですけれども、答弁ちゃんとしていないのですよね。私はそれ以外は使え
るって先ほど認識したのに、今度は何か使えるものをべらべら、べらべらと出してきましたよね。出
してきたのですけれども、これちゃんと答弁させてください。

それと、今までの議会と相談したとか何とかと、搬入に対しての話は一切していません。わけのわ
からないお話を、べらべら並べて、議会まで納得したというような方向性のものを言われたくな
いので、そこら辺は答弁の取り消し等含めてお願いします。私は、搬入受け入れに対して話しまし
た。お願いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再質問にお答えいたします。

搬入判断につきましては、先ほど答弁で申し上げたとおりでございます。

また、法人や団体に関してのお話でございますが、先ほどの答弁でも、個人や法人に対する迷惑料
など現金給付は、国の交付金制度上できないこととなっておりますので、ご理解願いますというふう
に答弁させていただいております。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 言葉の意味のわからないような質問ではないと思います。もう一度聞きます。

現金給付以外は全部使えるのかどうか。個人と法人以外、団体ではないです。これで4回目ですか
らね、先ほどと合わせて。使えるか使えないかだけでいいのです、余計な言葉は要りません。

あと、先ほどからと言っていますけれども、搬入に対しては、あなたご自身で、町長ご自身で決断してやったことなので、それに対して聞いても答えられないというのでは、まずお答えになっていないのですよ。だから、地権者もみんなだましたということですよ、今。質問と答えが全然違います。搬入です。私が聞いたのはそういうことです。何も安全協定等の話は聞いていません。安全協定をあれすれば議会は搬入もオーケーですよなんてことは全然全協でも何でも言っていませんので、町長、これは自分で判断したのだったら判断したとはっきり言えばいいではないですか。町民をだましているのですよ、12月と1月に。その団体の代表の方を。だから、そういう答弁はやめてください。全然関係ないですから。搬入の判断はどうしてなされたのですかって聞いているのです。何も安全協定とかそういう話を私は一回も聞いていませんよ、今。流れも何も。建設の話もしましたよね、私ね。町長は地権者の団体の方々とそういうお話をしましたよねって。では、もう9月から始まっている話だったら、地権者の方々とか町民をだましたということですよということを言っている。だから、何で搬入までオーケーを出したのですかという話です。再度お聞きします。この2つについて。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再々質問にお答えいたします。

先ほどから搬入判断に関しての私としての考えをお話をさせていただいたとおりでございます。そして、先ほど来から言っている言葉に議員の質問に対してお答えしているつもりでございますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（佐々木清一君） そのほかありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第14款県支出金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第16款寄附金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第17款繰入金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第19款諸収入。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 歳出に入ります。

第1款議会費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第2款総務費。

6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 目の5と6、質問したいと思います。

まず、目5財産管理費で、18備品購入、これ1,000万円公用車買う、多分これ町長車と聞いたような気がするのですけれども、またここで減額。それと、6企画費で復興委員会の報償減額、旅費減額、委託料減額。もう一つつけ加えると、使用料、高速道路使用料、これただになるのわかっていてこういう予算措置をして、はい、減額ですと言っているような気がしてなりません。ここのところ教えてください。

○議長（佐々木清一君） 谷津田議員さん、備品購入費1,000万円と言ったけれども、これ100万円のあれで。

○6番（谷津田光治君） ああ、101万9,000……

○議長（佐々木清一君） 質問、では、そこ変えますね。谷津田議員。

○6番（谷津田光治君） 18は取り下げます。8、9、13、14でお願いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の質問にお答えいたします。

目6企画費、そして8番の報償費については、復興推進課長から説明させます。

14番使用料及び賃借料の高速道路使用料については、総務課長から説明させます。

○議長（佐々木清一君） 駒田復興推進課長。

○復興推進課長（駒田義志君） では、ただいまの谷津田議員のご質問に対してご説明を申し上げます。

今回、補正予算におきまして8報償費として復興委員会委員報償、また旅費の普通旅費について減額をさせていただいておりますのは、復興推進委員会の開催実績に応じまして事務事業が確定いたしましたことから、その執行残の部分につきまして減額をさせていただいたものでございます。

また、13節委託料につきましては、双葉町大規模太陽光発電活用推進計画策定業務料を減額してございます。こちらにつきましては、昨年3月定例会の審議の際に、大規模太陽光発電のみを進めることにつきまして慎重な検討を求めらるご意見をいただいていたところでございます。また、復興推進委員会の審議の中でも、大規模太陽光だけではなくて、再生可能エネルギー全般についても、それを活用した植物工場等含めて幅広い検討を行うべきというご意見もいただきました。こういった点を踏まえまして、この執行には慎重に対応すべきと考えまして、平成26年度予算の執行を見送ることとしたものでございます。

以上でございます。

○議長（佐々木清一君） 舶来総務課長。

○総務課長（舶来丈夫君） 谷津田議員の質問に対して、6企画費の使用料及び賃借料の高速道路使用料についてご説明させていただきます。

これは、当初各委員の高速道路無料化になるという前に予算化をしております、実際その無料になって実際使わなかった分、その部分を減額しております。

以上です。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） わかっているのですよ、使わなかったのは。もう3月の予算のときに、来年度はまた引き続き高速道路はただになるとわかっていたにもかかわらず、そのまま予算案として出された。だったら、もう9月、3月まで持ち越さないで9月の辺でもうこれ補正やってもいいわけ。それで、今の復興推進課の答弁がありました。こんなの自分で積算して予算要求しておいて、387万6,000円当初で要求しておきながら240万円余すということは、これは予算の取り方がまず当初からなっていないのだ、これ。380の頭で240残すなんて、これ仕事やっていない。旅費だって958万8,000円と予算取っておいて680万円残す。これ全く予算の取り方おかしいではないですか。どんな町長査定したのかわかりませんが、仕事やらせていないのだよ、これ町長。これ委託料だって、去年の3月議会で誰が使う電気だって聞いたのにもかかわらず、これ無理にこの予算を通させた。事業計画を立てて予算をつけて我々に認めさせておきながら、こんな全額減額補正なんて、これは仕事やっていないということです。これはしっかり監査委員にも監査してもらわなければ困りますけれども。だったら、こんな予算要求しないで、早々と補正かければいいだろう。これどうですか、町長。これはあなたが査定した、調整した予算です。少なくとも1割残ったなんていうのだったらまだかわいいけれども、余りにも残し過ぎではないですか。

○議長（佐々木清一君） 答弁もらうの。

○6番（谷津田光治君） 当然、質問した。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再質問にお答えいたします。

この13番委託料の4,000万円の減額補正ということでございますが、当初計画していたものではありませんが、委員会の中でいろいろご議論をいただき、検討し直したらいいのではないかとというふうなご指摘もございまして、そういうふうな判断に至ったというふうに考えておりますが、詳しくは復興推進課長から説明させます。

○議長（佐々木清一君） 駒田復興推進課長。

○復興推進課長（駒田義誌君） ただいまの谷津田議員の再質問にご説明を申し上げます。

まず、先ほどご指摘いただきましたように、報償費、旅費等につきましては、予算の編成段階におきまして必要な所要額を計上させていただいたところでございますが、その後、この1年間の委員会の審議をしていく過程の中で不用が発生したということでございますので、ご理解賜れればと思います。

また、委託料につきましては、先ほどご説明申し上げましたように、この内容につきましてご意見がございましたので、その辺等を慎重に検討した結果として、今年度の執行を見送らせていただくこととしたというものでございます。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 課長、理解できないから質問しているのだよ。理解できないので質問しているのに、ご理解くださいという答弁やったって、説明やったって、何もわからないではないか。おかしくない。これ、だから、予算案のときに、去年の3月議会に言ったでしょうと。こんなのどこに使うのだって、こんなのつくって。もう復興が始まった、だったらば、東北電力から電気買わなくても、では、太陽光で発電して使ったらどうだということにもなるかもしれないけれども、今、何にもこれつくったって、ただ売電。売電するにはそれなりの手続があるわけだから、町で事業やるには。だから、そういうことも指摘したにもかかわらず、この予算をここまで引っ張ってこの議会で減額補正なのですよ。だから、理解できないので聞いているのですよ、駒田課長。旅費だって、なぜこれほど要求しなければならなかったのかですよ。委員会だって、ちゃんとやりますって言った回数やっていないのだ、これ。だったら、これやらなかったらやらない、早々ともう減額補正すればいいのだよ。これはご理解くださいって、理解できないから質問しているのだし、私の判断だと、仕事はしていないという判断なのだ、金使っていないということは。また、少なくとも今度の27年度の予算でこういうような予算要求はしていないでしょうね。そこ、ひとつ答えてください、町長。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再々質問にお答えいたします。

この執行残につきましては、十分復興推進委員会の中で検討、ご議論をいただいて、その後、これはそぐわないのではないかとというふうな意見であったというふうに理解しております。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 売電関係の企画費6番の委託費、まあ4,000万円も取って、ちゃんと謝ればいいではないですか。結局復興推進委員会に最初からこれをやらせるために去年の予算案を取ったのですよということではないですか。委員会の話ではないでしょう、自分たちでそういうふうに仕向けているのでしょうか。だったら、もうとりあえずこれ、執行者として、町長は頭下げられないのですものね。これ頭下げてくれれば何らもうあれではないですか、こういうのがありましたのでということではないのかなと思いますけれども、町長、これどうなのですか。とりあえずちゃんと説明してください。今までの説明は説明になっていません。お願いします。頭下げるのなら下げて、ちゃんときちっとしたほうがいいのではないですか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の質問にお答えいたします。

この減額補正につきましては、当初できるものというふうな考えで上程をさせていただいておりましたが、議論の結果、非常に難しいという判断に至ったと。そういったことでの見込みの甘さについては、私の見込みが甘かったというふうに反省をしております。

○議長（佐々木清一君） そのほかありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第3款民生費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第4款衛生費。

6番、谷津田光治君。

○6番(谷津田光治君) 衛生費の検査委託料1,190万円減額補正、尿による内部被曝検査業務委託。これ町長、避難をさせておいた……16ページだよ、避難をさせておいて、これ安全な場所に避難させているので、内部被曝は私はそれほどないと、内部被曝はしないというような前提に立って、何ゆえにこれ尿による内部被曝って、いつまでこんな無駄な金使っているのですか、これ。無駄ですよ、これ。いや、ホールボディーでやるのだったらホールボディーでいい、尿でなければ。いつまでこれ、だから、やらないから減額したと言えればそれまでなのですけれども、それは去年のこの3月議会でこれを2,190万円予算要求しているわけです。新年度はないと思うのですけれども、いつまでこれ、もうこれで終わりなのですか。

○議長(佐々木清一君) 町長、伊澤史朗君。

○町長(伊澤史朗君) 谷津田議員の質問にお答えいたします。

このことにつきましては、健康福祉課長に説明をさせます。

○議長(佐々木清一君) 大住健康福祉課長。

○健康福祉課長(大住宗重君) ただいま谷津田議員の質問にご説明を申し上げます。

尿による内部被曝検査業務委託でございますが、今後も継続するのかということでもありますけれども、現在、尿による内部被曝につきましては、細かい被曝状況のデータということで震災直後から継続しておりまして、継続的に検査を受けることによって住民の方が安心を買うということで実施してまいりました。次年度についても継続の検査ということでお願いをしたいと思いますので、そのような方向でよろしく願いいたします。

○議長(佐々木清一君) 6番、谷津田光治君。

○6番(谷津田光治君) まさかこれ、2,190万円を予算要求しておいて、1,190万円しか使いませんでしたなんていうような予算ではないのでしょうか。もう県外に行った人たち、県外に避難した人たちは、県内に戻れ、県内に戻れと言って、県内は安全なところ、安心して避難生活できるということになったということで、私は県知事が戻れ戻れと言っていたような気がするのです。にもかかわらず4年たっても、5年目に入ってもまたこういうことをやらせるというのは、もうこれは継続的に検査していたほうが安全安心していられますという町民の方がいることはわかっているのですけれども、「おめえら、まだこんな尿で検査やってんのかい」って言われたときに、いつまでこれやったらいいのだべって。「いやあ、ホールボディーカウンターで大丈夫でねえか」と言う人もいるし。今課長が説明したように、尿のほうが細部まで検査できるって言うのかもしれないけれども、実際これ

は内部被曝っておりますか、今、原発作業以外で。我々避難している町民で。これでどのぐらい、では、あるという根拠を示してくれば、また、では、来年も続けたほうがいいでしょうということにはなるかもしれませんが、これ風評被害と同じで「いつまでおめえら、ホールボディーやればいいのに尿の検査までしてんだ」と言われたときに、ちょっと県内はもう安心していただけるのだと思っている人がいたとしても、なかなか県内に戻りたくないというようなことにもなりかねないし。その辺をきちっと説明なり答弁してください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再質問にお答えいたします。

この安全性についての健康管理の問題になりますが、県内で放射線の線量のレベルと申しますか、各地区によって一定ではないということで、そういったことで双葉の町民の皆さんも県内59市町村のうちかなりの市町村に避難をしている状況でございます。

それ以外でも放射線の線量の場所によっては高いところもまだあるというふうになっておりますので、そういったところの部分で住まわれている町民の皆さんの健康管理に対しての対応の一つだというふうに考えておりますので、ご理解いただきたいと思っております。詳しくは健康福祉課長に説明させます。

○議長（佐々木清一君） 大住健康福祉課長。

○健康福祉課長（大住宗重君） 谷津田議員の再質問にご説明申し上げます。

ただいま、まだこの継続するののかということですが、町長の答弁の中にもありましたとおり、まだ健康に対して不安を抱えている方がおります。そういったことで、町としても、そういったことに応えられるよう、対応しているところでございます。ただ、谷津田議員からご指摘のこともありますので、その辺も十分踏まえて、今後予算の計上の方法について検討させていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 今、町長の答弁で、
だから、危ないところはどこなのですか、逆に。この尿検査を必要とするような場所というのは、
いろいろなところに双葉町民の方が住んでいるので、それをはっきりちょっと教えていただけますか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の質問にお答えいたします。

そういったことで、先ほどそういうふうな発言をしました。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 町長、私の質問と答えが違いますって何回も言っているのですけれども、ほかに線量の高い場所はどこですかと。私も議員である以上、そういう場所の方にうちは大丈夫ですかっていうようなことを聞かれたときにお答えしなくてはならないと思います。町長、自分の答弁で言ったのですから、それ以外の、例えば放射線の高い場所等ちゃんとはっきり答えてください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再質問にお答えいたします。

放射線の線量につきましては、各自治体で測定をしてそのマップに落としてございますので、それをごらんいただきたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） ここは議場です。根拠のないことを言わないでいただきたいと思います。マップをそれぞれではなくて、それを答えられるから答弁していらっしゃると思いますので、再度もう一度伺います。_____では、あと大丈夫な場所はどこですかとお聞きします、逆に。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再々質問にお答えいたします。

通常1ミリシーベルトというふうな判断が基準になっておりまして、空間放射線量の0.23マイクロシーベルト以下というふうな判断になると思います。

（「議長、場所を聞いてんですよ」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 町長に申し上げます。答弁の中で特定の地域をやっぱり答弁の中に入れていくというのは不適切だというふうに議長として判断しますが、できれば地域の名前を出したことに對しては、これは町長、議長として取り下げるべきと思いますが、町長の判断をお聞かせください。

休議します。

休憩 午前11時46分

再開 午前11時46分

○議長（佐々木清一君） 会議に戻します。

◎発言の取り消し

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 特定の名称を申し上げたことに對しては、議長の申されたとおり、取り下げさせていただきたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 今町長から特定の地域を答弁の中に入れてしまったということに對して取り下げの申し入れがありましたので、これを許可することにします。異議ありませんか。

(「異議なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) では、許可します。

○議長(佐々木清一君) そのほかありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第5款労働費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第6款農林水産業費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第7款商工費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第8款土木費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第9款消防費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第10款教育費。

6番、谷津田光治君。

○6番(谷津田光治君) 社会教育総務費、23ページなのですが、負担金補助及び交付金、双葉町青少年育成町民会議補助金、減額補正になっておりますが、これはどういう理由なのかをお聞かせください。

○議長(佐々木清一君) 町長、伊澤史朗君。

○町長(伊澤史朗君) 谷津田議員のご質問にお答えいたします。

教育総務課のほうに説明させます。

○議長(佐々木清一君) 半谷教育長。

○教育長(半谷 淳君) ただいまの谷津田議員の質問に対しては、教育総務課長今泉より答弁させていただきます。

○議長(佐々木清一君) 今泉教育総務課長。

○教育総務課長(今泉祐一君) ただいまの谷津田議員のご質問に対しましてご説明申し上げます。

双葉町青少年育成町民会議補助金でございますが、これは昨年8月2日に「集まれ!ふたばっ子2014」ということで実施いたしました。町民会議のほうに当初対象児童生徒数が769名というふうに見込んでおまして、700万円の補助金を出しておりましたが、実績によりまして参加者が161名ということで、実績による補助金の減額でございます。

○議長(佐々木清一君) 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） まあ、そういう内容かなとは思っていたのですが、27年だと当初でもうなくなってくるのですよ。この双葉町青少年町民育成会議というのは、以前は子ども育成会から始まって長い歴史があるわけですよ。これ、別事業に振りかえるということでこういうことになったのかとは思っただけけれども、やっぱりこの事業、かなり古いのですよ。だから、今ここでこの事業がなくなってしまうというのはちょっと残念だなという気持ちと、別事業に振りかえても、では、これ700万円予算取って220万円残すような事業しかやっぱりできないでしょうか。もっとも今、子供たちもばらばらで避難しているから、できないといえばできないのかもしれませんが、学校教育だって今緒に就いたばかり、再開して1年ちょっと。ですから、これどうなのですか、これはもう減額でこのまま事業はなくなるのですか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再質問にお答えいたします。

教育総務課のほうに説明させます。

○議長（佐々木清一君） 半谷教育長。

○教育長（半谷 淳君） ただいまの谷津田議員の質問に関しましては、課長の今泉より説明させます。

○議長（佐々木清一君） 今泉教育総務課長。

○教育総務課長（今泉祐一君） 谷津田議員の再質問にご説明いたします。

平成26年度につきましては、先ほど申し上げたとおり、事務事業の確定ということで減額をさせていただきますが、青少年育成町民会議につきましては、存続といたしますか、継続していきたいというふうを考えております。

○議長（佐々木清一君） そのほかありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第13款諸支出金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第14款予備費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 先ほどの議案でも申し上げました。町長に幾ら質問しても答弁は返ってき

ません。条例反対してこの予算案、この項目がある限り、やっぱり賛成はできません。

○議長（佐々木清一君） 賛成討論はありますか。

7番、岩本久人君。

○7番（岩本久人君） この補正予算は、中間貯蔵施設の負担軽減のための交付金、そして基金などが計上されておりまして、町の復旧復興には必要不可欠と思ひまして、この補正予算に賛成いたします。

○議長（佐々木清一君） そのほかありますか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第33号 平成26年度双葉町一般会計補正予算（第7号）を原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立多数）

○議長（佐々木清一君） 起立多数です。

よって、議案第33号は原案のとおり可決されました。

◎議案第34号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第32、議案第34号 平成26年度双葉町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は説明書により歳入から行います。

第1款国民健康保険税。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第2款使用料及び手数料。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第3款国庫支出金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第4款県支出金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第9款繰入金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 歳出に入ります。

第1款総務費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第2款保険給付費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第4款前期高齢者納付金等。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第6款介護納付金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第7款共同事業拠出金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第8款保険事業費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第34号 平成26年度双葉町国民健康保険特別会計補正予算(第3号)を原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第34号は原案のとおり可決されました。

◎議案第35号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第33、議案第35号 平成26年度双葉町公共下水道事業特別会計補正予算(第3号)を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は説明書により歳入から行います。

第3款繰入金。

(「なし」と言う人あり)

○議長（佐々木清一君） 歳出に入ります。

第1款公共下水道事業費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第35号 平成26年度双葉町公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）を原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第35号は原案のとおり可決されました。

◎議案第36号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第34、議案第36号 平成26年度双葉町介護保険特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は説明書により歳入から行います。

第3款国庫支出金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第4款支払基金交付金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第5款県支出金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第8款繰入金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 歳出に入ります。

第1款総務費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第2款保険給付費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第36号 平成26年度双葉町介護保険特別会計補正予算(第3号)を原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第36号は原案のとおり可決されました。

◎散会の宣告

○議長(佐々木清一君) 以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

ご苦労さまでした。

(午前11時59分)

3 月 定 例 町 議 会

(第 4 号)

平成27年第1回双葉町議会定例会議事日程（第4号）

平成27年3月17日（火曜日）午前9時開議

開 議

- 日程第1 議案第37号 平成27年度双葉町一般会計予算
- 日程第2 議案第38号 平成27年度双葉町国民健康保険特別会計予算
- 日程第3 議案第39号 平成27年度双葉町公有林整備事業特別会計予算
- 日程第4 議案第40号 平成27年度双葉町公共下水道事業特別会計予算
- 日程第5 議案第41号 平成27年度双葉町工業団地造成事業特別会計予算
- 日程第6 議案第42号 平成27年度双葉町介護保険特別会計予算
- 日程第7 議案第43号 平成27年度双葉町後期高齢者医療特別会計予算
- 日程第8 議案第44号 双葉町行政手続条例の一部改正について
- 日程第9 発議第1号 双葉町議会委員会条例の一部改正について
- 日程第10 議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の件
- 日程第11 議員派遣の件

○出席議員（8名）

1番	羽山君子君	2番	白岩寿夫君
3番	高萩文孝君	4番	菅野博紀君
5番	清川泰弘君	6番	谷津田光治君
7番	岩本久人君	8番	佐々木清一君

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町長	伊澤史朗君
副町長	半澤浩司君
教育長	半谷淳君
総括参事	武内裕美君
秘書広報課長	平岩邦弘君
総務課長	舶来丈夫君
参事兼 復興推進課長	駒田義誌君
税務課長	山本一弥君
産業建設課長兼 農業委員会 事務局局長兼 コミュニティ センター所長	猪狩浩君
住民生活課長	松本信英君
参事兼 健康福祉課長兼 青年婦人会館長	大住宗重君
生活支援課長兼 埼玉支所長	志賀睦君
教育総務課長	今泉祐一君
会計管理者	半谷安子君
代表監査委員	五十嵐一雄君

○職務のため議場に出席した者の職氏名

事務局長	山下正夫
書記	大浦寿子

◎開議の宣告

○議長（佐々木清一君） おはようございます。ただいまの出席議員は8名です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

（午前 9時00分）

◎議事日程の報告

○議長（佐々木清一君） 本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりです。

◎発言の訂正

○議長（佐々木清一君） 審議に入る前に、4番、菅野博紀君より、3月10日の一般質問において数字の間違いがあったということで、訂正の申し入れがありましたので、許可することにします。

4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 私の一般質問の中で、中間貯蔵交付金の389億円を386億円という話をしていました。389億円に訂正をさせていただきます。申しわけありませんでした。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君よりそういった申し入れがありましたので、議長のほうで許可したいと思います。

◎議案第37号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第1、議案第37号 平成27年度双葉町一般会計予算を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は予算説明書で、款ごとに行います。

歳入から行います。5ページです。

第1款町税。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第2款地方譲与税。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第3款利子割交付金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第4款配当割交付金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第5款株式等譲渡所得割交付金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第6款地方消費税交付金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第7款自動車取得税交付金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第8款地方特例交付金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第9款地方交付税。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第10款交通安全対策特別交付金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第11款分担金及び負担金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第12款使用料及び手数料。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第13款国庫支出金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第14款県支出金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第15款財産収入。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第16款寄附金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第17款繰入金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第18款繰越金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第19款諸収入。

6番、谷津田光治君。

○6番(谷津田光治君) ちょっと、確認しておきたいと思います。

一般質問でも町としての賠償請求の質問をしましたがけれども、町長、これ弁護士と相談してとか対応するというような答弁があったと思っているのですけれども、あればこの辺にちょっと、やる気があるのであれば、19款あたりに存目計上ということになると思うのですけれども、答弁では弁護士と相談するとか対応するとか言っていますけれども、やる気があって、27年度の予算の中で、補正でも何でもいいのですけれども、当初にはありませんから、そういう気があるのかどうかを確認したいと思

います。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の質問にお答えいたします。

やる気は持っていると思っています。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） やる気があって、では、予算にはいずれ上げてくるというような理解をしてよろしいですか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再質問にお答えいたします。

そういう考えでおります。

○議長（佐々木清一君） ほかにありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第20款町債。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 21ページ、歳出に入ります。

第1款議会費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第2款総務費。

7番、岩本久人君。

○7番（岩本久人君） 31ページ、目の原子力対策費、15番の工事請負費、原子力広報塔撤去工事410万円でありますけれども、町内2カ所、駅と役場の玄関口に設置されているわけですが、老朽化に伴う撤去ということですが、修繕をするというお考えはないのかどうか、お伺いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 岩本議員の質問にお答えいたします。

工事請負費の原子力広報塔撤去工事ということで、これは議会の皆様にも事前に説明をさせていただきましたが、この広報塔の劣化、経年劣化によるパネルの落下等が考えられると。そういったことで、帰宅をされる住民の皆さん、町民の皆さんに危害があつては大変なことになってしまうというふうな判断から、撤去ということでございます。

○議長（佐々木清一君） 7番、岩本久人君。

○7番（岩本久人君） 確かに老朽化に伴って危険性がある、撤去ということは理解はできます。しかし、あの看板標語にはいろいろな思いもある方がいます。起きてはならない原発事故が起きてしまいました。我々は、過去から学ぶものと、そして未来に伝えていかななくてはいけないものがあるのではないかなというふうに思っております。あの看板は、先人たちが原子力、原発と、原子力行政と共

存共栄を図って双葉町はこれまでやってきたわけです。まさしくあの看板は町の象徴であり、原発推進をしてきた我々の象徴であり、シンボルだと私は思っています。その当時、公募によりあの標語を選んだわけですが、その当時の小学生の気持ちを考えると、非常にいろいろな思いでやはり今思っているかと思うのです。その当選された方だけではなくて、それぞれ原発に対する希望やまた夢を持ってあの標語は考えられたのではないかというふうに思います。町としては、やはり簡単に撤去ということではなくて、やっぱりもっと丁寧に、その公募で当選された方、そして町民の皆さんにやはり伝えるべきではなかったのかなというふうに思います。今ホームページ、タブレット等なども町民に配布されているわけですから、いろいろホームページの中では町長のメッセージというところもあります。その中で、やはり伝えるべきは伝える。そして、我々、原発事故は起こってしまいましたけれども、国の責任、東電の責任、一向に東電も国も責任をとろうとしておりませんが、我々これまで推進してきた中で、我々の責任と義務というのがやっぱりあると思うのです。決して原発事故は風化させてはいけません。我々みずからあの看板を撤去するという事は、やはり何か我々が原発事故から逃げているのではないかなというふうな事さえ感じられます。この風化をさせない、原発事故に対して、やっぱり後世に残しておくというのも我々の本当に役割ではないかなというふうに思っておりますが、いずれ撤去するにしても、また保存するにしても、もっと町民の皆さんに丁寧な説明で考えていただきたいと思うのですが、町長、いかがでしょう。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 岩本議員の再質問にお答えいたします。

議員のおっしゃるとおりでありますし、その撤去そのものの問題だけではなくて、その撤去したものを処分してしまうというふうなことではございません。保管も含めて、まずそれまでの期間の間、議会の皆さんにどういうふうにしたらいいかというふうなことも含めてご相談をさせていただきたい、そういうふうに思っております。

○議長（佐々木清一君） 7番、岩本久人君。

○7番（岩本久人君） 町長の答弁はわかりました。いずれにしても、これから我々は復旧復興をしていかなければなりません。撤去はいつでもできると思うのですね。本当に我々、復興、そして双葉町に帰れるときでも遅くはないのではないかなと、私は思っております。そして、復興してからまた撤去をするというような、新たな双葉町をつくっていくという意味で、その看板というものも考えたほうがいいのかと思っておりますが、いずれにしても、その看板を撤去して保存するなり、これからよく町民と、また標語を考えた方にもいろいろとご理解をいただきながら、進めていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 私も広報塔撤去の件で、今町長の答弁で議会と相談してという話がありまし

たが、町長は執行者として全然議会には相談しないので、そういうことは言わないでください。

あと、もう一つは、議会と相談しているという話の中で、先週の勉強会の中で、この件に関しては時間をとって話をした経緯があります。その中で、結局残してほしいという人がいるのであれば、私たちから要望も出ています、出しています。今本当に倉庫とかそういうのではなくて、体育館とかそういうところに保管して置けるように、風化しないようにできないかとか、そういうことも、検討内容はもう執行部に投げかけてあるのですよね。それを執行者が全然わからなかったというのではおかしいと思うのです。ましてや、きのうも撤去しないでくれというあれ来たではないですか。その方に対して何の説明もしていないでしょう。逆に言えば、撤去しないでなるべくそういう方向にしますよとか、相手に安心を与えるようなことはしなくてはならないと思うのですよ。これ撤去、本当にするのかしないのか。保存の方向で考えているのかどうなのかをお聞かせください。話し合いというのは、町長うそつくので、ちゃんとこの場で返事をください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の質問にお答えいたします。

保管というふうな方向は、当然検討しなくてはならないというふうに思っております。

○議長（佐々木清一君） ほかにありませんか。

6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） まず、24ページの委託料の、行政不服審査関連3法案というのはどういうものなのか、教えてください。

それから、28ページの委託料、公会計に係る固定資産台帳、こういうものが今なぜ急に出てくるのか。

それから、財産管理の公用車リースと、公用車の件。

企画費、8、9、30ページ、報償費、復興町民委員会ってどんなものなのか。

あと、旅費、26年度はいっぱいって減額補正しておきながら、また性懲りもなくこういう金額を計上してくるという、その考え方について教えてください。

委託料、復興事業計画策定業務委託料、去年もこれ事業費としてとって、いつまで、これどういうものでこれだけの予算をとらなければならないのか。

次の再生可能エネルギー活用・推進計画策定業務委託料、これについても教えていただきたいと思えます。

次の町内復興拠点基本構想業務委託、今の帰還準備区域の3行政区、そのままの状態復興拠点としてこういう、どういうものを町長が要求してこういう基本構想業務委託をかけるのかどうか。

それから、31ページの交通安全対策費、これ、町長はもう放射性物質で汚れた除染土壌を運び込むという意思表示をしながら、これ何ら対策はとっていないというように考えられるのですよ。予算はないのです。町長はもう黒い袋を運び込むということを許可しているわけですから。11からやるとか

13からやるとか25からやるとか言っていますけれども、それについて何らこれ予算措置とっていないのですよ。これ地域安全条例まで町はつくっておきながら、何ら対応していないというのはどういうことなのか、これ町長の考えを聞きたい。

とりあえず総務のほう、これだけです。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の質問にお答えいたします。

総務課長、そして復興推進課長に説明をさせます。

○議長（佐々木清一君） 舶来総務課長。

○総務課長（舶来丈夫君） 谷津田議員の質問に対しましてご説明申し上げたいと思います。

まず、説明書24ページにあります行政不服審査関連3法整備支援業務委託料でございますが、こちらは平成20年6月に行政不服審査法、行政不服審査法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律、行政手続法の一部を改正する法律、この3つが公布されまして、2年以内に施行ということで、こちらのほうの町予算にとっています委託料につきましては、その法律の改正等に伴いまして、町の条例等も整備がありますので、その町の条例の改正する部分の洗い出しの委託料ということで計上させていただきました。

あと、28ページになりますが、こちらのほうに地方公会計に係る固定資産税台帳等ですけれども、こちらは新たに国の指導によりまして公会計を整備しなさいということで、28年度の決算からその公会計制度のほうを財務省共同の作成をするということで、27年度中に固定資産税台帳の整備とか財産管理システム、こちらのほうの整備を図りまして、28年度の決算に反映させていくということで計上しております。

あと、29ページになりますが、財産管理費のまず公用車リース料ですけれども、こちらは今現在使っています議会車両のほうと、あとはもう1台、ワゴン車でハイエースありますけれども、こちらの2台のリース料ということで予算を計上させていただいております。

総務課関係のほうは、以上で終わらせていただきたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 駒田復興推進課長。

○復興推進課長（駒田義誌君） 谷津田議員のご質問に対してご説明申し上げます。

私のほうからは、企画費についてご質問いただきました報償費、旅費、委託料の中身につきましてご説明を申し上げます。

報償費につきましては、双葉町復興町民委員会報償ということで計上してございます。復興町民委員会とはどういうものかというおただしでございますけれども、こちらにつきましては、町民が主体となった具体的な取り組みを議論する場といたしまして、これまでの復興推進委員会にかえまして、テーマごとに部会を設けて具体的な議論ができる場ということで、新たに設置をさせていただくものでございます。

また、旅費につきましては、普通旅費として884万8,000円を計上してございますが、こちらの多くの旅費は、先ほど申し上げました復興町民委員会の委員の委員会に出席するために必要な旅費ということで計上してございまして、こちらにつきましては、一応委員の方々全員がこちらに来られるということを念頭に置いて、所要の額を計上させていただいているものでございます。

また、委託料の中身についてご説明を申し上げます。双葉町復興事業計画策定業務委託料につきましては、これは先ほど申し上げました復興町民委員会の各部会の意見を体系的に整理いたしまして、町として取り組む短期的な事業の計画をつくっていくというものの計画の中身となっております。

また、双葉町再生可能エネルギー活用推進計画策定業務につきましては、こちらは復興産業検討部会、復興推進委員会に設置しておりました部会のご提言というのも踏まえまして、再生可能エネルギーを生かしました植物工場などさまざまなモデル事業につきまして、実行可能な事業スキームを明らかとした計画をつくっていくという内容になってございます。

また、3点目の双葉町内復興拠点基本構想策定業務委託料でございますけれども、こちらにつきましては、双葉町の復興の先駆けとして中野地区に復興産業拠点を検討してございまして、そこを対象といたしまして、施設の配置計画などを内容とする基本構想を策定するものとなっております。

以上でございます。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 交通安全対策費の中で、先ほど議員のご指摘のあったものにつきましては、当然中間貯蔵施設に係るもの等、国として対応するべきものの中身になってございますので、国の対応をするべきというふうに考えております。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 企画のこれ、双葉町復興町民委員会とは、どんなものですか。これ町民会議の委員長ということですが、これはどうするのですか、これ。復興まちづくり長期ビジョンの我々に示した案というのは、これいつまでたってもこれは案ですか。この案をしっかりとしたものにつくるために、こういう町民委員会と何かいうやつをつくるのかどうか。この復興委員会、これをつくるにはちゃんとした要綱まで準備してやりました。これ町民委員会っていうと、要綱か何かつくったのですか、これ。ただ思いつきで帰還準備区域の中浜地区に何をやるって、あのままの状況で何を考えられるのか。業務策定委託料なんかばかりこれ使って、全然実績が伴わなかったら、やる必要ないような気がするのですけれども。帰還準備区域なので、これ復旧復興していけば、当然帰りたいという意思を持っている人は帰るであろうけれども、これ4年たってまだ、これ、ことしいっぱやって5年、これ業務委託料つくって実施までいくのにあと何年かかるのか。余りこれ、町長、実のない業務委託だと思うのですけれども、どうですか、これ。

それから、交通安全、一銭も対応していないで、国がやる仕事だとは、ちょっと虫がよ過ぎるのではないですか、町長。双葉町町内を交通させておいて、国の責任は。やはり自分でやるって決めて許

可を出したのであれば、何らかの手当てというのがあるべきと思うのですけれども。国でやればよいというようなことでは、双葉町地域安全の条例が泣くような気がするのです。もう一度しっかりした答弁をお願いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再質問にお答えいたします。

双葉町復興町民委員会の根拠等々のおただしにつきましては、双葉町復興町民委員会は、町長が町民代表の委員からご意見とご提案を受ける場として、設置要綱に基づいて設置することを考えております。設置要綱につきましては、予算が認められましたら、内容を精査の上、制定することとしております。

また、先ほどご指摘ありました交通安全対策費につきましては、この部分では計上してございませんが、建設費で補修等の計上をさせていただいております。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） ちょっと変ではないのか。何をやろうというのですか。これ道路だったら国でやるという、環境省から通達来ているのだから、国でやらせればいい。道路等の。私は交通って、対人間ですよ、言っているのは。安全だから、交通安全。だから、道路がどうかでなく、交通安全対策の予算がないと言っている。道路直すとかどうかという予算であったら、環境省からこれ運び込むために道路つくるって言っているのだから、これは国でいいですよ。町は予算多分とってないでしょう。後で出てきます。環境省では道路直すって言っているな。だから、道路は環境省で直してもらって、交通対策なのです、私が言っているのは。これいずれ一時帰宅でも何でも、それから通り抜けでも、6号国道はできるわけですから、町内の交通対策費でも計上されていないのは、除染汚泥の搬入が始まろうとしているときにおかしいのではないですか。町長、これ何とか手当てできませんかって言っているのですよ。人です、人。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再々質問にお答えいたします。

副町長のほうから説明させます。

○議長（佐々木清一君） 半澤副町長。

○副町長（半澤浩司君） 谷津田議員からの再々質問にご説明申し上げます。

実は、中間貯蔵施設に係る安全協定に関しまして議会からの要望書をいただいた中で、国のほうでもモニタリング等やるという話はあるが、それだけでは心配ですので、県や国でも同じ機種などを使って町としてもしっかりと環境の放射線量等は確認をするようにという要望等もいただいておりますので、今後の状況を確認しながら、必要に応じてそうしたモニタリングの機械についても補正等で対応させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

（「議長、説明にも答弁にもなってない」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 町長に申し上げます。

先ほど答弁で建設費のほうにと。私のほうから言います。建設費のほうに計上してあるという話をしましたが、この予算書の中に建設費というのは今回ないので、ここを取り消して、もう一度そこを訂正してください。

◎発言の訂正

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 先ほどの答弁の中で、建設費という答弁をしてしまいましたが、土木費に訂正をさせていただきたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 今、町長から訂正がありましたので、議長のほうで許可します。

ちょっと休議します。

休憩 午前 9時34分

再開 午前 9時35分

○議長（佐々木清一君） 会議に戻します。

第2款総務費、そのほかありませんか。

1番、羽山君子君。

○1番（羽山君子君） 30ページです。やっぱり企画費のところなのですけども、双葉町復興事業計画策定業務委託料です、1,600万円。これ、先ほど「短期的」と言いましたけれども、短期的なのはどのように使われるのかということと、あと2番目、エネルギー、ありますね、双葉町再生可能エネルギー、あと復興拠点基本構想というのがありますけれども、やはりまだ除染も終わっていないうちから双葉町エネルギー計画策定委託料というのもいかなものかと思うのですけれども、その辺、お答えお願いいたします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 羽山議員の質問にお答えいたします。

復興推進課長に説明をさせます。

○議長（佐々木清一君） 駒田復興推進課長。

○復興推進課長（駒田義誌君） 羽山議員の質問に対してご説明を申し上げます。

まず1点目、復興事業計画について、「短期的」の意味合いについてのご質問でございますが、こちらにつきましては、まさに喫緊の課題ということで、例えば、かねてご意見いただいております高齢者福祉の問題だったり、町民のコミュニティーづくりといった部分といったところが想定されるかと考えてございます。

また、再生可能エネルギー活用・推進計画、また町内復興拠点基本構想につきまして、除染後でも

遅くないのではないかというおただしでございますが、避難指示解除準備区域につきましては、来年度で除染が終了する見込みでございますので、28年度から具体的な事業を実行に移していくという意味で、来年度、平成27年度にこうした計画を策定して、速やかに事業に移れるようにとする意味で、来年度こういった計画を策定させていただきたいと考えているところでございます。

○議長（佐々木清一君） 1番、羽山君子君。

○1番（羽山君子君） 2個目と3個目に関してですけれども、やはりこれ、30年も帰れないと、今、30年中間貯蔵施設でかかると言っていますよね、30年の中間貯蔵施設。さらに、廃炉の問題、40年、50年とかかりますよね。そうした中で、それもかけてまた、そういう長期間にわたっているのに、そこまでもう進まなくてはいけないのかというのが私の不思議の一つですし、1番の短期的、これは十二分に短期的なことに関して、高齢者福祉って私いつも言っているのですけれども、足もとがきちっとしていなかったらいけないことなので、せめてその辺は本当に短期的に進めてほしいと思っています。

以上です。

○議長（佐々木清一君） 答弁はいいですか。

○1番（羽山君子君） 答弁はいいです。

○議長（佐々木清一君） そのほかありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第3款民生費、46ページ。

6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） また、ちょっと聞きたいと思います。

51ページの目7臨時福祉給付金事業、51ページ、委託料です。この委託料、今26年度にこのシステムの構築をして、何のためにこれ新年度で今度改修しなければならないの。これ教えてください。13の委託料です。

それから、19負担金補助金、これ少なくありませんか。また補正すればいいという考えなのかどうか。これ増額補正しながら、去年の予算よりもずっと少ない。これでは臨時給付金事業なんていったって、臨時なのだからぱっぱと答えられるようにしないと、と思っています。ですから、これをまず教えてください。

それから、災害救助費、53ページ。報償金、これ講師謝礼って、何の講師なのですか。この説明書ではわかりません。

それから、需用費、かなりこれ私からしたらいいかげんな予算のように思うのですけれども。去年の予算と比べても、減額補正しているのに、また性懲りもなく多額のこれ予算計上なのですよ。12の役務費の通信料だって同じ。この辺わかりやすく、私が納得するような説明をお願いします。

56ページ、委託料、原子力……わからなくなるね。この役務費まで答弁をお願いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員のご質問にお答えいたします。

51ページ、13の委託料、19の負担金、補助金及び交付金については、これは健康福祉課長に説明させます。

53ページの8報償費、講師謝礼については、生活支援課長に説明させます。

11の需用費は、総務課長に説明をさせます。

12の役務費は、秘書広報課長に説明をさせます。

○議長（佐々木清一君） 大住健康福祉課長。

○健康福祉課長（大住宗重君） ただいま谷津田議員から質問ありました51ページの委託料、それから負担金の2点についてご説明を申し上げます。

臨時福祉給付金システム改修委託料でございますが、26年度も実施しているのにどうしてかということでございます。この福祉給付金につきましては、昨年4月から消費税が5%から8%に上がったことによりまして、所得の低い方に対しまして給付するということございまして、26年度は1人当たり1万円でございます。それで、27年度については、1人当たり6,000円というふうに金額が下がります。そういった金額が下がる、それから対象者でございますが、町民税の課税されていない方ということでありまして、27年度も同じような扱いになりますが、臨時福祉給付金とあわせて、子育て世帯臨時福祉給付金というのももう一つございます。26年度においては、どちらか一方しか給付を受けることができませんでした。27年度においては、そういった給付金の両方を対象者には給付されるということで、制度的に中身が変わってきておりますので、システム改修の費用を計上させていただきました。

それから、負担金の給付金の額が低いということにつきましては、先ほど申し上げましたとおり、1人1万円から6,000円というふうに国のほうの制度が改正されておりまして、前年度の1人当たり6割という給付になりますので、全体的にも当然金額が下がるということでございます。

以上でございます。

○議長（佐々木清一君） 志賀生活支援課長。

○生活支援課長（志賀 睦君） 谷津田議員さんのご質問にお答えさせていただきますが、8の報償費の講師謝礼でございます。こちらに関しましては、現在、町民交流施設ということで郡山市、加須市に開所しております。平成27年度にはいわき市のほうにも町民交流施設を開所するために、利活用するため、町民の意向を聞きながらものづくりとか、そういうものを含めた講師を依頼して、皆様に交流施設を自由に使っていただきたいということを考えていまして、講師謝礼を今回計上させていただきました。

以上です。

○議長（佐々木清一君） 船来総務課長。

○総務課長（舶来丈夫君） 谷津田議員の質問に対しましてご説明させていただきます。

53ページの災害救助費の需用費関係ですけれども、こちらに関しましては、災害業務、各課に分けてやっております、その各課で出された需用費をまとめたものであります。中身的には、新聞購読料といいますと仮設住宅に係る新聞購読料、また消耗品等につきましては町民交流施設とか、そちらのほうに係る消耗品。また、燃料費については、これはもう応急仮設するときの公用車の燃料代とか、あとは施設の燃料、そちらのほうと、また光熱水費につきましても、もう電気料、ガス代、上下水道等の町民交流施設事業等維持するための経費として、こういったものを各課担当している部署から集めまして、今回このような数字になっておりますが、できるだけ私のほうでも今後とも節約に努めて、予算はこれだけ計上しておりますが、できるだけ少ない執行で抑えていくよう指導しておりますので、ご理解のほどよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○議長（佐々木清一君） 秘書広報課長。

○秘書広報課長（平岩邦弘君） ただいまの谷津田議員からの通信料についてのご質問にご説明申し上げます。

今回の通信料につきましては、秘書広報課のほうで今年度導入いたしましたICTきずな支援システム、タブレットの通信料ということで計上したものであります。現在、これ通信容量ですが、1.7ギガバイトということで契約しておりますけれども、いろいろな配信等を行っております容量がなくなってしまうということで、新年度の予算につきましては、1台当たり4ギガバイトの容量を確保したいと考えております。台数については2,000台で積算をいたしました。よろしくお願ひいたします。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 総務課長、この需用費の消耗品という項目だけ見ても、26年度の当初予算減額補正、実際執行した金額、これを見ても、ちょっといいあんばいふえているのではないですか。もう少ししっかりした、だったらば、これだけの金額を要求して予算計上するのであれば、減額補正なんかなくすればいい。だから、自分たちだけでそれぞれ課の課長が検討して、総務課長査定までやって、町長査定して、ここさ計上してくるわけだから、ただ要りませんっていう予算はないはずなのだよな、普通考えても。だと私は思うのですけれども、どんなものでしょう。そこは予算だからうまくいきませんと言うのであれば、またそれはそれでしょうがないことであって、私が一々目くじら立てたってだめなものだめだと言われるはずですから。だけれども、減額するほど予算にとって、実際執行した額よりも今度新年度の予算が倍にもなったのでは、ちょっととり過ぎではないかと普通は思うような気がするのです。どうですか、町長。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再質問にお答えいたします。

総務課長に説明させます。

○議長（佐々木清一君） 舶来総務課長。

○総務課長（舶来丈夫君） 谷津田議員の再質問に対しましてご説明申し上げます。

災害救助費ですので、確かに予期せぬことが起きるということで、そういうことも踏まえまして各課の意見を聞きまして今回予算計上させていただきましたし、今の谷津田議員がそのようにおっしゃったという、うちのほうで指導いただいたということで、今後はより精査に励んで、適正な予算措置をとるよう努めていきますので、ご理解願いたいと思います。

以上です。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 54ページの委託費の双葉町内仮設トイレ維持管理業務委託、勉強会で十分にお話は聞きました。聞きましたが、あくまでも議会でこの前の勉強会の中で提案させてもらったように、今トイレが結局仮設過ぎてちょっと嫌だっというお話があるので、この議場でちゃんと言っておかななくてはならないなという面で、例えば駅前、あと新山の広町とか、トイレいっぱい双葉町にありますよね。あそこに浄化槽を入れてタンクを据えつけることによって清掃もしやすくなるし、双葉にいろいろなところありますよね、公民館等にもトイレ外から入れるようになっているところがあったり、清掃をすれば一番きれいになるし、においもこもらないと思うのですよ。そういう方向でちょっとこれ、ことしはあれだとしても途中補正でも何でもとってもらって、方向性だけだと思うのですよ。浄化槽を入れてタンクをつくって水が出るようにするだけでいいわけですから、一時的に予算はかかったとしても、後のリース料とか、そういうのはあるものを使うという方向にすれば全く違うのかなと。双葉町にはいろいろトイレはあります。ただ1カ所、残念なことに双葉のグラウンド、高万廻ではなくて総合公園というか、上のね、あそこは中間貯蔵のあれになってしまうのでしょうから使えなくなってしまうと思うのですけれども、そこら辺も執行部のほうで検討してもらって、場所は結構あると思うので、そういう対応も考えていただきたいと思うのですけれども、どうでしょうか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員のご質問にお答えいたします。

検討させていただきたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 民生費、そのほかありませんか。

7番、岩本久人君。

○7番（岩本久人君） 災害救助費の8番報償費

○議長（佐々木清一君） 何ページですか。

○7番（岩本久人君） 53ページです。仮設住宅等自治会長の報償でありますけれども、自治会、それぞれの県内県外の、まあ県外はですね、県内の仮設住宅の自治会長に報酬を出しているわけですが、その自治会長の権限についてちょっとお聞きしたいのですけれども、集会所の件なのです。集会所は、自治会等その仮設に住んでいる方が利用する場所だと思うのですけれども、なかなか自由

に使えないところもあるというふうに聞いておまして、仮設に入ってからもう5年目になるので、ある程度集会所の管理とか使用の権限、また鍵の管理なども自治会長にお任せしたらいいのではないかなというふうに思うわけですが、いかがお考えでしょうか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 岩本議員のご質問にお答えしたいと思います。

各自治会それぞれにいろいろな状況条件が変わってくるということをご理解いただきたいと思えます。細かいことにつきましては、生活支援課長に説明させます。

○議長（佐々木清一君） 志賀生活支援課長。

○生活支援課長（志賀 睦君） 岩本議員の質問にお答えさせていただきます。

自治会によっていろいろ、先ほど今、町長が言われましたけれども、その状況によってその仮設によって全然状況が違うのですが、自治会のほうで管理している場所もあります。ただ、土日に関して、平日に関してはきずな職員等があげたり、鍵を開閉したりしております。ただ、土日に関して、なかなかそのきずな職員がいない部分もあります。今後そういう土日とかそういう利用に関しましては、一応南台も4月からちょっといろいろ考えておりますけれども、鍵をポストとかそういうものを用意しまして、使ってその鍵を返していただくとか、そういうことを今後、郡山支所を含めて検討していきたいと考えております。

○議長（佐々木清一君） 7番、岩本久人君。

○7番（岩本久人君） お答えありがとうございます。

県内仮設、それは平等公平に集会所の使い方はしなくてはいけないというのはわかっております。今ほどの答弁の中にも、土日、やはり町民の方がいろいろな子供たちの集まり等々、それぞれ支援の方がまた土日にかけて伺う等々、やはりどうしても広い集会所を使わなければいけない何かそういうそれぞれ事情もあるようですから、鍵の管理は重要だと思います。きずな職員の方、あと臨時職員の方、当然土日休みなので、その方にもう鍵の管理をさせると当然土日は集会所使えなくなるわけですから、課長がおっしゃるように、何らかのやっぱり理由ある使用のときには、自治会長に鍵をお渡しして、翌日きちっと鍵を返してもらうような、創意工夫して、なるべく集会所を町民の意向に沿った使い勝手のいい使い方をしていただきますよう、よろしくお願いします。

○議長（佐々木清一君） 第3款、そのほかありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第4款衛生費。

6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 58ページの予防費、これきのうも話したのですけれども、また尿による内部被曝、これ去年と同額、減額が半分、また去年の当初と同じ予算計上。半分減額しているのなら半分でいいような気がするのですけれども、どこまでも、福島県内で今どれほど汚染しているのか、町

長に伺いたいと思います。

それから、5の環境対策費、中間貯蔵施設に係る相談窓口、この前からですから幾らもまだ相談者がいないと思うのですけれども、ここにまた288万円の予算計上しました。補正もあったので、補正から始まった事業ですけれども、相談者がいたかどうかをお伺いいたします。

それから、負担金補助金、中間貯蔵施設に関する地権者支援事業給付金、これの給付金の割合というのか、国に協力して、はい、売ります。売ったものにはどのぐらい、また賃貸借の地権者にはどのぐらいの給付金があるのか。当然面積等、売る、貸すでは、まあ同一なのかどうかもわかりませんが、私、勝手に解釈すると、売った人と貸した人は違うのかなというような感じがしていますので、どういう給付をするのか。これをわかりやすく詳しく教えていただきたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員のご質問にお答えいたします。

尿による内部被曝検査についてでございますが、尿による内部被曝検査は、健康面で心配されている方もおられますので、継続的に検査をすることを進めております。予算額につきましては、検査を始めました平成24年度の実績人数をもとに計上しておりますが、皆さんの関心度が下がっておりますので、広報等での周知もしっかり取り組んでまいりたいと思います。なお、受検された方には継続的に検査をしていただきたいとの思いもありまして、同額の計上をさせていただきました。次年度以降については、議員のご指摘いただいたことも十分考慮しながら、予算額の設定を検討したいと考えております。

59ページの委託料、そして19の負担金補助及び交付金につきましては、産業建設課長のほうから説明させます。

○議長（佐々木清一君） 猪狩産業建設課長。

○産業建設課長（猪狩 浩君） 谷津田議員のご質問に対してご説明申し上げます。

13の委託料の弁護士相談窓口の平成26年度の実績についてでございますが、今年度は補正で対応させていただきました。今年度は2月25日、3月11日、3月25日の3回を予定してございまして、そのうち2月25日と3月11日、2月25日がいわき支所、3月11日が郡山支所で開催されまして、おのおの2月25日1人、3月11日1人、合計2名の方がご相談に見えてきております。

あと、19の中間貯蔵施設に関する地権者支援事業給付金の内容でございますが、こちらにつきましては、中間貯蔵施設によります土地の売買契約、地上権設置契約におきまして、土地に関する補償額が原発事故による低減ということで、宅地、農地が50%、山林が30%の低減によりまして、地権者の生活再建に支障が生じないように支援するための見舞金といたしまして支給するものでございます。その目減り分を支給するものでございます。よろしくご理解のほどお願いいたします。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 尿による被曝検査は、町長、わかりましたけれども、福島県内はいかに汚

れているかですよね。まだ継続的にこれやっていかなければならないほど、そういう県内各市町村にお世話になっているということですが、除染を今ごろやっているところもあったり、大分県外に出ていった我々、世間様から国を投げ出してよそに行ったみたいなことまで言われながら、我々避難生活してきたのですけれども、まだこれ、それに比べたら、まだ県内は安心して暮らせるところではないのですよね。まだ内部被曝ですよ。その辺さ行ってちよろちよろとやって、この辺に外部被曝だったら、洗い落とせばいいわけですけども、内部被曝というのは飲み込んだやつですから。だから、まだいかに空間線量があるかということも含めて、放射能物質で汚されている県内なのですよね。ですから、検査するのはわかるのですけれども、とった予算半分は減額補正しているにもかかわらず、前の年の予算とまた同額では多いのではないですかということです。

それから、課長からこの中間貯蔵施設のほう、今説明ありました。私聞いたのは、売る人と貸す人、同じですかということと、面積でも違いはないですかということなのですよ。その差額が出たものを見舞金という話もおもしろい説明だなと思っているのですけれども、地価単価の差額をくれるという、それを補てんするという内容で始まったこの補助金が、いつの間にか見舞金にすりかわっているのだよね。見舞金というのはどういう金で、地価単価の差額の補てんはどういう意味なのか、私よく理解できないのですよ、町長。原発事故によって地価単価が、地価がもうゼロに等しいと言われたその土地を売るから、お前ら大変だからって見舞金くれるということなのだと思うのだけれども、何かこれが私には理解できなくて、それで予算も条例も反対してきました。また、当初予算も賛成できないような状況になるような気がするのです。ここに17億円の予算を上げて、全部これ町長、ことしのうちにやる気なのだよね。何回も言っているように、町長、素直にこうですって言ってくれればいいのだけれども、中間貯蔵施設つくるのならもうつくる手助けを町長すればいいのではないですか。自分がちゃんとやります、いや、運びも建設も同意します、苦渋の選択なんて言わないで、何も別に苦渋ではないはずですから。ですから、ここにこういう予算というのは余り、今言った、もとはちょっと違うような気がする。私は、国策、国に協力して土地を売る人、それから貸す人でも、ちょっと差があるのかなというふうに思っていたのですけれども、わかるように説明してください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再質問にお答えいたします。

先ほどご指摘のありました売った場合と貸した場合の説明について、産業建設課長に説明させます。

○議長（佐々木清一君） 猪狩産業建設課長。

○産業建設課長（猪狩 浩君） 谷津田議員の再質問についてご説明申し上げます。

売った場合と貸した場合、貸した場合といいますと、地上権設定の場合になるとと思いますが、その価格につきましては、売った場合の価格の70%の価格になります。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） わかりました。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） ちょっと今、70%というお話が出ましたけれども、地権者の方々たちは今交渉中ですよ。町も70%で受け入れているということですか。これ町長答えてください。町も70%というのは、固定資産税評価額の5割、5割の中の70%、これが地上権設定のあくまでも環境省の基準ですよ。これを受け入れているのですかということをお聞きしたいです。町長は、地権者の方々に関してはちゃんと交渉してください、何して下さいって、新聞にも載っていましたよ、この前。何と言ったのですか、自分で、新聞のあれに載っていたものは。自分で言ったことくらい覚えていますよね。地権者の方々との交渉でと言って、これパーセンテージが出て数字まで言ったら、町はそれを認めているということになるのですけれども、それ町長お答えください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の質問にお答えいたします。

今、産業建設課長のほうから地上権につきまして70%という話がありましたが、これはあくまでも環境省で提示した額というふうに捉えております。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 双葉町の議会で答弁の中にそこが入ったらどういうことかという意味は、町長、おわかりではないのですか。無責任極まりないですよ、町長。

○議長（佐々木清一君） 菅野議員、冷静に質問してください。

○4番（菅野博紀君） はい。無責任極まりないと思いますよ、町長、執行者として町民を向いているのですか、国のほう向いているのですか。今の答弁はとんでもない答弁だと思いますよ。交渉しなさいということは、地上権の話だって別ですからね。皆さんは賃貸借というものを求めているのですからね。町は国のほうを応援して、地権者の方々のほうは応援しないというように私には聞こえますけれども。もう一回聞きますよ、環境省が示している数字を今この場で言ったら、私はそれと同じように聞こえましたけれども、町長ご自身それでいいと思われませんか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員の再質問にお答えいたします。

先ほど申し上げました、環境省が70%という提示をしたということで、町としてそれを認めたということではございません。

○議長（佐々木清一君） 衛生費、そのほかありませんか。

7番、岩本久人君。

○7番（岩本久人君） 59ページ、環境対策費、先ほど質問したのですけれども、中間貯蔵施設に係る相談窓口業務委託料で、実績としていわき、そして郡山で1名、1名ということであります。今後いわき、郡山で24回ですか、あと埼玉、南相馬、白鷹で12回ほど計画的に相談会を開くということありますけれども、これは町としても地権者の対応、これ国に任せるのではなくて町としてもやはり

何らかの対応をすべきということで、議会のほうからの提案で今回やっているのですけれども、相談窓口の対応はこれ本当に弁護士さんだけの対応なのでしょうか。弁護士さんだけの対応だと、やはり相談できる範囲というのはある程度限られるのかなと。本当に町として地権者と向き合うのであれば、やはり守秘義務とかいろいろあるとは思いますが、町職員もやはりそこに加わっているのかどうか。それで、環境省でも、再生事務所、いわき相談室とか県内でも郡山、福島でも相談室を開いてはいるのですが、なかなか地権者の方敷居が高いというか、なかなか行って相談もできかねるというようなことでこれ行政でやるのですけれども、むしろ、だから、弁護士だけではなくて役場の方、そして環境省の方も1名ぐらい来てもらって、そしていろいろ相談を受けたほうが、いろいろと地権者の方も多岐にわたって説明、いろいろ相談しやすいのではないかなというふうに思うのですが、ちょっと考えが私おかしいのかどうか、その辺も含めてちょっとお伺いしたいのですが。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 岩本議員のご質問にお答えいたします。

今議員のおっしゃったことに対しまして、対応が可能であるかどうか、検討させていただきたいと思えます。

（「休議」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 予算書終わってから休議しますので、もう少し。

衛生費、そのほかありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第5款労働費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第6款農林水産業費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第7款商工費、63ページ。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第8款土木費。

6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 道路維持費、67ページ。先ほども質問しましたけれども、とりあえず13委託料、道路等環境整備業務委託料、これは何のためにどこをやるのか。

それから、使用料及び賃借料、重機借り上げ。これは何に使うの。

それから、工事請負費、町道全般補修工事。町長、先ほども言いましたけれども、町内あの黒い袋積んだ車が行き交うでしょう。これ、だから、さっきも言ったように、環境省からこれ道路補修工事を実施しますという通達があったではないですか。これ何を、国にやってもらったらいかがですか。国が汚泥運ぶのに使うというのだから。使うために道路補修工事を実施しますということですから、

町はわざわざ予算計上してまでやることは私はないと思うのですが、この3点についてお聞きします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員のご質問にお答えいたします。

町道工事請負費の町道全般補修工事についてであります。これは当然環境省として国として使用する道路に関しての補修というのは国が責任を持つべきだと考えておりますが、それ以外の町道補修に関しましては、町で当然するべきだというふうな考えでございます。

13委託料、14の使用料及び賃借料につきましては、産業建設課長から説明させます。

○議長（佐々木清一君） 猪狩産業建設課長。

○産業建設課長（猪狩 浩君） 谷津田議員のご質問に対してご説明申し上げます。

13委託料、町道等環境整備業務委託料につきましては、こちらにつきましては、一時帰宅者等の安全確保のために町道関係の除草作業、こちらのほうが除草剤散布が111.68キロ、機械除草が27.5キロ、これを2回ほど実施予定しております。それと同時に、町道の支障物撤去ということで、主に新山鴻草線、旧道、旧国道を中心といたしまして、道路に倒れています塀とか家屋等なのですが、そちらの所有者の承諾をもらった上で、支障のある部分を撤去したいと考えております。

続きまして、14の使用料及び賃借料の重機借上料なのですが、こちらのほうは道路に対しての土砂崩れとか、そういうときがあった場合に、重機を借り上げて撤去するために計上してございます。

以上でございます。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 町長、町道、どこ通るのだい。あの黒い袋を積んだ車がどこどういうふうに通るのだ。もっとも、この前の答弁では、この前言ったこと、ここに書いてある紙には、町のホームページでは通るところ、会に行かぬえからわからぬえって言っているのだよ。それで、町内はどこ通るのだって。どこをこれ補修するのだい。通るところは国でやるからって、通らないところは補修するのか。だって、これ環境省では、これ準備工事で道路等補修工事を実施しますって通達来ているのだべした。これ我々に配ったのだから。だから、町道全般補修といたら、通ると考えられるところは全部やってもらって、それ以外だったらばどういうところがあるのか。だって、これから除染するところも出てくるのだと思うし、まだまだできないところもあると思うのです。ですから、私は別に金かけねえで、国でやってくれるのならそのほうがいいと思うのだけれども、どうですか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員の再質問にお答えいたします。

当然、国が使用する道路に関しては国が補修をするべきだと思っておりますし、搬入道に関しましては副町長から説明させます。

○議長（佐々木清一君） 半澤副町長。

○副町長（半澤浩司君） 谷津田議員の再質問にご説明申し上げます。

双葉町の搬入のルートに関してであります。輸送として考えておりますのは新山の仮置き場から保管場までのルートというふうになっておりまして、高万廻交差点まで出て、そこから6号線を北上して、牛踏の交差点から双葉町の保管場までの輸送というルートを現在のところ調整しております。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 今、帰還準備区域はやっているという話は聞くのですけれども、実際やっているのですか。そこをどんなふう考えているのかわかりませんが、だから、通るところは別に国でやってもらって、やってくださいと言っているのだから、それ一々やるなんて言わなくていいのだよ。それ以外で600万円使って町道補修するのならば、一時帰宅もやっている人いるわけですから、どんどんやってください。通りやすいように。あっち行ったら通られねえ、こっち行ったら通られねえっていうところもまだあるわけですから。だから、そのように町長が答弁してくれればいいのだよ。副町長わざわざ出番つくらなくて。国が通るところは国にやってもらいます、町は国で使わないところは町がやるしかないのです。最初から言ってくれれば、それで一発で終わり。だから、副町長に言ったよな、この前。町には負担金条例というのがあって、昔、東電の専用道路を東電につくってもらいたいときに、町はそれなりに条例つくって負担金もらって町道整備しました。だから、国が使うのだったら、国は株式会社に委託するのだったら、株式会社が通りやすいように道路補修自分で金出して、町がそういう本当はやればいいはずなのだよな。だけれども、国が直接やるというのだったら、通るところは全部、これから何年先、双葉町内全部除染して、あの汚泥、汚染土壌運ぶのかわかりませんが、ずっと、まずやってもらってください、終わるまで。お願いします。

○議長（佐々木清一君） 答弁いいですね、今のは。はい。

4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 先ほどの答弁で、町長が土木費の機器のほう、建設費と間違っって土木費のほうで出てくる予算、環境省の道路の予算等、私は見当たらないので、それを1点お聞きします。

あと、今、町道も使うということになれば、皆さんの要は一時帰宅、どういうふうになるのですか。絶対迷惑かけませんかとか何とかと、結局迷惑かかるのですよね。町長は、町民のことを向いてそういう政策を決定しているのか、違うのかも教えてください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 菅野議員のご質問にお答えいたします。

まず、国が通る部分に関しては、国が当然そういった町道の補修に関してはするべきですし、それ以外の部分は町で対応していきたい、そういうふう考えております。

また、一時帰宅する町民の皆さんに迷惑のかからないように最大限の配慮をするように、国には申し入れしていきたいと思っております。

（議長これ、僕はどこの予算なんですかって聞いたんですけど）

と言う人あり)

○議長（佐々木清一君） ちょっと休議します。

休憩 午前10時33分

再開 午前10時34分

○議長（佐々木清一君） 会議に戻します。

町長、質問の足りない分答弁してください。

町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） どこの項目かというおただしでございませう。そのことにつきましては、67ページの15節工事請負費、町道全般補修工事ということで、国の修理保全以外の部分に関してということでございませう。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） 私たちは3日間勉強会で説明を受けました。その中ではそんな話は全然出てきていないですよね。ということは、勉強会の説明が誤っていた、もしくは説明しなかった。ここはもう十分聞いていますよね。その説明していませんよね。私たちに言ったのは、道路が本当に危ないところとかそういうところを直すということで、町道を直すという私たちは勉強会での説明を受けました。上の委託費に関しても草刈りを中心に、一時帰宅できるような、本当に危ないというところを直すというあれだったのですけれども、本当にここに入っているのですか。これ、町長、今答えたことはこれも要は中間貯蔵にかかわるとか、何かちょっとおかしくないですか。町道は町で補修する場所であって、町道を通らせるということイコール双葉町の町民の方の一時帰宅等とかそういうのすごく邪魔になるのですよ。そしたら別に道つくってもらえばいいではないですか。それを心配している方いっぱいいらっしゃるのですよ。まあ町長は、町民の話は聞かないで自分だけで勝手に決める執行者なのであれだと思いますけれども、そういうお話も聞かないで搬入までオーケー出してしまうので、関係ないのかなとは思っていますけれども、本当に町民のことを思っていますか。間違いなくこれはあれですよ、邪魔になるのですよ。町道以外でそういうふうにやってもらったほうがよろしいと思いますけれども、町長、お考えをお伺いします。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） ご質問にお答えいたします。

町道を国の除染物質を搬入する車が通ることによって、町民の皆さんの通行の妨げになるのではないかとおただしでございませう。そういったことにならないような取り組み、なるべく迷惑かけないような対応を国のほうに求めていくということと、専用道路ということでございませうが、このことにつきましては、大熊町もあることございませうから、大熊町とも協議しながら、その対応を検討していきたいと思ひます。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） ここは双葉町議会で大熊町議会とは関係ありませんので、そこら辺を町長、了承していただきたいと思います。なるべく迷惑かからないではなくて、事故とかそういうのが、では、あったときに、町長はどういう責任をとるのですか。きれいごとでは済まないのですよ、ちゃんと責任もとれない人が、ちゃんとその責任の所在まで言ってくださいよ、逆に。私が責任とりますということを書いてもらわなかったらどうしようもないでしょう、これでは。町民の方が迷惑しているのですよ。迷惑するのをわかっていて、執行者として伊澤史朗町長は搬入を受け入れたのですよ。町民の話も地権者の話も聞かないで、受け入れを自分の自己判断でしたのですよ。あなた1人の責任ですから、これね。一部の人間の話を書いて全体の話を書かないで。だから、それに対して責任はちゃんととっていただけるのですか。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） ご質問にお答えいたします。

まず、そういったことの町民の皆さんに迷惑のならないような最大限の配慮をするべく、国のほうに環境省のほうに取り組みを申し入れしたいと思います。

○議長（佐々木清一君） 土木費、そのほかありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第9款消防費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第10款教育費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第11款災害復旧費、80ページ。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第12款公債費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第13款諸支出金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第14款予備費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 100%反対ではないのですけれども、私の考え方では沿った予算とは言えず、私は賛成しかねます。

○議長（佐々木清一君） 4番、菅野博紀君。

○4番（菅野博紀君） この予算については、非常に疑問もありますが、町民、本当に職員の方々に非常にご迷惑をかけるようなものであってはならないと思いますので、苦渋の選択ですが、私はこの議案に賛成いたします。

○議長（佐々木清一君） そのほか討論ありますか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決いたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第37号 平成27年度双葉町一般会計予算を原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立多数）

○議長（佐々木清一君） 起立多数です。

よって、議案第37号は原案のとおり可決されました。

休議します。

休憩 午前10時41分

再開 午前11時00分

○議長（佐々木清一君） 会議に戻します。

◎議案第38号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第2、議案第38号 平成27年度双葉町国民健康保険特別会計予算を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は予算説明書で、款ごとに行います。

歳入から行います。3ページ。

第1款国民健康保険税。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第2款使用料及び手数料。

（「なし」と言う人あり）

- 議長（佐々木清一君） 第3款国庫支出金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第4款県支出金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第5款療養給付費交付金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第6款前期高齢者交付金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第7款共同事業交付金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第8款財産収入。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第9款繰入金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第10款繰越金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第11款諸収入。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 歳出に入ります。9ページ。
第1款総務費。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第2款保険給付費。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第3款後期高齢者支援金等。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第4款前期高齢者納付金等。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第5款老人保健拠出金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第6款介護納付金。
（「なし」と言う人あり）
- 議長（佐々木清一君） 第7款共同事業拠出金。
（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第8款保健事業費。
（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第9款基金積立金。
（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第10款諸支出金。
（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第11款予備費。
（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑ありませんか。
（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。
これで質疑を終わります。
これから討論を行います。討論ありませんか。
（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。
これで討論を終わります。
これより採決いたします。
この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第38号 平成27年度双葉町国民健康保険特別会計予算を原案のとおり決すること
に賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。
よって、議案第38号は原案のとおり可決されました。

◎議案第39号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第3、議案第39号 平成27年度双葉町公有林整備事業特別会計予算を
議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は予算説明書で、款ごとに行います。

歳入から行います。

第1款繰入金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 歳出に入ります。
第1款農林水産業費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第2款公債費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決いたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第39号 平成27年度双葉町公有林整備事業特別会計予算を原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第39号は原案のとおり可決されました。

◎議案第40号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第4、議案第40号 平成27年度双葉町公共下水道事業特別会計予算を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は予算説明書で、款ごとに行います。

歳入から行います。

第1款分担金及び負担金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第2款使用料及び手数料。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第3款繰入金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第4款繰越金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第5款諸収入。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 歳出に入ります。

第1款公共下水道事業費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第2款公債費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第3款予備費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決いたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第40号 平成27年度双葉町公共下水道事業特別会計予算を原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第40号は原案のとおり可決されました。

◎議案第41号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第5、議案第41号 平成27年度双葉町工業団地造成事業特別会計予算を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は予算説明書で、款ごとに行います。

歳入から行います。3ページ。

第1款使用料及び手数料。

6番、谷津田光治君。

○6番(谷津田光治君) これはどこにどういう内容の契約でお貸ししているのか、お聞かせください。

○議長（佐々木清一君） 町長、伊澤史朗君。

○町長（伊澤史朗君） 谷津田議員のご質問にお答えいたします。

復興推進課長に説明させます。

○議長（佐々木清一君） 駒田復興推進課長。

○復興推進課長（駒田義誌君） 谷津田議員のご質問に対してご説明申し上げます。

こちらの土地使用料につきましては、工業団地のうち町で持っている部分につきまして、東日本高速道路株式会社に対して土地の賃貸借契約を結びまして、常磐自動車道の建設工事の再開に当たりまして福島第一原発事故の影響によりまして使用不能となった建設機械、資材などの仮置き場として貸しているものでございます。

○議長（佐々木清一君） 6番、谷津田光治君。

○6番（谷津田光治君） 町民の方から、あれは建設資材ではないでしょうかというような指摘があったので、一時帰宅のときに確認してきました。課長は確認しておりますか。あなたの課の人に尋ねましたら、あれは資材ですという答えが返ってきましたので、資材かどうか確認しましたら、資材も一部はありましたけれども、資材であれば黒い袋に入れる必要はないと私は思っていたのですけれども、そういうように町民の皆さんから指摘されて、いや、そんなことないって突っ張るのはいいのですけれども、その後確認したら、あれは一部ごみもありましたということでは、町民の皆さんに指摘されるのはもっともですし、そういう契約をして使い方の内容もちゃんと記載しながら、ごみでは説明つかないです。あと幾らもしないうちに片づける時期が来るのであろうとは思いますが、まず素直に、町民の皆さんから聞かれたら素直にありのまま正直に答えてください。お願いしておきます。

○議長（佐々木清一君） そのほかありますか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第2款繰越金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 歳出に入ります。4ページ。

第1款諸支出金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第2款予備費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決いたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第41号 平成27年度双葉町工業団地造成事業特別会計予算を原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第41号は原案のとおり可決されました。

◎議案第42号の質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第6、議案第42号 平成27年度双葉町介護保険特別会計予算を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は予算説明書で、款ごとに行います。

歳入から行います。3ページ。

第1款保険料。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第2款使用料及び手数料。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第3款国庫支出金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第4款支払基金交付金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第5款県支出金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第6款財産収入。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第7款寄附金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第8款繰入金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第9款繰越金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第10款諸収入。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 歳出に入ります。7ページ。
第1款総務費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第2款保険給付費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第3款財政安定化基金拠出金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第4款地域支援事業費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第5款基金積立金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第6款諸支出金。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 第7款予備費。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決いたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第42号 平成27年度双葉町介護保険特別会計予算を原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第42号は原案のとおり可決されました。

◎議案第43号の質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第7、議案第43号 平成27年度双葉町後期高齢者医療特別会計予算を議題とします。

直ちに質疑に入ります。質疑は予算説明書で、款ごとに行います。

歳入から行います。

第1款後期高齢者医療保険料。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第2款使用料及び手数料。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第3款繰入金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第4款繰越金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第5款諸収入。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 歳出に入ります。

第1款総務費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第2款後期高齢者医療広域連合納付金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第3款保健事業費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第4款諸支出金。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 第5款予備費。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決いたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第43号 平成27年度双葉町後期高齢者医療特別会計予算を原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（起立全員）

○議長（佐々木清一君） 起立全員です。

よって、議案第43号は原案のとおり可決されました。

◎議案第44号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（佐々木清一君） 日程第8、議案第44号 双葉町行政手続条例の一部改正についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長、伊澤史朗君。

（町長 伊澤史朗君登壇）

○町長（伊澤史朗君） 議案第44号 双葉町行政手続条例の一部改正についてであります。行政手続法の一部が改正され、行政指導の中止等の求め及び処分等の求めに関する規定が設けられたことなどに伴い、町の条例において同様の規定を設ける必要があることから、改正するものです。

よろしくご審議をお願いいたします。

○議長（佐々木清一君） 提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありますか。

（「なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決をいたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。議案第44号 双葉町行政手続条例の一部改正についてを原案のとおり決することに

賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、議案第44号は原案のとおり可決されました。

◎発議第1号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長(佐々木清一君) 日程第9、発議第1号 双葉町議会委員会条例の一部改正についてを議題とします。

提出者より提案理由の説明を求めます。

提出者、白岩寿夫君。

(2番 白岩寿夫治君登壇)

○2番(白岩寿夫君) 提案理由。発議第1号の提案理由を申し上げます。

双葉町議会委員会条例の一部改正についてであります。教育委員長と教育長を一本化した新たな責任者を置くことなどを内容とする地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正及び地方自治法の一部改正に伴い、委員会条例の改正を行うものであります。

また、現在の教育長が在職する間は、従前の規定が適用されることとしております。

よろしく審議をお願いします。

○議長(佐々木清一君) 提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

(「なし」と言う人あり)

○議長(佐々木清一君) 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより採決いたします。

この採決は起立によって行います。

お諮りします。発議第1号 双葉町議会委員会条例の一部改正についてを原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

(起立全員)

○議長(佐々木清一君) 起立全員です。

よって、発議第1号は原案のとおり可決されました。

◎議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査について

○議長（佐々木清一君） 日程第10、議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の件を議題とします。

議会運営委員長から、会議規則第75条の規定によってお手元に配りました本会議の会期日程等議会の運営に関する事項について、閉会中の継続調査の申し出があります。

お諮りします。委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 異議なしと認めます。

よって、委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

◎議員派遣の件

○議長（佐々木清一君） 日程第11、議員派遣の件を議題とします。

お諮りします。お手元に配付した議員派遣の件のとおり、議員を派遣することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う人あり）

○議長（佐々木清一君） 異議なしと認めます。

よって、議員派遣の件のとおり、議員を派遣することに決定しました。

なお、議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例第6条第2項において、「議長、副議長及び議員が招集に応じ、本会議、委員会又は全員協議会に出席したときは、日額2,000円以内の費用弁償を支給する」と明記されております。平成18年度より現在まで日額500円とすることで運用されておりましたが、現状をかんがみ、平成27年度から日額2,000円とすることといたします。

◎閉会の宣告

○議長（佐々木清一君） 以上をもちまして、本日の日程は全部終了しました。

会議を閉じます。

これで平成27年第1回双葉町議会定例会を閉会します。

ご苦労さまでした。

（午前11時20分）

地方自治法第123条の規定によりここに署名する。

議 長 佐々木 清 一

署名議員 菅 野 博 紀

署名議員 清 川 泰 弘